

令和2年度 依存症に関する調査研究事業

「ギャンブル障害および ギャンブル関連問題の実態調査」 報告書 | 令和3年8月



独立行政法人国立病院機構

久里浜医療センター

目次

第1章 調査全体の概要	6
1.1 調査の背景・目的	6
1.2 調査の内容	8
(1) 本調査の全体像.....	8
(2) 調査(A)「ギャンブル等依存および関連する問題についての全国住民調査」概要.....	8
(3) 調査(B)「ギャンブル問題で相談機関や自助グループを利用する者の実態調査」概要.....	9
(4) 調査(C)「ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査」概要.....	9
1.3 企画委員会・ワーキンググループの設置	9
(1) 委員会の設置目的.....	9
(2) 委員会の役割・位置づけ.....	9
(3) 企画委員会委員運営体制.....	10
(4) 企画委員会開催内容.....	11
(5) ワーキンググループの目的.....	11
(6) ワーキンググループの役割・位置づけ.....	11
(7) ワーキンググループ運営体制.....	12
(8) ワーキンググループ開催内容.....	12
第2章 ギャンブル等依存および関連する問題についての 全国住民調査	13
2.1 調査目的	13
2.2 調査方法	13
(1) 調査対象.....	13
(2) 調査票の配布および回収時期.....	13
(3) 調査内容.....	14
(4) 調査票配布と回収方法, 謝礼.....	15
2.3 回収率および無効回答の定義	15
(1) 回答必須項目の設定.....	15
(2) 回答ミスの取り扱い.....	15
2.4 年齢調整方法	16
2.5 分析方法	16
2.6 調査結果	17
2.6.1 対象者の基本属性・背景情報	17
(1) 回答者の性別・年齢.....	17
(2) 婚姻状況.....	18
(3) 同居者の種類と同居人数.....	18
(4) 職業.....	19
(5) 仕事の種類.....	20
(6) 学歴.....	20
(7) 年収.....	21
2.6.2 ギャンブル行動	22
(1) ギャンブルの経験(生涯, 過去1年).....	22

(2) 経験したギャンブルの種類（生涯、過去1年）.....	23
(3) 公営競技：主な券の購入方法.....	24
(4) ギャンブルに費やすお金.....	25
(5) ギャンブル開始年齢.....	27
(6) ギャンブルに関する相談先.....	28
(7) 家族や重要な他者のギャンブル問題とその影響.....	29
2.6.3 「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合の推計	32
(1) SOGS（SOUTH OAKS GAMBLING SCREEN）による割合の推計.....	32
(2) PGSI（THE PROBLEM GAMBLING SEVERITY INDEX）による割合の推計.....	34
2.6.4 「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル行動	35
(1) SOGS 5点以上 - 過去1年間で経験したギャンブルの種類（男女別）.....	35
(2) 公営競技：主な券の購入方法（SOGS5点以上5点未満の比較）.....	36
(3) SOGS 5点以上 - 過去1年間で1カ月あたりにギャンブルに費やす金額（男女別）.....	37
(4) SOGS 5点以上 - 過去1年間最もお金をつぎこんだギャンブルの種類（男女別）.....	38
2.6.5 「ギャンブル等依存が疑われる者」における「ギャンブル関連問題」	39
(1) ギャンブル問題と抑うつ、不安との関連.....	39
(2) ギャンブル問題と希死念慮・自殺企図との関連.....	40
(3) ギャンブル問題と喫煙の関連.....	41
(4) ギャンブル問題と飲酒問題との関連.....	42
(5) ギャンブル問題と小児期逆境体験との関連.....	43
(6) ギャンブル問題と子育ての負担感との関連.....	44
2.6.6 ギャンブル等依存症対策およびギャンブル依存に関する認識および新型コロナの影響	46
(1) ギャンブル等依存症対策の認知度.....	46
(2) 依存症への考え方.....	47
(3) 新型コロナウイルス感染拡大とインターネットを使ったギャンブル.....	48
第3章 ギャンブル問題で相談機関や自助グループを利用する者の実態調査	50
3.1 調査目的	50
3.2 調査方法	50
(1) 調査対象施設の抽出.....	50
(2) 調査対象.....	50
(3) 調査回答期間.....	50
(4) 調査票名と調査内容.....	50
(5) 配布・回答・回収方法.....	51
(6) 分析方法.....	51
3.3 回収結果	51
3.4 データクレンジング基準の概要	52
(1) 有効票の基準.....	52
(2) 回答ミスの取り扱い.....	52
3.5 有効票の概要	53
(1) A票 当事者回答：有効票の概要.....	53

(2) B票 家族回答：有効票の概要.....	55
3.6 【A票】当事者回答の結果.....	57
3.6.1 対象者の基本属性.....	57
(1) 年齢・性別（当事者）.....	57
(2) 婚姻状況・同居家族（当事者）.....	59
(3) 職業・年収（当事者）.....	60
3.6.2 相談支援や国の制度の利用状況・行政に求める支援.....	61
(1) 公的相談機関や自助グループを利用したきっかけ（当事者）.....	61
(2) 相談支援機関の利用状況（当事者）.....	61
(3) 経済的な支援制度の利用状況（当事者）.....	62
(4) 行政に求める支援（当事者）.....	62
3.6.3 公的相談機関および自助グループを利用する者のギャンブル問題.....	63
(1) 過去1年のギャンブル経験とギャンブルの種類.....	63
(2) 過去1年のギャンブルの頻度・インターネットを使ったギャンブル.....	64
(3) 過去1年ギャンブルに使ったお金.....	65
(4) ギャンブルに関連した借金.....	66
(5) ギャンブルをするようになった経緯.....	66
(6) ギャンブル障害のスクリーニングテスト.....	67
3.6.4 過去1年ギャンブルをしていない理由.....	68
3.6.5 ギャンブラーズ・アノニマスの利用状況.....	69
3.6.6 公的相談機関を利用する当事者における関連問題.....	70
(1) 抑うつ・不安との関連（公的 - 当事者）.....	70
(2) 希死念慮・自殺企図との関連（公的 - 当事者）.....	71
(3) 小児期逆境体験との関連（公的 - 当事者）.....	72
(4) 触法行為との関連（公的 - 当事者）.....	73
(5) 養育困難との関連（公的 - 当事者）.....	74
(6) クロスアディクション（公的 - 当事者）.....	75
3.6.7 自助グループ有志における関連問題.....	76
(1) 抑うつ・希死念慮・自殺企図との関連（自助G）.....	76
(2) 小児期逆境体験との関連（自助G）.....	77
(3) 触法行為との関連（自助G）.....	77
(4) 養育困難との関連（自助G）.....	78
(5) クロスアディクション（自助G）.....	79
3.7 【B票】家族回答の結果概要.....	80
3.7.1 対象者の基本属性.....	80
(1) 性別・年齢（家族回答）.....	80
(2) 依存の問題がある当事者との関係（家族回答）.....	81
(3) 婚姻状況・同居家族（家族回答）.....	81
(4) 職業・世帯年収（家族回答）.....	82
3.7.2 相談や経済的支援制度の利用状況・行政に求める支援（家族）.....	84

(1) 公的相談機関や自助グループ利用のきっかけ（家族回答）.....	84
(2) 依存問題の相談経験（家族回答）.....	84
(3) 当事者の経済的な支援制度の利用経験（家族回答）.....	85
(4) 依存問題を抱える家族が要望する支援策や行政に期待すること.....	86
3.7.3 公的相談機関および自助グループを利用する家族が抱えるギャンブル問題	88
(1) 当事者の問題となっているギャンブルの種類.....	88
(2) 当事者のギャンブル問題から受けた影響.....	89
(3) 当事者がギャンブルのためにした借金額.....	89
(4) 当事者のギャンブルのためにした借金を立て替えた金額.....	89
(5) 当事者のギャンブルの停止状況.....	90
(6) 家族向け自助グループや家族会の利用経験.....	90
3.7.4 公的相談機関を利用する家族と関連問題	92
(1) 養育困難との関連（公的 - 家族）.....	92
(2) 子への虐待との関連（公的 - 家族）.....	93
(3) 小児期逆境体験との関連（公的 - 家族）.....	93
(4) 抑うつ・不安との関連（公的 - 家族）.....	94
(5) 希死念慮・自殺企図との関連（公的 - 家族）.....	94
(6) 依存問題のある当事者の触法行為（公的 - 家族）.....	95
3.7.5 ギャンブル家族向け自助グループ有志における関連問題	96
(1) 養育困難との関連（自助 G- 家族）.....	96
(2) 子への虐待との関連（自助 G- 家族）.....	96
(3) 小児期逆境体験との関連（自助 G- 家族）.....	96
(4) 抑うつ・不安との関連（自助 G- 家族）.....	97
(5) 希死念慮・自殺企図との関連（自助 G- 家族）.....	97
(6) 当事者の触法行為（自助 G- 家族）.....	98
第 4 章 ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査	99
4.1 調査目的	99
4.2 調査方法	99
(1) 調査対象.....	99
(2) 調査回答期間.....	100
(3) 調査票名・調査項目.....	100
(4) 配布・回答・回収方法.....	100
4.3 有効票の概要	101
4.4 調査結果	102
(1) 回答者の基本属性.....	102
(2) ギャンブルの実施状況確認.....	104
(3) ギャンブル問題が関与する相談の対応経験・紹介先.....	108
(4) ギャンブル問題が関与する相談の割合.....	113
(5) ギャンブル問題が関与する相談の認識・課題.....	115

第5章	まとめと考察	117
5.1	全国住民調査のまとめ	117
	(1) 国民のギャンブル行動	117
	(2) ギャンブル問題	117
	(3) ギャンブル等依存が疑われる者	117
	(4) ギャンブル関連問題	117
	(5) ギャンブル等依存症対策	118
	(6) 依存症に対する考え方	118
	(7) 新型コロナウイルス感染拡大の影響	118
5.2	ギャンブル問題で相談機関や自助グループを利用する者の実態調査のまとめ	118
	(1) 相談機関を訪れた当事者回答のまとめ	118
	(2) 自助グループ参加当事者回答のまとめ	119
	(3) 当事者における関連問題のまとめ	119
	(4) 家族回答のまとめ	120
5.3	ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査のまとめ	120
5.4	全体の考察	121
	(1) ギャンブル等依存が疑われる者の割合について	121
	(2) 住民調査におけるギャンブル関連問題について	123
	(3) ギャンブル等依存症への考え方、インターネットによるギャンブルについて	124
	(4) ギャンブル問題で公的相談機関や自助グループを利用する者の実態調査	124
	(5) ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査	125
おわりに		125
巻末資料		127
	企画委員会・ワーキンググループ構成員名簿	127
	(1) 企画委員会構成員（五十音順 敬称略）	127
	(2) ワーキンググループ構成員（五十音順 敬称略）	127
	(3) 関係省庁	127
	(4) 事務局	127
	(5) 報告書 執筆者一覧	128
	(6) 調査票一覧	128
	「娯楽と健康に関する調査」調査票	129
	さまざまな依存症におけるギャンブル問題の実態調査 A 票 ご本人用	141
	さまざまな依存症におけるギャンブル問題の実態調査 B 票 ご家族用	149
	相談機関におけるギャンブル問題実態調査	154

第1章 調査全体の概要

1.1 調査の背景・目的

ギャンブル等依存症とは、ギャンブル等依存症対策基本法（平成30年法律第74号）（以下、「基本法」という。）第2条に定められている法律用語である。基本法では、ギャンブル等にのめりこむことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態と定義される。また、第3条では、「ギャンブル等依存症対策を講ずるに当たっては、ギャンブル等依存症が、多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪等の問題に密接に関連することに鑑み、ギャンブル等依存症に関連して生ずるこれらの問題の根本的な解決に資するため、これらの問題に関する施策との有機的な連携が図られるよう、必要な配慮がなされるものとする」とされており、多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪等の問題は、ギャンブルに関連した問題と考えられている。このようにギャンブル等依存症は、医学的に定義された疾病とは異なる概念であるが、ギャンブル等依存症に相当する医学上の疾病としては、国際的な疾病分類である世界保健機関による疾病及び関連保健問題の国際統計分類の第10版 (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems : ICD-10) の「病的賭博」、米国精神医学会による DSM-5 (Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders) の「ギャンブル障害」があり、適切な治療や支援によって回復可能である。しかし、ギャンブル障害は、アルコール依存症や薬物依存症と同様に、治療や相談につながりにくいことが指摘されている。本人が治療を求めない理由として、自分で解決したいという希望および自分で解決できるという信念が最多と報告されており¹⁾、問題がありながらも、支援や治療を求めることが少ないため、ギャンブル等依存が疑われる者の割合や関連する問題への関与の程度など、ギャンブル等依存症の実態については、不明な点も少なくない。

基本法では、「政府は、三年ごとに、ギャンブル等依存症問題の実態を明らかにするため必要な調査を行うこととされ、平成31年4月に策定された「ギャンブル等依存症対策推進基本計画」（以下、「基本計画」）において、当該調査の令和2年度中の実施が定められている。

本調査は、基本法等で定められた実態調査という位置付けであり、今後の我が国におけるギャンブル等依存症対策を講じていく上での基礎資料として、現時点におけるギャンブル等依存が疑われる者の実態と、多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪等を含むギャンブル等依存症の関連問題の実態を明らかにすることを目的とする。

【用語の解説】

この報告書では、「ギャンブル」および「ギャンブル等依存症」という用語を下記の意味で用いる。

「ギャンブル」とは…金銭や品物などの財物を賭けて偶然性の要素が含まれる勝負を行い、その勝負の結果によって賭けた財物のやりとりをおこなう行為である。日本国内における競馬、競輪、競艇などの公営ギャンブルのほか、海外のギャンブル（カジノ、ブックメーカー等）や、違法ギャンブル（裏カジノ、賭け麻雀等）などが含まれる。パチンコ・パチスロも含む。

なお、本調査における具体的なギャンブルの種類は、あらかじめ調査票にリストとして提示した上で、ギャンブルに関連する質問を行った。下記に調査票より抜粋したギャンブルの種類を示す。この調査では、下の（ア）～（シ）の種目をギャンブルとした。

ア	パチンコ
イ	パチスロ
ウ	競馬
エ	競輪
オ	競艇
カ	オートレース
キ	宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）
ク	サッカーくじ
ケ	証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX
コ	インターネットを使ったギャンブル（競馬、競輪、競艇、オートレースを除く）
サ	海外のカジノ
シ	その他のギャンブル

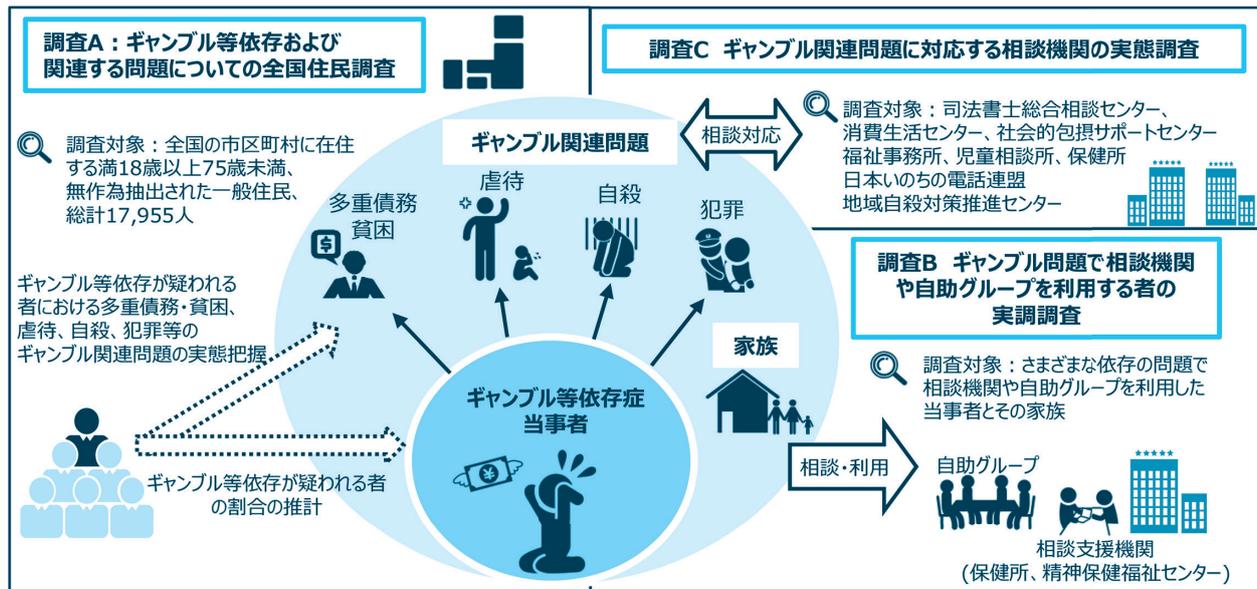
「ギャンブル等依存症」とは…基本法第2条において、ギャンブル等依存症とは、「ギャンブル等（法律の定めるところにより行われる公営競技、ぱちんこ屋に係る遊技その他の射幸行為をいう。）にのめり込むことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態」と定義している。本報告書では、基本法第2条に定める「ギャンブル等依存症」と、医学的疾患概念である「病的賭博（ICD10）」、「ギャンブル障害（DSM-5）」を同義として扱うこととする。

1.2 調査の内容

(1) 本調査の全体像

本調査は、現時点における「ギャンブル等依存が疑われる者」の実態と、多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪等を含むギャンブル等依存症に関連する問題の実態を明らかにすることを目的として、3種類の調査を実施した。図表 1-1 に本調査の全体像を示す。

図表 1-1 本調査の全体像



第一の調査として、全国の一般住民を対象とした「ギャンブル等依存および関連する問題についての全国住民調査」(以下、調査(A)という。)を実施した。第二の調査として、相談支援機関・関係団体への来訪者を対象にした「ギャンブルを含む依存の問題で相談機関や自助グループを利用する者の実態調査」(以下、調査(B)という。)を実施した。第三の調査として、相談支援機関・関係団体を対象とした「ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査」(以下、調査(C)という。)を実施した。次項より、それぞれの調査の内容について概説する。

(2) 調査(A)「ギャンブル等依存および関連する問題についての全国住民調査」概要

全国の市区町村に居住する満18歳以上75歳未満の日本国籍を有する者17,955人を対象として、自記式調査を実施し、ギャンブル経験の有無や種類、頻度、掛け金額、ギャンブル障害のスクリーニングテストによる「ギャンブル等依存が疑われる者の割合」の推計、ギャンブル問題に関連して生じる問題(ギャンブル関連問題)、重要な他者のギャンブル問題から受けた影響、コロナ禍でのインターネットを利用したギャンブルなどについて調査を実施した。

(3) 調査(B)「ギャンブル問題で相談機関や自助グループを利用する者の実態調査」概要

ギャンブル等依存症をはじめとし、さまざまな依存・嗜癖(薬物、アルコール依存、ネット・ゲーム)の問題のために、相談機関や自助グループを利用する者(当事者とその家族)を対象に、自記式調査を実施し、相談機関や自助グループを利用する者(当事者とその家族)の特徴やギャンブル関連問題

(多重債務, 貧困, 虐待, 自殺, 犯罪)の実態を調査した。なお, 調査内容は「当事者用」と「家族用」で内容を分けて調査を実施した。

「当事者用」のアンケートにおいては, 依存の問題の種類, ギャンブル関連問題の有無, ギャンブル経験の有無や種類, 頻度, 掛け金額, 自助グループの利用などについて調査を実施した。

「家族用」のアンケートにおいては, 当事者の依存の問題の種類, 当事者のギャンブル関連問題の有無, 当事者のギャンブル経験の有無や種類・頻度, 家族に生じた問題, 自助グループの利用などについて調査を実施した。

(4) 調査(C)「ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査」概要

「多重債務, 貧困, 虐待, 自殺, 犯罪」といったギャンブルに関連する問題の相談支援を担う機関(計10組織)を調査対象組織として, ギャンブル関連問題が背景に関与している相談の対応経験, また, そのような相談に対応する際の課題等について, 調査を実施した。

1.3 企画委員会・ワーキンググループの設置

(1) 委員会の設置目的

企画委員会は, 当事業の大方針の決定にあたり, 調査項目の要否・有意性, 調査の方法, 調査結果の分析手法, 調査結果の解釈等についての検討および助言を事務局に対して実施することを設置目的とする。

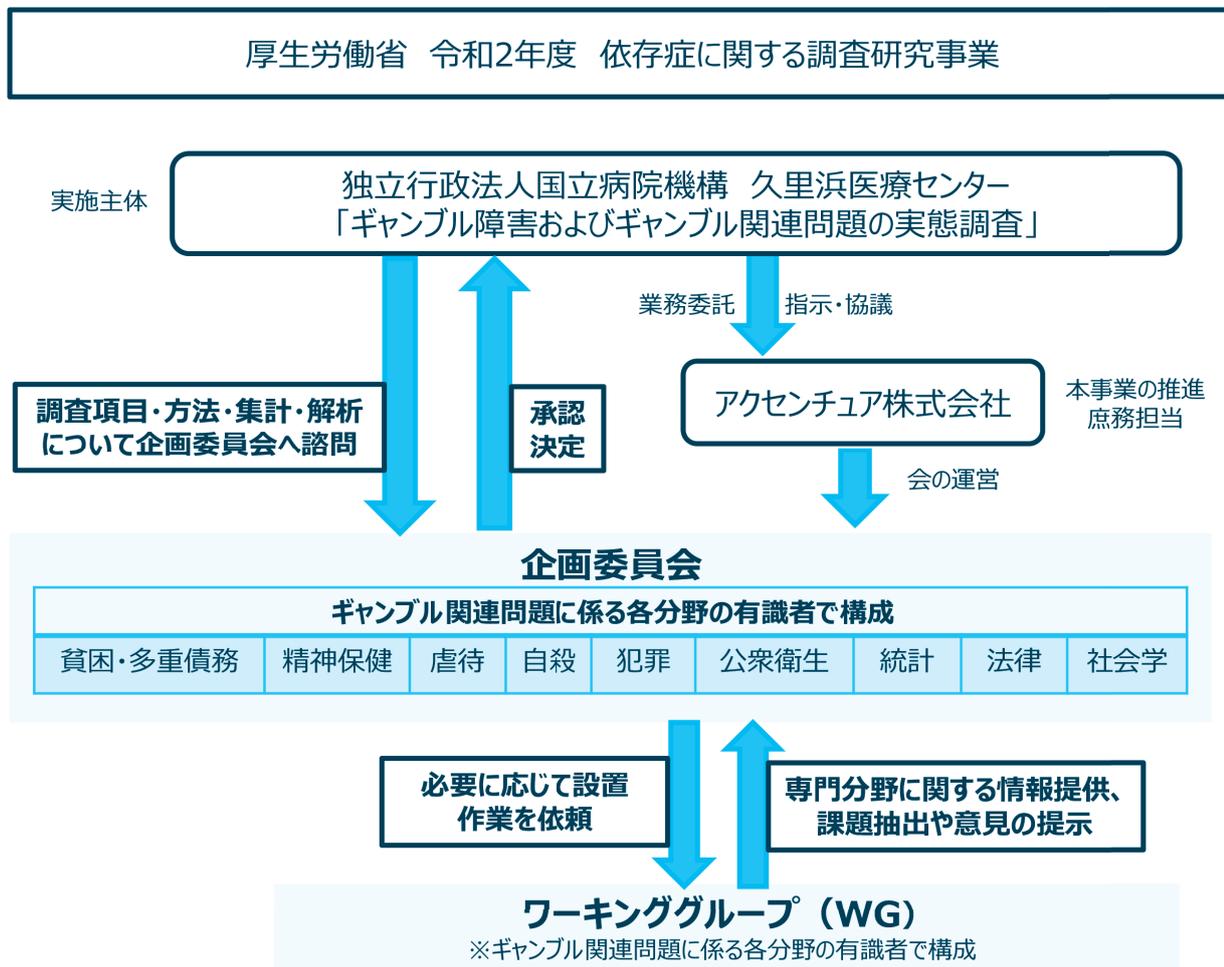
(2) 委員会の役割・位置づけ

企画委員会の役割・位置づけは, 事務局からの諮問に基づき, 大方針の決定, ワーキンググループにおける議論の確認と承認を行うことである。

(3) 企画委員会委員運営体制

ギャンブル等依存症問題に関する専門家、疫学調査、統計に関する専門家、関連問題に関する専門家で企画委員会を構成した¹⁾。

図表 1-2 企画委員会・ワーキンググループ・事務局の関係性



¹⁾ 構成員は、巻末資料「企画委員会・ワーキンググループ構成員名簿」を参照

(4) 企画委員会開催内容

企画委員会は第1回から第7回まで開催された。各回の開催内容は図表1-3の通りである。

図表1-3 各回企画委員会の実施内容概要

会議名	開催日	議事内容
第1回 企画委員会	令和2年7月31日	<ul style="list-style-type: none"> 趣旨説明および構成員紹介 座長の選出 企画委員会・ワーキンググループ(WG)の位置づけ、進め方 調査(A) 調査項目全体構成検討, 調査票素案への意見, コメント 調査(B) 調査手法
第2回 企画委員会	令和2年8月21日	<ul style="list-style-type: none"> ギャンブル問題を考える会からの本調査に関する意見の紹介 第1回企画委員会 宿題事項報告(調査(A) 調査項目案の修正・追加箇所の確認) 調査実施に必要な諸手続きの確認(倫理審査等) 調査(B)の調査手法, 調査対象, 調査内容・ボリューム 調査(C)の調査手法, 調査対象, 調査内容・ボリューム
第3回 企画委員会	令和2年9月30日	<ul style="list-style-type: none"> 調査(A) 状況報告 調査(B)の調査手法, 調査対象についての確認 調査(B)の調査項目・ボリュームについてのコメント 調査(C)の調査手法, 調査対象についての確認 調査(C)の調査項目・ボリュームについてのコメント
第4回 企画委員会	令和3年2月2日	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経緯の振り返りと今後のスケジュール 調査(B) 回収数(速報値)の報告 調査(C) 回収数(速報値)の報告 調査(A) データクレンジング基準等の確認 調査(A) 集計結果報告・結果協議
第5回 企画委員会	令和3年2月17日	<ul style="list-style-type: none"> 調査(B) データクレンジング基準・分析計画案等の確認 調査(B) 速報値確認・審議事項討議 調査(C) 分析計画案の確認 調査(C) 速報値確認・審議事項討議 調査(A) 審議事項討議
第6回 企画委員会	令和3年3月9日	<ul style="list-style-type: none"> 調査(A) : SOGSによるギャンブル等依存が疑われる者の推計に関して追加検討事項 調査(A) : 報告書骨子案の確認と検討 今後の進め方
第7回 企画委員会	令和3年3月23日	<ul style="list-style-type: none"> 調査(B) 集計結果概要の報告・および意見 今回調査の課題・次回以降の調査に向けて報告・および意見 今後の報告書作成に向けた進め方

(5) ワーキンググループの目的

ワーキンググループは、ギャンブル等依存症とその関連問題(「虐待」「貧困・多重債務」「自殺」「犯罪」との関連性、各組織間の連携実態把握に向けて、調査項目の要否・有意性、調査の方法、調査結果の分析手法、調査結果の解釈の検討および助言を事務局に対して実施することを目的とする。

(6) ワーキンググループの役割・位置づけ

ワーキンググループの役割・位置づけは、企画委員会からの依頼を受け、「虐待」「貧困・多重債務」「自殺」「犯罪」関連問題におけるギャンブル等依存症との関連性、各組織間の連携実態把握等のための調査方法・対象の適正性の議論を行うことである。

(7) ワーキンググループ運営体制

ワーキンググループ委員はギャンブル等依存症問題に関する専門家、公衆衛生、統計、依存症、貧困・多重債務、虐待、自殺、犯罪に関する専門家について、企画委員会委員の推薦を基に、事務局で審議の上決定を行った²⁾。

(8) ワーキンググループ開催内容

ワーキンググループは第1回から第6回まで開催された。各回の開催内容は下記の通りである。

また、調査結果の分析にあたり、分析計画、データクレンジング基準、集計方法等について意見を求めた。

図表 1-4 各回ワーキングの実施内容概要

会議名	開催日	議事内容
第1回 ワーキング グループ	令和2年8月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・調査概要説明および構成員紹介 ・座長の選出 ・企画委員会・ワーキンググループの位置づけ、進め方 ・貧困・多重債務とギャンブル等依存症の関係に関して概況説明 ・調査(B) 調査手法, 調査項目案への意見, コメント ・調査(C) 調査手法, 調査項目案への意見, コメント
第2回 ワーキング グループ	令和2年8月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪とギャンブル等依存症の関係に関して概況説明 ・調査(B) 調査手法, 調査項目案への意見, コメント ・調査(C) 調査手法, 調査項目案への意見, コメント
第3回 ワーキング グループ	令和2年8月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺とギャンブル等依存症の関係に関して概況説明 ・調査(B) 調査手法, 調査項目案への意見, コメント ・調査(C) 調査手法, 調査項目案への意見, コメント
第4回 ワーキング グループ	令和2年8月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待とギャンブル等依存症の関係に関して概況説明 ・調査(B) 調査手法, 調査項目案への意見, コメント ・調査(C) 調査手法, 調査項目案への意見, コメント
第5・6回 ワーキング グループ ³⁾	令和2年9月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・調査(B) 調査手法の確認 ・調査(B) 調査票への意見・確認 ・調査(C) 調査手法の確認 ・調査(C) 調査項目案への意見・確認
ワーキング グループ (書面開催)	令和2年12月29日～ 令和3年1月11日	・調査(A) 分析計画案への意見, コメント
	令和3年1月14日～ 令和3年1月27日	・調査(A) データクレンジング基準への意見, コメント
	令和3年2月24日～ 令和3年3月6日	・調査(A) 年齢調整を実施する分析項目への意見, コメント
	令和3年3月15日～ 令和3年3月17日	・調査(B) の集計方法(集計区分の方針)への意見, コメント

²⁾ 構成員は、巻末資料「企画委員会・ワーキンググループ構成員名簿」を参照

³⁾ 第5回と第6回のワーキンググループは同一日に開催した。

第2章 ギャンブル等依存および関連する問題についての 全国住民調査（調査A）

2.1 調査目的

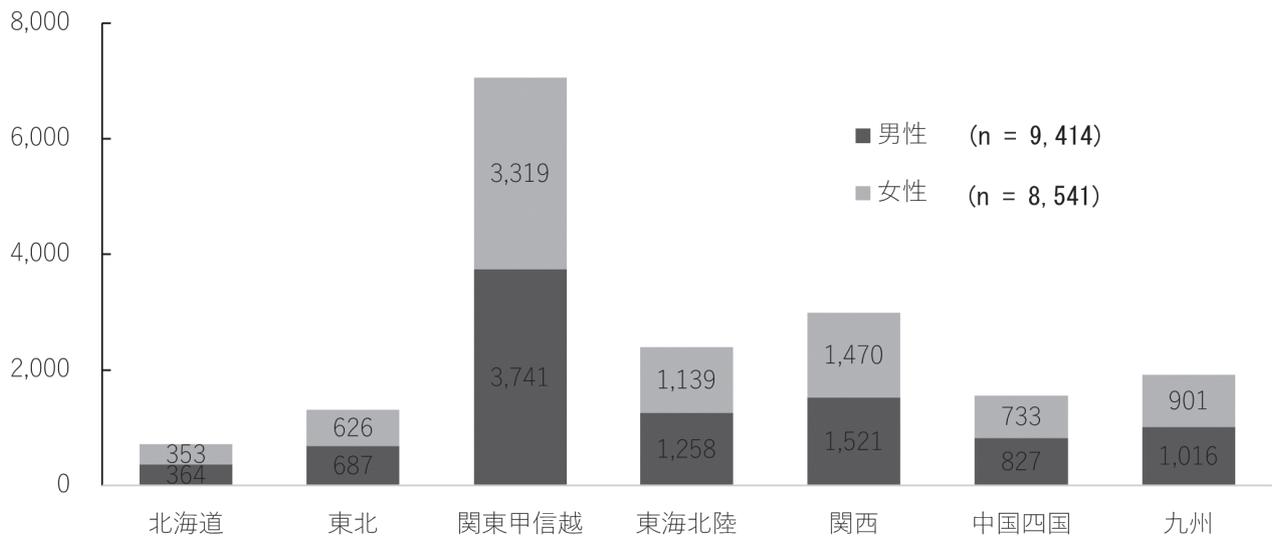
一般住民における「ギャンブルの経験」や「ギャンブル行動」の実態、および「ギャンブル等依存が疑われる者の割合の推計」を明らかにする。さらに、「ギャンブル等依存が疑われる者」における、ギャンブル関連問題（多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪）の実態を明らかにすることを目的として調査を実施した。

2.2 調査方法

（1）調査対象

調査対象者は、全国の市区町村 300 地点に在住する満 18 歳以上 75 歳未満の日本国籍を有する者（日本国籍を有する海外出身者を含む）から、層化二段無作為抽出法を用いて 17,955 人を抽出した。抽出されたサンプルの地域別対象者数および性別の内訳を図表 2-1 に示す。

図表 2-1 地域別調査対象者数および性別の内訳



（2）調査票の配布および回収時期

令和2年10月22日～令和2年12月16日

（3）調査内容

調査票名：「娯楽と健康に関する調査」

調査項目

①基本属性・背景情報

性別，年齢，婚姻状況，同居者，職業，学歴，年収等

②ギャンブル行動

- ・生涯・過去1年間のギャンブル経験の有無
- ・生涯・過去1年間に経験したギャンブルの種類，頻度，ギャンブルに使う金額等

③ギャンブル関連問題

- ・借金に関する質問
- ・子育ての負担感，小児期逆境体験
- ・希死念慮・自殺企図の有無
- ・抑うつ・不安のスクリーニングテスト（Kessler6: K6）

④ギャンブル障害のスクリーニングテスト

- ・ SOGS, PGSI, NODS-CLIP

<本研究で用いたギャンブル障害のスクリーニングテストの概要>

◆ SOGS (South Oaks Gambling Screen)

アメリカのサウスオークス財団が開発した病的ギャンブラーを検出するための自記式スクリーニングテストである。原版の質問数は16問だが，点数にはならない質問が4問含まれている。ギャンブル障害に関する国内外の疫学調査で数多く採用されており，わが国では，2008年，2013年，2017年の全国調査で用いられた。得点範囲は0点～20点で，本報告書では，SOGS合計得点が5点以上の者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。

◆ PGSI (The Problem Gambling Severity Index)

9項目からなる自記式のスクリーニングテストで，地域住民を対象とした疫学調査で用いることを目的に開発された。得点範囲は0点～27点で，本研究では，PGSIで8点以上を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。

◆ NODS-CLIP ※ NODS (The NORC DSM- IV Screen for Gambling Problems) の簡易版

「コントロールの喪失」，「うそ」，「没頭」に関する3項目で構成され，DSM- IVの診断基準を基に開発されたギャンブル障害のスクリーニングテストであるNODSの短縮版である。いずれか1つ以上の項目に該当した場合に，ギャンブル障害のためのより詳しいスクリーニングテストを実施することが推奨される。※NODS-CLIPは，次回以降の実態調査に向けた予備調査として実施された。そのため，本報告書における結果掲載は割愛した。

【調査票における質問19，20，21が該当】

⑤クロスアディクション

- ・ギャンブル問題と喫煙・アルコール問題（AUDIT-C）との関連

⑥その他

- ・ギャンブル依存症対策の認知度
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴うギャンブル行動の変化
- ・依存症などの疾患に対する意見
- ・ギャンブル問題に関する相談先
- ・重要な他者のギャンブル問題の有無と、重要な他者のギャンブル問題から受けた影響 等

（4）調査票配布と回収方法、謝礼

調査票は、対象者の住民基本台帳に登録のある居住地宛に、回答案内（Web 回答の案内を含む）と調査票、返送用封筒を送付した。

なお、回答方法は、下記いずれかを調査対象者が任意に選択できる形式とした。

- ① 紙の調査票に回答して返送する形式（郵送回答）
- ② インターネット経由で Web 回答する形式（Web 回答）

回答者への謝礼として、QUO カードまたは、QUO カード Pay500 円分を進呈した。

2.3 回収率および無効回答の定義

総回収数は 8,469 票（郵送回答：5,237 票、Web 回答：3,232 票）、回収率は 47.2%であった。有効票は 8,223 票（郵送回答：5,120 票、Web 回答：3,103 票）、有効回答率は 45.8%であった。以下に該当した 246 票は無効票とした。

- ① 住民基本台帳の性別と、調査対象者が実際に回答した性別が異なるもの
- ② 年齢が、調査対象年齢外である 18 歳未満と回答しているもの
- ③ 郵送回答と Web 回答の両方に重複して回答しているもののうち、回答受領時期が遅かったもの

（1）回答必須項目の設定

性別・年齢を回答必須項目とし、これらの項目に「無回答」、「答えたくない」と回答した場合は、住民基本台帳から抽出した当該回答者の情報を採用した。

（2）回答ミスの取り扱い**ア 年齢・性別の回答ミス**

回答された性別が住民基本台帳の情報と異なるものは、無効回答票とした。

また、回答した年齢が住民基本台帳の情報と異なる場合、住民基本台帳の情報と調査回答開始日から算出した年齢を採用した。ただし、回答した年齢が、調査対象年齢を下回る（18 歳未満）の場合は無効回答票とした。

イ 単一選択設問に複数選択している場合

単一選択すべき設問に、複数選択している場合は、原則不適切回答として集計から除外した。ただし、下記の場合は、有効回答として集計対象に含めた。

- ・例 1：「答えたくない」とそれ以外の選択肢を選択している場合、それ以外の選択肢を優先
- ・例 2：問 4 で「一人暮らし」とそれ以外の選択肢を選択している場合、「一人暮らし」を優先

ウ 数値を答える質問における異常値

年齢や金額等について、選択肢ではなく数値を回答する設問では、論理的に説明が付かない数値や、社会常識から想定されない数値等の場合は異常値とみなし、集計から除外した。

エ 設問間の矛盾

関連性のある複数の設問間で矛盾する内容の回答をしている場合は、質問ごとに、下記のいずれかの処理を実施した。

- ・不適切回答として集計の対象外とする。
- ・どちらかの設問を正とし、もう片方の設問を訂正して集計対象とする。

2.4 年齢調整方法

「ギャンブル等依存が疑われる者の割合の推計」にあたり、本調査で得られた SOGS 得点および PGSI 得点の分布について、年齢階級ごとの回答者数の偏りを人口で補正し、「年齢調整後の割合」を算出した。

年齢調整方法は、20～74歳の回答者については、令和元年10月1日現在人口⁴⁾を基準として、性別・年齢階級別（5歳区分）、直接法にて年齢調整を実施した。また、18～19歳の回答者は、同様の令和元年10月1日現在人口を基準として、18～19歳を1区分、性別、直接法にて年齢調整を実施した。

2.5 分析方法

一部の質問結果の解析には、男女差および、SOGS 得点による「ギャンブル等依存が疑われる者」とそうでない者における傾向の違いを検証するために、 χ^2 検定を用いた。

⁴⁾ 総務省統計局 人口推計 各年10月1日現在人口 2019年版

2.6 調査結果

以下、「娯楽と健康に関する調査」調査票の設問ごとに結果の概要を示す。

結果の見方の留意点：質問によって集計対象の総サンプル数が有効票（8,223票）と異なる場合がある。その際は図表の下に集計したサンプル数や除外理由を示した。また、質問には、調査対象者全員に尋ねる質問と、選んだ選択肢によって一部の該当者のみ答える質問がある。

2.6.1 対象者の基本属性・背景情報

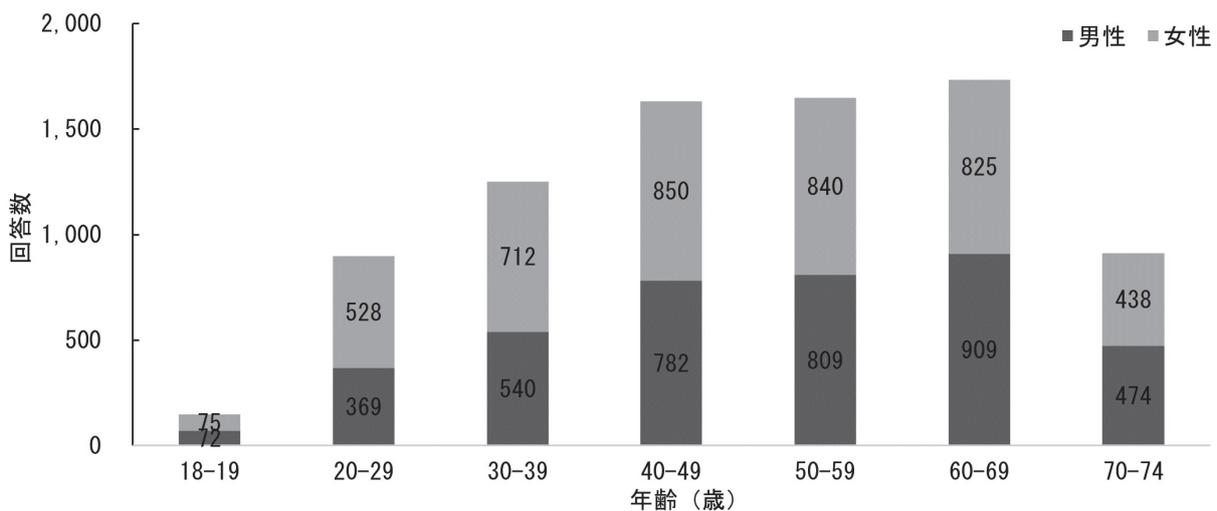
（1）回答者の性別^{5）}・年齢

【問1】あなたの性別を教えてください。（単一選択）

【問2】あなたの年齢を教えてください。（単一選択）

男性が3,955名（48.1%）、女性が4,268名（51.9%）で、男性の平均年齢は50.9歳（標準偏差15.2歳）、女性の平均年齢は48.6歳（標準偏差15.4歳）であった。総務省統計局人口推計令和元年10月1日人口^{6）}より算出した性別人口比、年齢階級別人口比と同等の分布が得られた。（図表2-2）

図表2-2 回答者の性・年齢



^{5）} 【問1】で「答えたくない」と回答した者は、住民基本台帳上の情報を採用した。

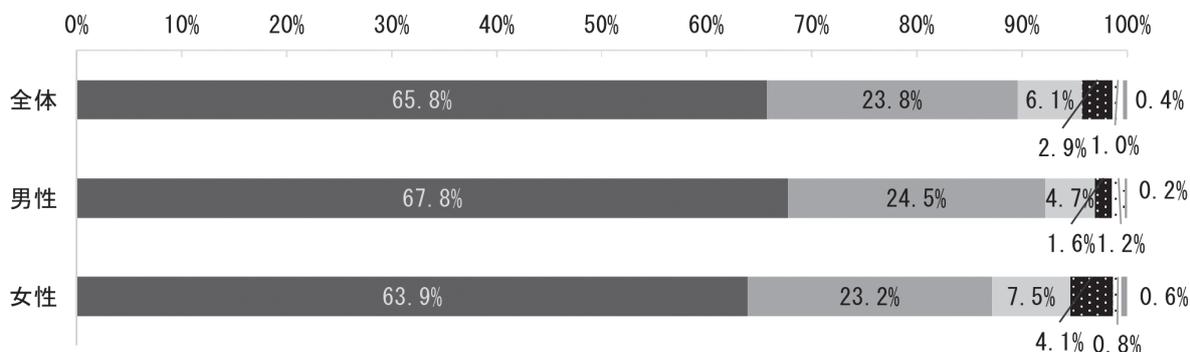
^{6）} 総務省統計局 人口推計 各年10月1日現在人口 2019年版

（2）婚姻状況

【問3】【婚姻歴】 あなたは現在、結婚されていますか。
あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。（単一選択）

全体の65.8%が「結婚している」で最も多く、「未婚」は23.8%、「離婚した」は6.1%であった。
（図表2-3）

図表2-3 全体・性別の婚姻歴



■結婚している ■未婚（結婚したことがない） ■離婚した ■死別した ■内縁関係（配偶者のような関係） ■別居中

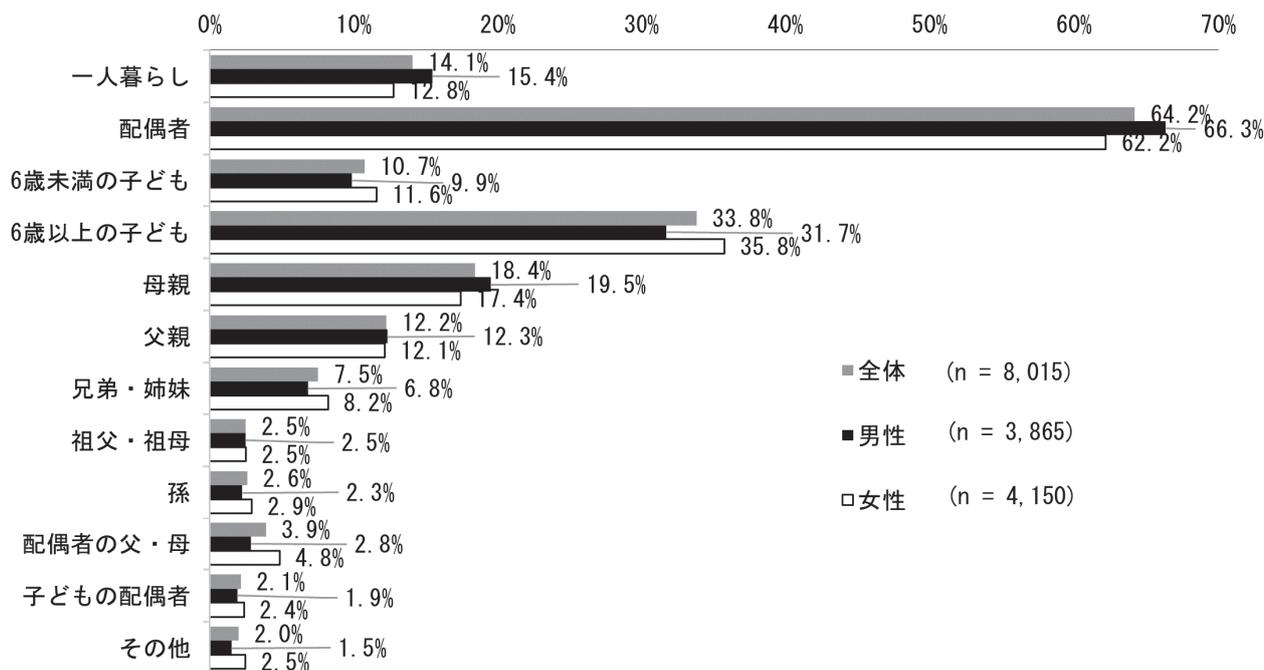
※問3集計から除外：設問内矛盾（n=7）（2つ以上選択），無回答（n=20），答えたくない（n=139）

（3）同居者の種類と同居人数

【問4】【同居者】 あなたは現在、だれと住んでいますか。（複数選択）

配偶者（64.2%）や6歳以上の子ども（33.8%）と同居している者が多く，一人暮らしは全体の14.1%であった。（図表2-4）

図表2-4 全体・性別の同居者



※問4集計から除外：設問内矛盾（n=1）（「答えたくない」とそれ以外の選択肢を選択），無回答（n=39），答えたくない（n=168）

【問5】【同居人数】現在のお住まいと一緒に暮らしている方は、あなたご自身を含めて何人いますか。

同居人数について、1人（14.2%）、2人（29.3%）、3人（24.7%）、4人（19.7%）であった。

（図表2-5）

参考値：直近の国勢調査による一般世帯の世帯人員の割合⁷⁾は、1人（34.5%）、2人（27.9%）、3人（17.6%）、4人（13.3%）、5人（4.5%）、6人（1.5%）、7人以上（0.7%）であった。

図表2-5 同居人数

同居人数（本人含む）	男性	女性	全体
1人	614 (15.7%)	536 (12.7%)	1,150 (14.2%)
2人	1,138 (29.0%)	1,242 (29.5%)	2,380 (29.3%)
3人	955 (24.4%)	1,056 (25.1%)	2,011 (24.7%)
4人	750 (19.1%)	851 (20.2%)	1,601 (19.7%)
5人	275 (7.0%)	334 (7.9%)	609 (7.5%)
6人	119 (3.0%)	114 (2.7%)	233 (2.9%)
7人	43 (1.1%)	52 (1.2%)	95 (1.2%)
8人	16 (0.4%)	9 (0.2%)	25 (0.3%)
9人	5 (0.1%)	10 (0.2%)	15 (0.2%)
10人以上	5 (0.1%)	3 (0.1%)	8 (0.1%)
計	3,920 (100.0%)	4,207 (100.0%)	8,127 (100.0%)

※問5集計から除外：設問間矛盾（n=3）（問4で1人暮らしと回答しているのに問5で2人以上を回答）、設問内矛盾（n=1）（0人と回答）、無回答（n=92）

（4）職業

【問6】【職業】現在のあなたの職業を教えてください。（単一選択）

男性の就業者では「正社員・正職員」51.8%、「自営・自由業者・経営者（家族従業を含む）」14.4%、「契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト」12.9%の順で回答した割合が高かった。非就業者では「無職（退職者、今後就業予定のない者）」が12.8%であった。女性の就業者では、「契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト」29.8%、「正社員・正職員」28.6%であった。「専業主婦」は21.0%であった。（図表2-6）

図表2-6 職業

職業	男性	女性	全体
正社員・正職員	2,020 (51.8%)	1,197 (28.6%)	3,217 (39.8%)
契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト	502 (12.9%)	1,247 (29.8%)	1,749 (21.6%)
専業主婦・専業主夫	7 (0.2%)	882 (21.0%)	889 (11.0%)
自営・自由業者・経営者（家族従業を含む）	562 (14.4%)	303 (7.2%)	865 (10.7%)
無職（退職者、今後就業予定のない者）	500 (12.8%)	248 (5.9%)	748 (9.2%)
学生	138 (3.5%)	152 (3.6%)	290 (3.6%)
無職（求職中、失業中、進路未定を含む）	123 (3.2%)	111 (2.6%)	234 (2.9%)
その他	47 (1.2%)	50 (1.2%)	97 (1.2%)
計	3,899 (100.0%)	4,190 (100.0%)	8,089 (100.0%)

※問6集計から除外：設問内矛盾（n=7）（2つ以上選択）、無回答（n=66）、答えたくない（n=61）

⁷⁾ 「平成27年国勢調査結果」（総務省統計局）

（5）仕事の種類

【問8】【仕事の種類】あなたはどのような種類の仕事をしていますか。（単一選択）

就業者における職種は、男性は「専門・技術職」23.1%、「生産現場・技能職」19.9%、「管理職」13.1%の順で割合が高かった。女性では「事務職」27.5%、「専門・技術職」26.4%、「サービス職」14.7%の順で割合が高かった。（図表 2-7）

図表 2-7 仕事の種類

仕事の種類	男性	女性	全体
専門・技術職	707 (23.1%)	722 (26.4%)	1,429 (24.7%)
事務職	344 (11.2%)	750 (27.5%)	1,094 (18.9%)
生産現場・技能職	609 (19.9%)	143 (5.2%)	752 (13.0%)
販売職	299 (9.8%)	347 (12.7%)	646 (11.1%)
サービス職	201 (6.6%)	402 (14.7%)	603 (10.4%)
管理職	400 (13.1%)	56 (2.1%)	456 (7.9%)
運輸・保安職	258 (8.4%)	27 (1.0%)	285 (4.9%)
農・林・漁業	71 (2.3%)	48 (1.8%)	119 (2.1%)
その他	176 (5.7%)	234 (8.6%)	410 (7.1%)
計	3,065 (100.0%)	2,729 (100.0%)	5,794 (100.0%)

※問8 集計から除外：設問間矛盾（n=642）（問6で就業者と回答していないのに問8で職種を選択している）、設問内矛盾（n=6）（2つ以上選択）、無回答（n=1,682）、答えたくない（n=99）

（6）学歴

【問7】【最終学歴】あなたの最終学歴を教えてください。（単一選択）

男性では「大学卒業」36.6%、女性では「高校・高専卒業」35.2%と回答した割合が高かった。（図表 2-8）

図表 2-8 最終学歴

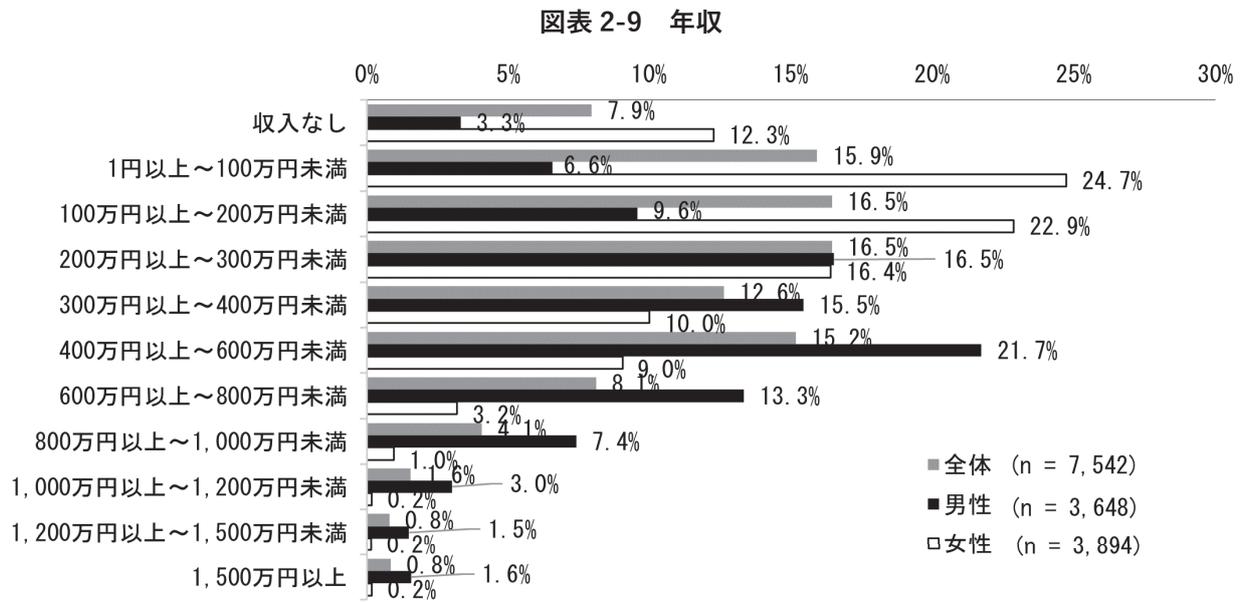
最終学歴	男性	女性	全体
高校・高専卒業	1,296 (33.2%)	1,480 (35.2%)	2,776 (34.2%)
大学卒業	1,430 (36.6%)	936 (22.2%)	2,366 (29.2%)
短大・専門学校卒業	412 (10.6%)	1,232 (29.3%)	1,644 (20.3%)
中学校卒業	225 (5.8%)	184 (4.4%)	409 (5.0%)
高校・高専中退	167 (4.3%)	142 (3.4%)	309 (3.8%)
大学院修了	200 (5.1%)	74 (1.8%)	274 (3.4%)
大学中退	106 (2.7%)	40 (1.0%)	146 (1.8%)
短大・専門学校中退	24 (0.6%)	91 (2.2%)	115 (1.4%)
大学院中退	13 (0.3%)	8 (0.2%)	21 (0.3%)
その他	31 (0.8%)	20 (0.5%)	51 (0.6%)
計	3,904 (100.0%)	4,207 (100.0%)	8,111 (100.0%)

※問7 集計から除外：設問内矛盾（n=8）（2つ以上選択）、無回答（n=51）、答えたくない（n=53）

（7）年収

【問 11】【税込み年収】 あなたの税込み年収は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ全体額でお答えください。（単一選択）

男性では「400万円以上～600万円未満」21.7％、女性では「1円以上～100万円未満」24.7％と回答した割合が高かった。（図表 2-9）



※問 11 集計から除外：設問内矛盾 (n=3) (2 つ以上選択), 無回答 (n=249), 答えたくない (n=197), わからない (n=232)

2.6.2 ギャンブル行動

(1) ギャンブルの経験（生涯、過去1年）

【問12】あなたはこれまでにギャンブルをしたことがありますか。（複数選択）

ギャンブルを生涯において経験したことがあると回答した割合（生涯ギャンブル経験あり）は、全体の74.5%（男性の84.1%、女性の65.7%）であった。過去1年間にギャンブルを経験した割合は、全体の33.6%（男性の45.0%、女性の22.9%）であった（図表2-10・図表2-11）。年代別で見ると、生涯ギャンブル経験率が高いのは、40歳-49歳（84.9%）、50-59歳（83.1%）であった。さらに、年代別の過去1年でのギャンブル経験率が最も高かったのは、50-59歳（40.7%）であった（図表2-12）。

図表 2-10 ギャンブル経験の有無（生涯・過去1年）

生涯ギャンブル経験なし	生涯ギャンブル経験あり	
	2,093人 (25.5%)	6,130人 (74.5%)
過去1年ギャンブル経験あり		過去1年ギャンブル経験なし
2,759人 (33.6%)		3,371人 (41.0%)

※【問12】に無回答の者(n=109)は、「生涯ギャンブル経験なし」として扱った。

※(%)はn=8,223における割合

図表 2-11 男女別ギャンブル経験率（生涯、過去1年）

	生涯ギャンブル経験あり	過去1年のギャンブル経験あり
男性 (n=3,955)	3,328 (84.1%)	1,781 (45.0%)
女性 (n=4,268)	2,802 (65.7%)	978 (22.9%)
全体 (n=8,223)	6,130 (74.5%)	2,759 (33.6%)

※【問12】に無回答の者(n=109)は、「生涯ギャンブル経験なし」として扱った。

※(%)はn=8,223における割合

図表 2-12 年代別ギャンブル経験率（生涯、過去1年）

年齢区分 (n=有効票数)	生涯ギャンブル経験あり	過去1年ギャンブル経験あり
18-19歳 (n=147)	22 (15.0%)	10 (6.8%)
20-29歳 (n=897)	452 (50.4%)	216 (24.1%)
30-39歳 (n=1,252)	939 (75.0%)	433 (34.6%)
40-49歳 (n=1,632)	1,386 (84.9%)	568 (34.8%)
50-59歳 (n=1,649)	1,370 (83.1%)	671 (40.7%)
60-69歳 (n=1,734)	1,342 (77.4%)	611 (35.2%)
70-74歳 (n=912)	619 (67.9%)	250 (27.4%)
全体 (n=8,223)	6,130 (74.5%)	2,759 (33.6%)

※【問12】に無回答の者(n=109)は、「生涯ギャンブル経験なし」として扱った。

※(%)は、各年代の有効票に占める割合

（2）経験したギャンブルの種類（生涯、過去1年）

【問13】【問12】で○をつけたギャンブルについて、過去1年間はどのくらいの頻度で行っていましたか。（各項目単一選択）

【経験したギャンブルの種類（生涯、過去1年）と過去1年間の実施頻度】

生涯で経験したギャンブルの種類は、「宝くじ（ロト・ナンバーズ等を含む）」63.7%、「パチンコ」50.3%、「競馬」29.4%、「パチスロ」22.7%の順で割合が高かった。

（%は有効票全体 n=8,114 に占める割合）

各種ギャンブルのうち、「過去1年間に経験した」と回答した人数が多いのは「宝くじ（ロト・ナンバーズ等を含む）」（n=1,887）、「パチンコ」（n=669）、「パチスロ」（n=433）であった。

なお、各種ギャンブルについて、生涯に1度以上経験があると回答した者が、過去1年間に当該ギャンブルを実施している割合を算出したところ、「インターネットを使ったギャンブル（競馬、競輪等を除く）」49.2%、「証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX」41.8%、宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）36.5%の順で高かった。

また、ギャンブルの種類ごとに、過去1年間ににおける実施頻度を尋ねたところ、週1回以上実施したと回答した人数が多いのは、「宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）」（n=241）、「パチンコ」（n=171）、「パチスロ」（n=104）、「競馬」（n=101）であった。（図表 2-13）

図表 2-13 経験したギャンブルの種類（生涯と過去1年間）と過去1年間の頻度

ギャンブルの種類	各種ギャンブルの生涯における経験と過去1年間の経験の有無 【単位：人数（%）】				過去1年間にギャンブル経験がある者におけるギャンブル実施頻度 【単位：人数】	
	生涯経験あり (全体 (8,114 名) に占める人数と割合)	過去1年間の経験 (生涯経験ある者における割合)			週1回未満	週1回以上
		経験あり	経験なし	無回答		
パチンコ	4,080(50.3%)	669(16.4%)	3,296(80.8%)	115(2.8%)	498	171
パチスロ	1,845(22.7%)	433(23.5%)	1,365(74.0%)	47(2.5%)	329	104
競馬	2,385(29.4%)	406(17.0%)	1,896(79.5%)	83(3.5%)	305	101
競輪	444(5.5%)	40(9.0%)	374(84.2%)	30(6.8%)	35	5
競艇	632(7.8%)	91(14.4%)	513(81.2%)	28(4.4%)	76	15
オートレース	192(2.4%)	18(9.4%)	156(81.3%)	18(9.4%)	17	1
宝くじ (ロト・ナンバーズ等も含む)	5,168(63.7%)	1,887(36.5%)	3,098(59.9%)	183(3.5%)	1,646	241
サッカーくじ	805(9.9%)	270(33.5%)	517(64.2%)	18(2.2%)	210	60
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	661(8.1%)	276(41.8%)	351(53.1%)	34(5.1%)	194	82
インターネットを使ったギャンブル（競馬、競輪等を除く）	189(2.3%)	93(49.2%)	83(43.9%)	13(6.9%)	59	34
海外のカジノ	588(7.2%)	20(3.4%)	554(94.2%)	14(2.4%)	18	2
その他のギャンブル	60(0.7%)	17(28.3%)	34(56.7%)	9(15.0%)	14	3
上記のいずれもしたことはない	1,984(24.5%)					

※集計から除外：問12 無回答、問13 の設問内矛盾回答・無回答 (n=109)

（3）公営競技：主な券の購入方法

【問14】【問12】で競馬、競輪、競艇、オートレースのいずれかに○をつけた人にお尋ねします。主にどこで券を購入しますか。（競技ごとに単一選択）

【問13】で競馬、競輪、競艇、オートレースの経験が過去1年間に「週1回未満」または「週1回以上」と回答した者を対象に集計した。

競馬では、主な券の購入場所として「オンライン」が最も多く（60.7%）、「ギャンブル場/場外とオンラインの両方」と合わせると、75.2%がインターネット購入を利用していた。

競輪では、「ギャンブル場/場外売り場」で券を購入する者が最も多く（52.8%）、「オンライン」と「ギャンブル場/場外とオンラインの両方」を合わせると、47.2%がインターネット購入を利用していた。

競艇では、「ギャンブル場/場外売り場」で券を購入する者が最も多く（63.5%）、「オンライン」と「ギャンブル場/場外とオンラインの両方」を合わせると、36.5%がインターネット購入を利用していた。

オートレースでは、「オンライン」が最も多く（60.0%）、「ギャンブル場/場外とオンラインの両方」を合わせると、80.0%がインターネット購入を利用していた。（図表2-14）

図表 2-14 公営競技の主な券の購入方法

	ギャンブル場/ 場外売り場	オンライン (インターネット)	ギャンブル場/場外と オンラインの両方	合計
競馬	99 (24.8%)	242 (60.7%)	58 (14.5%)	399
競輪	19 (52.8%)	12 (33.3%)	5 (13.9%)	36
競艇	54 (63.5%)	22 (25.9%)	9 (10.6%)	85
オートレース	2 (20.0%)	6 (60.0%)	2 (20.0%)	10

※コロナ感染拡大が公営競技の券の購入場所に及ぼす影響を考慮し、【問14】は生涯における券の購入場所を尋ねる質問であったが、図表2-14では、過去1年間に当該公営競技を経験した者に限定して集計。

※問14に無回答は集計から除外：競馬（n=7）、競輪（n=4）、競艇（n=6）、オートレース（n=8）

（4）ギャンブルに費やすお金

【過去1年間で最もお金を使ったギャンブルの種類】

【問15】過去1年間で、最もお金を使った（つぎ込んだ）ギャンブルはどれですか。（単一選択）

過去1年にギャンブル経験がある者の中で、最もお金を使ったギャンブルの種類は、宝くじ（51.4%）が最も多く、次いでパチンコ（15.8%）であった。（図表2-15）

図表2-15 最もお金を使ったギャンブルの種類

ギャンブルの種類	男性	女性	全体
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	663 (40.9%)	652 (69.8%)	1,315 (51.4%)
パチンコ	302 (18.6%)	102 (10.9%)	404 (15.8%)
パチスロ	206 (12.7%)	41 (4.4%)	247 (9.7%)
競馬	184 (11.3%)	45 (4.8%)	229 (9.0%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	134 (8.3%)	57 (6.1%)	191 (7.5%)
サッカーくじ	67 (4.1%)	20 (2.1%)	87 (3.4%)
競艇	26 (1.6%)	8 (0.9%)	34 (1.3%)
インターネットを使ったギャンブル（競馬、競輪、競艇、オートレースを除く）	12 (0.7%)	4 (0.4%)	16 (0.6%)
競輪	12 (0.7%)	0 (0.0%)	12 (0.5%)
海外のカジノ	8 (0.5%)	3 (0.3%)	11 (0.4%)
その他のギャンブル	7 (0.4%)	1 (0.1%)	8 (0.3%)
オートレース	1 (0.1%)	1 (0.1%)	2 (0.1%)
計	1,622 (100.0%)	934 (100.0%)	2,556 (100.0%)

※問15集計から除外：質問遷移（問12でいずれかのギャンブルを選択していないもの）、設問内矛盾（n=40）（2つ以上選択）、設問間矛盾（n=771）（問15で選択しているギャンブルの種類につき問13で回答なし）、無回答（n=199）、答えたくない（n=36）、選択肢13「過去1年間はギャンブルを全くしていない」（n=2,474）

【過去1年間でギャンブルに使った金額】

【問16】過去1年間、1ヶ月あたりギャンブルにどのくらいお金をかけていますか。
（勝ったお金は含めずに回答）

1ヶ月あたりギャンブルに使用する金額は、0円の回答を含めない場合、男性では1万円以上－5万円未満、女性では2千円以上－5千円未満が最も多かった。月に1円以上ギャンブルにかける場合の金額の中央値は男性が10,000円/月、女性が3,000円/月であった。（図表2-16・図表2-17）

図表2-16 ギャンブルにかけているお金（1ヶ月あたり、勝ったお金は含めず）

金額	男性 n (%)	女性 n (%)	全体 n (%)
0円	1,090 (37.3%)	1,362 (57.2%)	2,452 (46.2%)
1円以上－2千円未満	217 (7.4%)	261 (11.0%)	478 (9.0%)
2千円以上－5千円未満	283 (9.7%)	275 (11.6%)	558 (10.5%)
5千円以上－1万円未満	210 (7.2%)	130 (5.5%)	340 (6.4%)
1万円以上－5万円未満	721 (24.7%)	271 (11.4%)	992 (18.7%)
5万円以上－10万円未満	157 (5.4%)	37 (1.6%)	194 (3.7%)
10万円以上－50万円未満	176 (6.0%)	32 (1.3%)	208 (3.9%)
50万円以上－100万円未満	23 (0.8%)	4 (0.2%)	27 (0.5%)
100万円以上－200万円未満	24 (0.8%)	4 (0.2%)	28 (0.5%)
200万円以上－500万円未満	14 (0.5%)	1 (0.0%)	15 (0.3%)
500万円以上－1000万円未満	5 (0.2%)	1 (0.0%)	6 (0.1%)
1000万円以上	5 (0.2%)	2 (0.1%)	7 (0.1%)
計	2,925 (100.0%)	2,380 (100.0%)	5,305 (100.0%)

図表2-17 ギャンブルにかける金額*

単位：1ヶ月あたりの金額（円）

	男性 (n=1,835)	女性 (n=1,018)	全体 (n=2,853)
最小値	1	1	1
第一四分位数	3,000	1,500	3,000
中央値	10,000	3,000	10,000
第三四分位数	30,000	10,000	24,000
最大値	20,000,000	20,000,000	20,000,000

※1か月に1円以上かける回答者での集計

※問16集計から除外：質問遷移（問12でいずれかのギャンブルを選択していないもの）、設問間矛盾（n=608）

（問15で過去1年間ギャンブルをしていない・答えないと回答しているのに問16で1円以上と回答、問15でいずれかのギャンブルの種類を回答しているのに問16に0円と回答、無回答（n=217）

（5）ギャンブル開始年齢

【問17】初めてギャンブルをしたのは何歳の時でしたか。

全体の57.5%（男性52.0%，女性64.5%）が20歳代と回答した。20歳未満の年齢を回答したのは、女性の17.3%に対し、男性は43.2%であり、男性の方が低い年齢でギャンブルを経験している割合が高かった。（図表2-18）

図表2-18 初めてギャンブルをするようになった年齢

年齢区分	男性	女性	全体
0－9歳	6 (0.2%)	12 (0.5%)	18 (0.3%)
10－19歳	1,391 (43.0%)	436 (16.8%)	1,827 (31.4%)
20－29歳	1,681 (52.0%)	1,671 (64.5%)	3,352 (57.5%)
30－39歳	116 (3.6%)	280 (10.8%)	396 (6.8%)
40－49歳	25 (0.8%)	113 (4.4%)	138 (2.4%)
50－59歳	11 (0.3%)	60 (2.3%)	71 (1.2%)
60－69歳	5 (0.2%)	19 (0.7%)	24 (0.4%)
70－74歳	0 (0.0%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)
全体	3,235 (100.0%)	2,592 (100.0%)	5,827 (100.0%)

※問17集計から除外：条件分岐（問12でいずれかのギャンブルを選択していないもの）、無回答（n=300）、回答矛盾（n=3）（問2の年齢より大きい数値を回答）

【問18】あなたが少なくとも月1回以上の頻度で、習慣的にギャンブルをするようになったのは何歳でしたか？

【問12】で、いずれかのギャンブルを経験したことがある（生涯ギャンブル経験あり）と回答した者を対象に、習慣的なギャンブルを開始した年齢を尋ねた。男性・女性ともに20歳代に習慣的なギャンブルを開始した割合が最も高かった。（図表2-19）

図表2-19 習慣的にギャンブルをするようになった年齢

年齢区分	男性	女性	全体
0－9歳	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)
10－19歳	434 (24.8%)	45 (9.5%)	479 (21.5%)
20－29歳	914 (52.1%)	215 (45.4%)	1,129 (50.7%)
30－39歳	214 (12.2%)	89 (18.8%)	303 (13.6%)
40－49歳	109 (6.2%)	61 (12.9%)	170 (7.6%)
50－59歳	65 (3.7%)	45 (9.5%)	110 (4.9%)
60－69歳	16 (0.9%)	18 (3.8%)	34 (1.5%)
70－74歳	0 (0.0%)	1 (0.2%)	1 (0.0%)
全体	1,753 (100.0%)	474 (100.0%)	2,227 (100.0%)
※習慣的にギャンブルをしたことはない	1,394	2,014	3,408

※問18集計から除外：条件分岐（問12でいずれかのギャンブルを選択していないもの）、無回答（n=481）、回答矛盾（n=14）（問2の年齢より大きい数値を回答、問17の年齢より小さい数値を回答）

※（％）は、これまでに「習慣的にギャンブルをしたことがない」と回答した者を除いた割合。

（6）ギャンブルに関する相談先

【問37】あなたはこれまでに、あなた自身のギャンブルのことで、だれか（どこか）に相談したことはありますか。（複数選択）

生涯ギャンブル経験がある者のうち、自身のギャンブル問題について、相談経験をたずねたところ、「だれ（どこ）にも相談したことはない」と回答したのは全体の94.7%であった。相談先として最も多かったのは、家族や友人であった。（図表2-20）

図表2-20 男女別ギャンブルでの相談経験の有無と相談先

相談先	男性	女性	全体
家族や友人	179 (5.7%)	87 (3.4%)	266 (4.6%)
学校の先生や学生相談窓口	1 (0.0%)	1 (0.0%)	2 (0.0%)
公的な相談機関 (市区町村や精神保健福祉センター, 保健所等)	4 (0.1%)	3 (0.1%)	7 (0.1%)
医療機関	2 (0.1%)	2 (0.1%)	4 (0.1%)
法律の専門家（弁護士, 司法書士等）	4 (0.1%)	2 (0.1%)	6 (0.1%)
民間の相談機関（無料電話相談, 回復施設）	4 (0.1%)	3 (0.1%)	7 (0.1%)
自助グループ	0 (0.0%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)
その他	15 (0.5%)	16 (0.6%)	31 (0.5%)
だれ（どこ）にも相談したことはない	2,955 (93.7%)	2,479 (95.9%)	5,434 (94.7%)
回答者計	3,155 (100.0%)	2,584 (100.0%)	5,739 (100.0%)

※問37集計から除外：条件分岐（問12でいずれかのギャンブルを選択していないもの）、無回答（n=391）

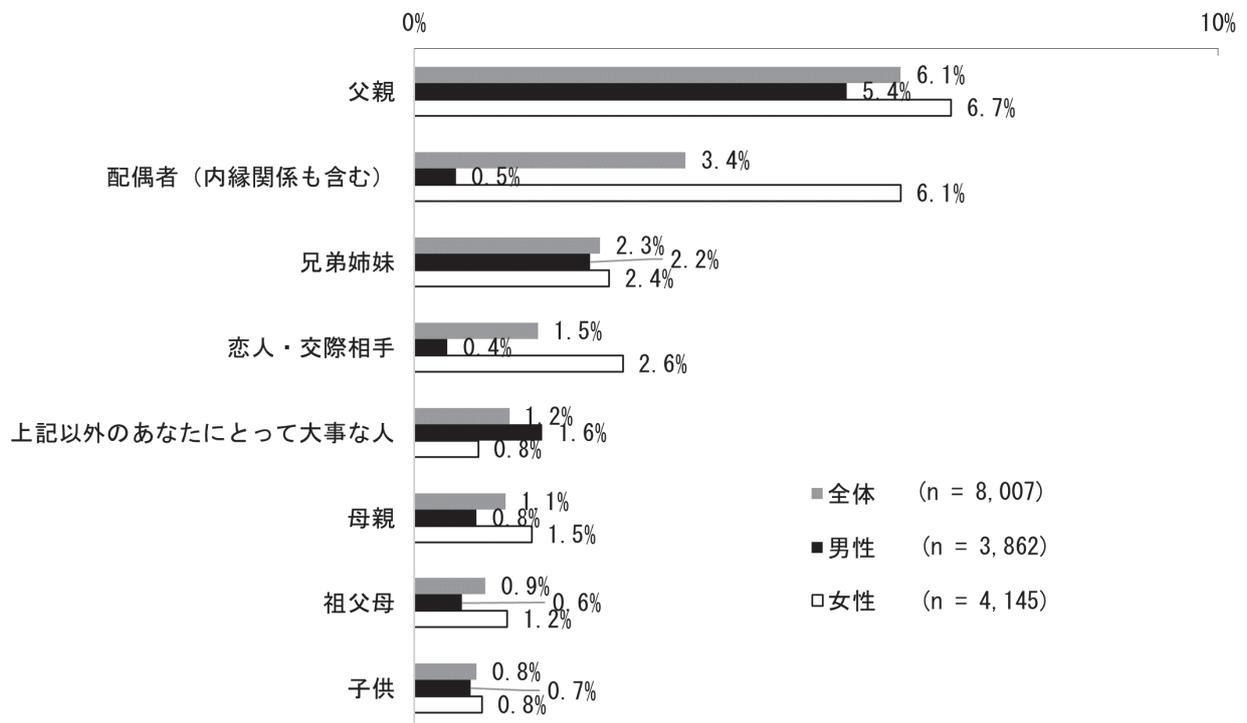
（7）家族や重要な他者のギャンブル問題とその影響

【家族や重要な他者のギャンブル問題とその影響】

【問38】次にあげる人の中に、ギャンブルの問題がある（あった）人はいますか。今はなくとも過去にギャンブルの問題があった人についても○をつけてください。（複数選択）

家族や重要な他者の中に、ギャンブルの問題がある（あった）と回答したのは、全体の14.4%（男性：10.5%、女性18.1%）であった。ギャンブルの問題がある（あった）家族や重要な他者は、男性では「父親」5.4%、「兄弟姉妹」2.2%、「上記以外の人」1.6%の順で割合が高かった。女性では、「父親」6.7%、「配偶者」6.1%、「恋人・交際相手」2.6%の順で割合が高かった。（図表2-21）

図表2-21 ギャンブルの問題がある（あった）人



※問38集計から除外：無回答（n=144）、答えたくない（n=72）

【家族や重要な他者のギャンブル問題から受けた影響】

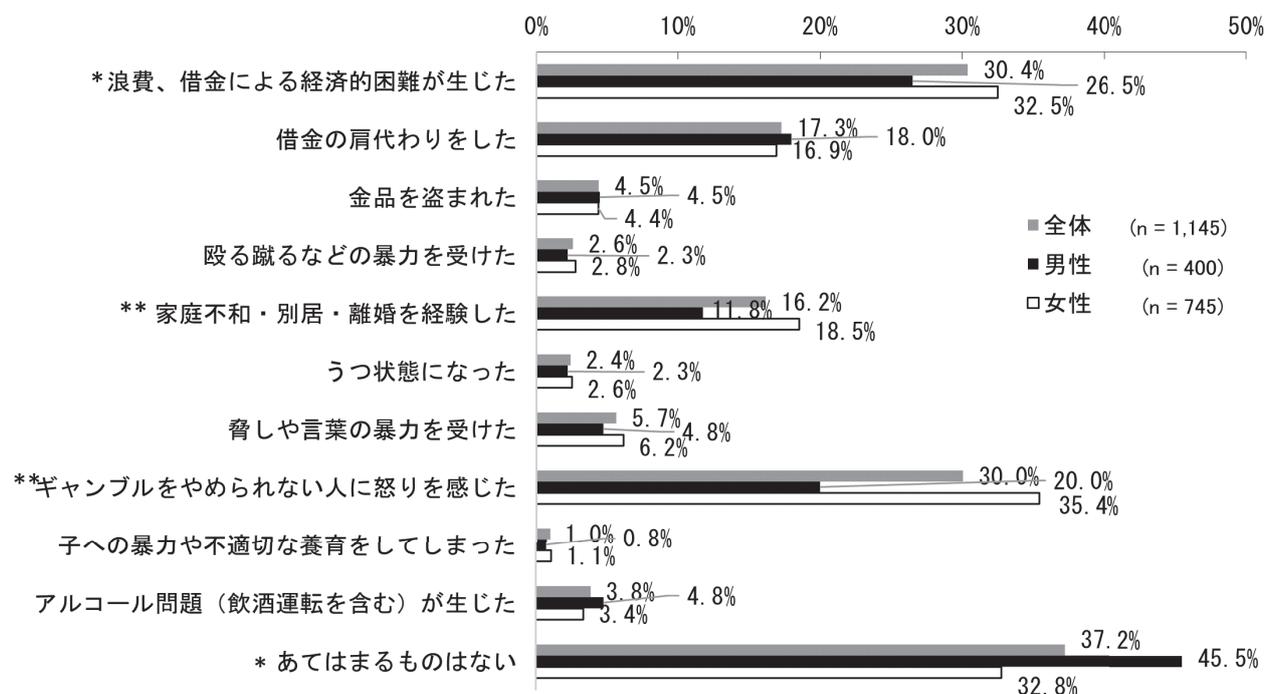
【問39】あなたは、先ほど【問38】で答えた人のギャンブル問題から、影響を受けたことがありますか。影響を受けたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。（複数選択）

家族や重要な他者にギャンブル問題がある（あった）と回答した者において、受けた影響として回答が多かったものは、「あてはまるものがない」を除くと、「浪費、借金による経済的困難が生じた」、「ギャンブルをやめられない人に怒りを感じた」であった。受けた影響について男女を比較すると、男性より女性の方が「浪費、借金による経済的困難が生じた」「ギャンブルをやめられない人に怒りを感じた」「家庭不和・別居・離婚を経験した」と回答した割合が有意に高かった。

($\chi^2(1)=4.404, p<.05$), ($\chi^2(1)=29.506, p<.01$), ($\chi^2(1)=8.815, p<.01$)

一方で、「あてはまるものはない」と回答した割合は、女性（32.8%）より男性（45.5%）の方が有意に高かった。（ $\chi^2(1)=18.105, p<.01$ ）（図表2-22）

図表2-22 家族や重要な他者のギャンブル問題から受けた影響



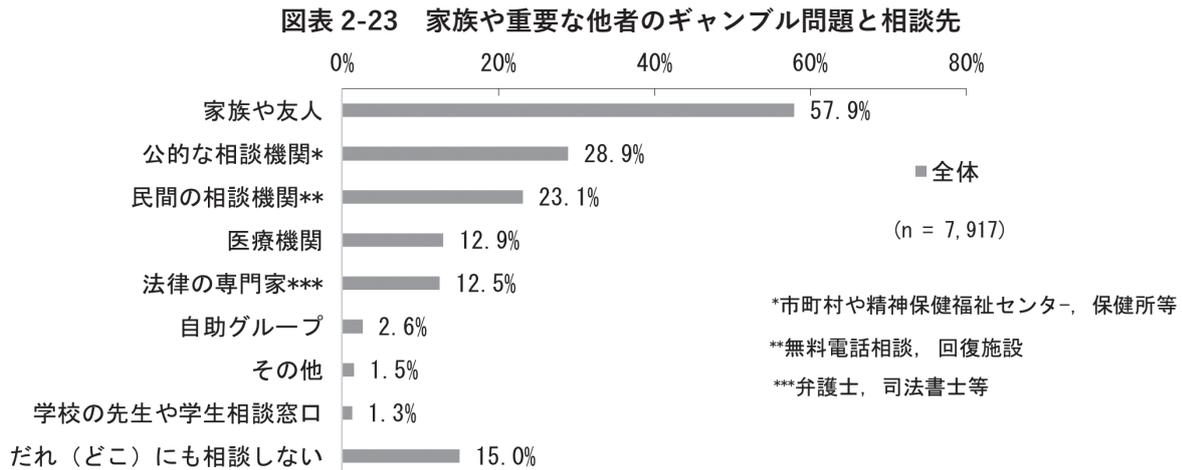
※問38で「いない」、「答えたくない」、「無回答」とした（n=7,067）および、問39における無回答（n=11）を除く、合計n=1,145を集計対象とした。

※ χ^2 検定による男女比較で有意差があった項目 ** $p < .01$, * $p < .05$

【家族や重要な他者のギャンブル問題と相談先】

【問40】もし、あなた自身や、あなたの重要な関係者（家族や友人、同僚、交際相手など）がギャンブルのことで困りごとを抱えたら、だれ（どこ）に相談しますか。あてはまる番号を全て選んで○をつけてください。（複数選択）

ギャンブルのことで困った時の相談先としては、「家族や友人」を選択した回答者が最も多く（57.9%）、次いで「公的な相談機関」が28.9%であった。一方、全体の15.0%は「だれ（どこ）にも相談しない」と回答した。（図表2-23）



※問40集計から除外：無回答（n=225）、答えたくない（n=8）

2.6.3 「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合の推計

ギャンブル障害のスクリーニングテストとして SOGS, PGSI（第2章 2.2 調査方法参照）の2種類の尺度を用いて、わが国における「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合を推計した。なお本調査では、「過去1年間にギャンブル経験がある者」を対象に過去1年間のギャンブルについてスクリーニングテストの得点を集計した。したがって、本調査では過去1年間におけるギャンブル等依存が疑われる者が、どの程度の割合存在しているのかを示す推計値を算出した。

（1）SOGS（South Oaks Gambling Screen）による割合の推計

① SOGS 得点の集計方法

調査（A）調査票「娯楽と健康に関する調査」における【問22～問35】が SOGS の得点項目に該当する。SOGS 得点の集計サンプルの概要を図表 2-24 に示す。

まず、「ギャンブル等依存が疑われる者」の推計に際し、調査（A）の回答者をギャンブル経験の有無からグループに分けて検証した。「過去1年間のギャンブル経験あり」と回答した2,759サンプルのうち、SOGS 尺度の回答に不備があった238サンプルを除く2,521サンプルを対象に、SOGS 得点を集計した。また、「過去1年のギャンブル経験なし」「生涯ギャンブル経験なし」の者の SOGS 得点は、0点として取り扱った。

図表 2-24 SOGS 得点集計サンプルの概要

SOGS 得点集計対象者の内訳	サンプル数	
過去1年ギャンブル経験ありのうち SOGS 該当質問に完答	2,521	→ SOGS 得点集計の対象
過去1年ギャンブル経験なし (生涯ギャンブル経験のない者も含む)	5,464	→ SOGS 得点は0点として処理
割合推計に用いたサンプルの合計	7,985	→ 「ギャンブル等依存が疑われる者」の 割合推計の分母

※過去1年ギャンブル経験ありの者のうち、SOGS 尺度（問22～問35）の回答に不備がある者（n=238）は、集計から除外

② SOGS 得点によるギャンブル等依存が疑われる者の人数と割合

本研究では、SOGs 得点5点以上の回答者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。その結果、SOGs 得点5点以上に該当した者は165名（男性137名、女性28名）であった。（図表2-25）

年齢調整⁸⁾後のSOGs 得点分布において、ギャンブル等依存が疑われる者（5点以上）の割合は、全体で2.2%（95%信頼区間⁹⁾:1.9～2.5）で、男性が3.7%（95%信頼区間:3.2～4.4）、女性が0.7%（95%信頼区間:0.4～1.0）であった。（図表2-26）

図表 2-25 年齢調整前の SOGS 得点分布

		男性	女性	全体
SOGs 得点	5点未満	3,674 (96.4%)	4,146 (99.3%)	7,820 (97.9%)
	5点以上	137 (3.6%)	28 (0.7%)	165 (2.1%)
	全体	3,811 (100.0%)	4,174 (100.0%)	7,985 (100.0%)

図表 2-26 年齢調整後の SOGS 得点分布

			男性	女性	全体
SOGs 得点	5点未満	人数	3,842	3,967	7,809
		割合	96.3%	99.3%	97.9%
	5点以上	人数	149.3	26.2	175.6
		割合 (95%信頼区間)	3.7%(3.2～4.4)	0.7%(0.4～1.0)	2.2%(1.9～2.5)
	全体	合計人数	3,991	3,994	7,985
		割合	100.0%	100.0%	100.0%

⁸⁾ 年齢調整：全人口における年齢構成と、本調査の回答者における年齢構成の差異の影響を取り除くため、令和元年10月1日現在人口を基準人口として補正し、年齢調整後の割合を算出した。年齢調整の詳細については、本報告書「2.4 年齢調整方法」を参照。

⁹⁾ 95%信頼区間：同じ調査を100回実施した場合、95回はその区間内に真の値が含まれることを意味する。

（2）PGSI（The Problem Gambling Severity Index）による割合の推計

① PGSI 得点の集計方法

調査（A）調査票「娯楽と健康に関する調査」における【問36】がPGSI尺度に該当する。PGSI得点の集計サンプルの概要を図表2-29に示す。

図表 2-29 PGSI 得点集計サンプルの概要

PGSI 得点集計対象者の内訳	サンプル数	
過去1年ギャンブル経験ありのうち PGSI 該当質問に完答	2,643	→ PGSI 得点集計の対象
過去1年ギャンブル経験なし (生涯ギャンブル経験のない者も含む)	5,464	→ PGSI 得点は0点として処理
割合推計に用いたサンプルの合計	8,107	→ 「ギャンブル等依存が疑われる者」の 割合推計の分母

※過去1年ギャンブル経験ありの者のうち、PGSI尺度（問36）の回答に不備がある者（n=116）は、集計から除外

② PGSI 得点によるギャンブル等依存が疑われる者の人数と割合

本研究では、PGSI得点8点以上の回答者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。その結果、PGSI得点8点以上に該当した者は122名（男性103名、女性19名）であった。（図表2-30）

年齢調整後のPGSI得点分布において、ギャンブル等依存が疑われる者（8点以上）の割合は全体で1.6%（95%信頼区間:1.4～1.9）、男性2.8（95%信頼区間:2.3～3.4）、女性0.4%（95%信頼区間:0.3～0.7）であった。（図表2-31）

図表 2-30 年齢調整前のPGSI得点分布

		男性	女性	全体
PGSI 区分	8点未満	3,775 (97.3%)	4,210 (99.6%)	7,985 (98.5%)
	8点以上	103 (2.7%)	19 (0.4%)	122 (1.5%)
	全体	3,878 (100.0%)	4,229 (100.0%)	8,107 (100.0%)

図表 2-31 PGSI 集計結果（年齢調整後）

			男性	女性	全体
PGSI 得点	8点 未満	人数	3,939	4,037	7,976
		割合	97.2%	99.6%	98.4%
	8点 以上	人数	113.3	17.6	130.8
		割合（95%信頼区間）	2.8%(2.3～3.4)	0.4%(0.3～0.7)	1.6%(1.4～1.9)
	全体	人数	4,052	4,055	8,107
		割合	100.0%	100.0%	100.0%

※集計から除外：問36の9項目の一つでも無回答が含まれる回答（n=116）は採点対象外とした。

※集計から除外：「わからない」と回答している設問は、無回答と同じ扱いとした。（Web回答のみ）

2.6.4 「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル行動

「ギャンブル等依存が疑われる者」（SOGS 得点 5 点以上）におけるギャンブル行動（経験したギャンブルの種類，最もお金をつぎ込んだギャンブル等）について集計した。

（1）SOGS 5 点以上 - 過去 1 年間で経験したギャンブルの種類（男女別）

【問 13】 【問 12】 で○をつけたギャンブルについて，過去 1 年間はどのくらいの頻度で行っていましたか。（各項目単一選択）

【過去 1 年間で経験したギャンブルの種類（男女別の割合）】

SOGS 得点 5 点以上の者における過去 1 年間で経験したギャンブルの種類は，全体でパチンコ（70.3%）が最も多かった。男性ではパチンコ（70.1%），パチスロ（56.9%），宝くじ（40.9%）の順で割合が高かった。女性では，パチンコ（71.4%），宝くじ（42.9%），パチスロ（32.1%）の順で割合が高かった。（図表 2-32）

図表 2-32 SOGS5 点以上 - 過去 1 年間で経験したギャンブルの種類

ギャンブルの種類	男性 (n=132)	女性 (n=28)	全体 (n=165)
パチンコ	96 (70.1%)	20 (71.4%)	116 (70.3%)
パチスロ	78 (56.9%)	9 (32.1%)	87 (52.7%)
競馬	32 (23.4%)	2 (7.1%)	34 (20.6%)
競輪	8 (5.8%)	1 (3.6%)	9 (5.5%)
競艇	14 (10.2%)	2 (7.1%)	16 (9.7%)
オートレース	2 (1.5%)	1 (3.6%)	3 (1.8%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	56 (40.9%)	12 (42.9%)	68 (41.2%)
サッカーくじ	17 (12.4%)	0 (0.0%)	17 (10.3%)
証券の信用取引，先物取引市場への投資，FX	15 (10.9%)	1 (3.6%)	16 (9.7%)
インターネットを使ったギャンブル （競馬，競輪等を除く）	12 (8.8%)	1 (3.6%)	13 (7.9%)
海外のカジノ	1 (0.7%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)
その他のギャンブル	2 (1.5%)	0 (0.0%)	2 (1.2%)

※集計から除外：設問内矛盾（1 項目内で 2 つ以上選択），無回答，選択肢 1 「過去 1 年間はギャンブルを全くしていない」

【過去1年間の頻度（SOG5 5点以上（n=165）における割合）】

SOG5 得点5点以上の者において、過去1年間で実施したギャンブルの種類のうち、「週1回以上」の頻度で実施されていた割合が最も高いのは、パチンコ（25.5%）であった。続いて、パチスロ（18.8%）、競馬（8.5%）で割合が高かった。（図表2-33）

図表2-33 SOGS5点以上 - 過去1年間でギャンブルをした頻度

単位：人数（n=165における割合%）

ギャンブルの種類	SOG5点以上（n=165）における頻度		
	週1回未満	週1回以上	合計
パチンコ	74 (44.8%)	42 (25.5%)	116 (70.3%)
パチスロ	56 (33.9%)	31 (18.8%)	87 (52.7%)
競馬	20 (12.1%)	14 (8.5%)	34 (20.6%)
競輪	9 (5.5%)	0 (0.0%)	9 (5.5%)
競艇	14 (8.5%)	2 (1.2%)	16 (9.7%)
オートレース	3 (1.8%)	0 (0.0%)	3 (1.8%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	56 (33.9%)	12 (7.3%)	68 (41.2%)
サッカーくじ	13 (7.9%)	4 (2.4%)	17 (10.3%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	9 (5.5%)	7 (4.2%)	16 (9.7%)
インターネットを使ったギャンブル （競馬、競輪等を除く）	7 (4.2%)	6 (3.6%)	13 (7.9%)
海外のカジノ	1 (0.6%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)
その他のギャンブル	1 (0.6%)	1 (0.6%)	2 (1.2%)

(2) 公営競技：主な券の購入方法（SOG5点以上と5点未満の比較）

【問14】 【問12】で競馬、競輪、競艇、オートレースのいずれかに○をつけた人にお尋ねします。主にどこで券を購入しますか。（競技ごとに単一選択）

【問13】で競馬、競輪、競艇、オートレースの経験が過去1年間に「週1回未満」または「週1回以上」と回答し、かつ、SOG5の該当質問に完答者（SOG5得点を集計した者）を対象に集計した。各公営競技の券の購入方法について、SOG5 5点以上と5点未満で比較したところ、有意差はなかった。

（図表2-34）

図表2-34 公営競技：主な券の購入方法（SOG5点以上5点未満の比較）

公営競技	SOG5 得点	ギャンブル場 / 場外 売り場	オンライン （インターネット）	ギャンブル場 / 場外 とオンラインの両方	合計
競馬	5点未満	87 (25.4%)	202 (59.1%)	53 (15.5%)	342 (100.0%)
	5点以上	6 (18.8%)	21 (65.6%)	5 (15.6%)	32 (100.0%)
競輪	5点未満	13 (50.0%)	8 (30.8%)	5 (19.2%)	26 (100.0%)
	5点以上	5 (62.5%)	3 (37.5%)	0 (0.0%)	8 (100.0%)
競艇	5点未満	42 (63.6%)	17 (25.8%)	7 (10.6%)	66 (100.0%)
	5点以上	8 (57.1%)	4 (28.6%)	2 (14.3%)	14 (100.0%)
オートレース	5点未満	1 (11.1%)	6 (66.7%)	2 (22.2%)	9 (100.0%)
	5点以上	1 (100.0)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)

(3) SOGS 5点以上 - 過去1年間で1カ月あたりにギャンブルに費やす金額（男女別）

【問16】過去1年間、1ヶ月あたりギャンブルにどのくらいお金をかけていますか。
（勝ったお金は含めずに回答）

SOGS 得点5点以上の者において、1か月あたりギャンブルに使用する金額は、男女ともに1万円以上-5万円未満が最も多かった。月に1円以上ギャンブルにかける場合の金額の中央値は男性が50,000円/月、女性が27,500円/月であった。（図表2-35・図表2-36）

図表2-35 SOGS5点以上 - ギャンブルにかけているお金（1か月あたり、勝ったお金は含めず）

金額	男性 n(%)	女性 n(%)	全体 n(%)
0円	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
1円以上-2千円未満	2 (1.5%)	1 (3.8%)	3 (1.9%)
2千円以上-5千円未満	1 (0.8%)	2 (7.7%)	3 (1.9%)
5千円以上-1万円未満	5 (3.8%)	2 (7.7%)	7 (4.4%)
1万円以上-5万円未満	50 (37.9%)	12 (46.2%)	62 (39.2%)
5万円以上-10万円未満	30 (22.7%)	6 (23.1%)	36 (22.8%)
10万円以上-50万円未満	33 (25.0%)	3 (11.5%)	36 (22.8%)
50万円以上-100万円未満	5 (3.8%)	0 (0.0%)	5 (3.2%)
100万円以上-200万円未満	3 (2.3%)	0 (0.0%)	3 (1.9%)
200万円以上-500万円未満	2 (1.5%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)
500万円以上-1000万円未満	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
1000万円以上	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)
計	132 (100.0%)	26 (100.0%)	158 (100.0%)

図表2-36 SOGS5点以上 - ギャンブルにかける金額

単位:1か月あたりの金額(円)

	男性 (n=132)	女性 (n=26)	全体 (n=158)
最小値	100	750	100
第一四分位数	20,000	10,000	20,000
中央値	50,000	27,500	50,000
第三四分位数	100,000	50,000	100,000
最大値	10,000,000	350,000	10,000,000

※問16集計から除外：矛盾・不明回答（n=7）

(4) SOGS 5点以上 - 過去1年間最もお金をつぎこんだギャンブルの種類（男女別）

【問15】過去1年間で、最もお金を使った（つぎ込んだ）ギャンブルはどれですか。（単一選択）

SOGS 得点5点以上の者において、最もお金を使ったギャンブルの種類は、全体でパチンコ（38.7%）が最も多かった。男性ではパチスロ（35.4%）、パチンコ（34.6%）、競馬（12.3%）の順で割合が高かった。女性では、パチンコ（60.0%）、パチスロ（16.0%）・宝くじ（16.0%）の順で割合が高かった。（図表2-37）

図表2-37 SOGS5点以上—最もお金を使ったギャンブルの種類

ギャンブルの種類	男性	女性	全体
パチンコ	45 (34.6%)	15 (60.0%)	60 (38.7%)
パチスロ	46 (35.4%)	4 (16.0%)	50 (32.3%)
競馬	16 (12.3%)	1 (4.0%)	17 (11.0%)
競輪	3 (2.3%)	0 (0.0%)	3 (1.9%)
競艇	6 (4.6%)	0 (0.0%)	6 (3.9%)
オートレース	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	7 (5.4%)	4 (16.0%)	11 (7.1%)
サッカーくじ	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	4 (3.1%)	1 (4.0%)	5 (3.2%)
インターネットを使ったギャンブル （競馬、競輪等を除く）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
海外のカジノ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他のギャンブル	2 (1.5%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)
全体	130 (100.0%)	25 (100.0%)	155 (100.0%)

※問15集計から除外：矛盾・不明回答（n=10）

2.6.5 「ギャンブル等依存が疑われる者」における「ギャンブル関連問題」

SOGS 5 点以上を「ギャンブル等依存が疑われる者」、5 点未満を「ギャンブル等依存のないもの」とし、「ギャンブル関連問題」との関連を検証した。

（1）ギャンブル問題と抑うつ、不安との関連

ギャンブル問題と「抑うつ・不安」との関連を検証するため、抑うつ・不安のスクリーニング尺度（K6）を用いた。（図表 2-38）

**【問 43】 過去 30 日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。
（それぞれ単一選択）**

図表 2-38 < K6 得点の評価方法 >

0～4 点	問題なし
5～9 点	何らかのうつ・不安の問題がある可能性がある
10～12 点	うつ・不安障害が疑われる
13 点以上	重度のうつ・不安障害が疑われる

【全体の傾向：抑うつ・不安】

過去 1 カ月の間に「抑うつ・不安」の問題がある者（K6 得点 5 点以上）は、全体の 29.3%であった。男女別でみると K6 得点 5 点以上の割合は、男性（25.9%）より女性（32.4%）の方が高かった。

（ $\chi^2(3)=41.091, p < 0.0001$ ）（図表 2-39）

図表 2-39 K6 得点の分布

		男性	女性	全体
K6 得点 区分	0～4 点	2,787 (74.1%)	2,762 (67.6%)	5,549 (70.7%)
	5～9 点	621 (16.5%)	812 (19.9%)	1,433 (18.3%)
	10～12 点	181 (4.8%)	251 (6.1%)	432 (5.5%)
	13 点以上	174 (4.6%)	261 (6.4%)	435 (5.5%)
	全体	3,763 (100.0%)	4,086 (100.0%)	7,849 (100.0%)

※問 43 集計から除外：設問内矛盾（1 項目内で 2 つ以上選択）、答えたくない（1 項目以上）、無回答（1 項目以上）

【ギャンブル等依存が疑われる者とうつ、不安の関連】

SOGS の得点区分別に K6 の得点区分を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では有意に抑うつ・不安が強いことが示された。（ $\chi^2(3)=55.574, p < .01$ ）（図表 2-40）

図表 2-40 ギャンブル等依存とうつ、不安の相関

		K6				全体
		0～4 点 **	5～9 点 *	10～12 点 *	13 点以上 **	
SOGS 得点	5 点未満	5,327 (71.2%)	1,360 (18.2%)	402 (5.4%)	399 (5.3%)	7,488 (100.0%)
	5 点以上	76 (48.4%)	40 (25.5%)	15 (9.6%)	26 (16.6%)	157 (100.0%)
	全体	5,403 (70.7%)	1,400 (18.3%)	417 (5.5%)	425 (5.6%)	7,645 (100.0%)

※集計から除外：問 43 で設問内矛盾（1 項目内で 2 つ以上選択）・答えたくない（1 項目以上）・無回答（1 項目以上）、SOGS（問 22-35）に回答不備（n=204）

※残差分析の結果 * $p < .05$, ** $p < .01$

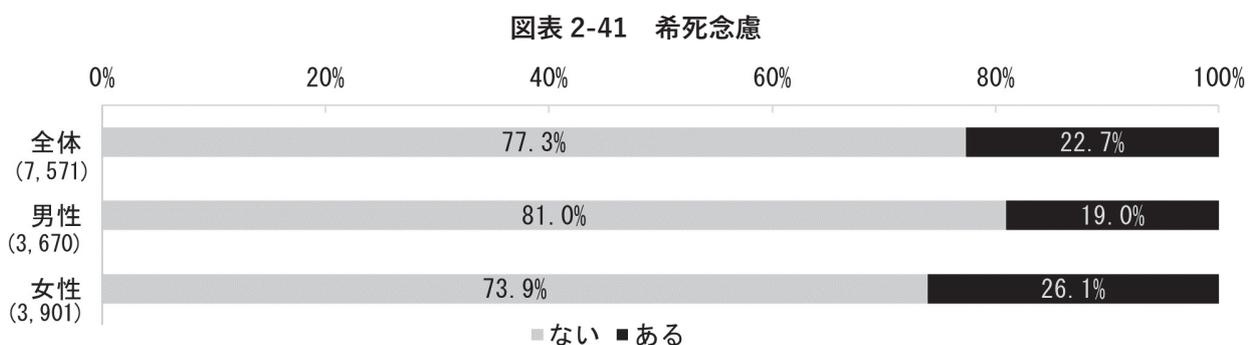
（2）ギャンブル問題と希死念慮・自殺企図との関連

【問44】あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。（単一選択）

【問45】あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。（単一選択）

【全体の傾向：希死念慮】

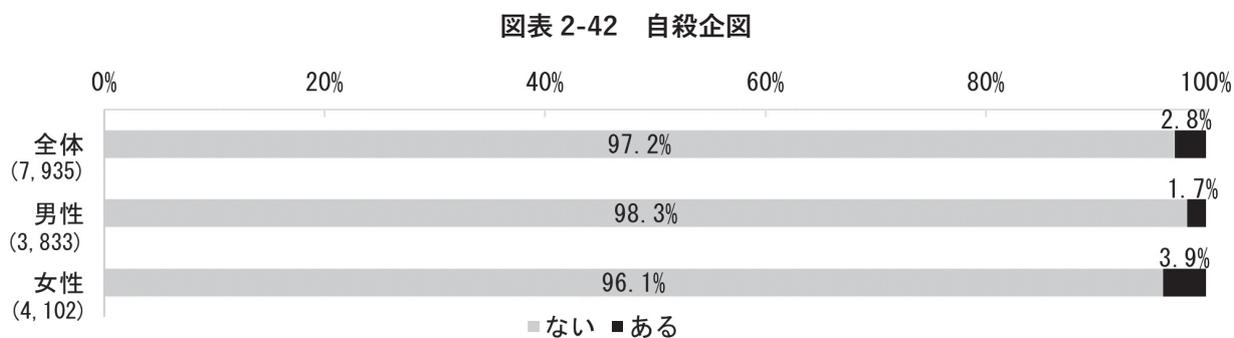
これまでに自殺したいと考えたことがあるとの回答割合は、全体で22.7%であり、男性では19.0%、女性では26.1%であった。（図表2-41）



※問44集計から除外：設問内矛盾（n=1）（2つ以上選択），答えたくない（n=554），無回答（n=97）

【全体の傾向：自殺企図】

これまでに自殺未遂をしたことがあるとの回答割合は、全体では2.8%であり、男性では1.7%、女性では3.9%であった。（図表2-42）



※問45集計から除外：答えたくない（n=202），無回答（n=86）

【ギャンブル等依存が疑われる者と希死念慮】

SOGS の得点区別に「これまでに自殺したいと考えたことがありますか」との質問への回答割合を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では希死念慮を有する割合が有意に高かった。 $(\chi^2(1)=27.611, p<.01)$ （図表 2-43）

図表 2-43 ギャンブル等依存と希死念慮

		希死念慮		
		なし	あり	全体
SOGS 得点	5点未満	5,606 (77.8%)	1,600 (22.2%)	7,206 (100.0%)
	5点以上	95 (60.1%)	63 (39.9%)	158 (100.0%)
	全体	5,701 (77.4%)	1,663 (22.6%)	7,364 (100.0%)

※集計から除外：問 44 で設問内矛盾 (n=1) (2つ以上選択)・答えたくない (n=554)・無回答 (n=97), SOGS (問 22-35) に回答不備 (n=207)

【ギャンブル等依存が疑われる者と自殺企図】

SOGS の得点区別に「あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか」との質問への回答割合を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では自殺企図を経験した割合が有意に高かった。 $(\chi^2(1)=4.651, p<.05)$ （図表 2-44）

図表 2-44 ギャンブル等依存と自殺企図

		自殺企図		
		なし	あり	全体
SOGS 得点	5点未満	7,352 (97.2%)	208 (2.8%)	7,560 (100.0%)
	5点以上	152 (94.4%)	9 (5.6%)	161 (100.0%)
	全体	7,504 (97.2%)	217 (2.8%)	7,721 (100.0%)

※集計から除外：問 45 で答えたくない (n=202), 無回答 (n=86), SOGS (問 22-35) に回答不備 (n=214)

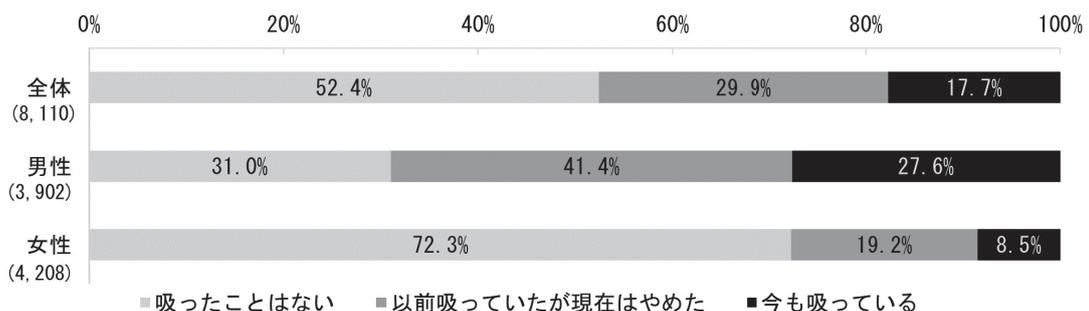
(3) ギャンブル問題と喫煙の関連

【問 46】あなたの喫煙（紙巻きタバコ、電子タバコ、加熱式タバコ含む）について、あてはまるものを1つ選んでください。

【全体の傾向：喫煙】

現在または過去の喫煙があるとの回答割合は、全体で 47.6% であり、男性では 69.0%、女性では 27.7% であった。（図表 2-45）

図表 2-45 喫煙の有無



※問 46 集計から除外：設問内矛盾 (n=1) (2つ以上選択), 答えたくない (n=43), 無回答 (n=69)

【ギャンブル等依存が疑われる者と喫煙の関連】

SOGS の得点区別に喫煙歴を「吸ったことはない」「以前吸っていたが現在はやめた」「今も吸っている」に分類して比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では現在も喫煙している割合が有意に高かった。 $(\chi^2(2)=126.049, p<.01)$ （図表 2-46）

図表 2-46 ギャンブル等依存と喫煙の相関

		喫煙歴			全体
		吸ったことはない **	以前吸っていたが現在はやめた (ns)	今も吸っている **	
SOGS 得点	5点未満	4,134 (53.5%)	2,291 (29.7%)	1,299 (16.8%)	7,724 (100.0%)
	5点以上	35 (21.5%)	48 (29.4%)	80 (49.1%)	163 (100.0%)
	全体	4,169 (52.9%)	2,339 (29.7%)	1,379 (17.5%)	7,887 (100.0%)

※集計から除外：問 46 で設問内矛盾 (n=1) (2 つ以上選択)・答えたくない (n=43)・無回答 (n=69),
SOGS (問 22-35) に回答不備 (n=223)

※残差分析の結果 * $p<.05$, ** $p<.01$, ns: 有意差なし

(4) ギャンブル問題と飲酒問題との関連

- 【問 47】 あなたはアルコール含有飲料をどのくらいの頻度で飲みますか。(単一選択)
- 【問 48】 飲酒するときには通常どのくらいの量を飲みますか。(単一選択)
- 【問 49】 1度に6ドリンク以上飲酒することがどのくらいの頻度でありますか。(単一選択)

問 47-49 で用いた AUDIT-C とは、アルコール使用障害のスクリーニングテストであり、AUDIT (The Alcohol Use Disorders Identification Test) の質問の中から飲酒量、飲酒頻度、多量飲酒頻度を問う 3 項目によってアルコール問題の有無を評価するもので、12 点満点中、男性は 5 点以上、女性は 4 点以上の場合に、何らかのアルコール問題があるとされる。

【全体の傾向：飲酒問題】

男性 3,683 名中 AUDIT-C 5 点以上は 1,500 名 (40.7%) であった。女性 3,888 名中、AUDIT-C 4 点以上は 902 名 (23.2%) であった。(図表 2-47)

図表 2-47 AUDIT-C 得点の分布

		男性	女性	全体
AUDIT-C 得点区分	男性 0-4 点 / 女性 0-3 点	2,183 (59.3%)	2,986 (76.8%)	5,169 (68.3%)
	男性 5 点以上 / 女性 4 点以上	1,500 (40.7%)	902 (23.2%)	2,402 (31.7%)
	全体	3,683 (100.0%)	3,888 (100.0%)	7,571 (100.0%)

※集計から除外：問 47-49 のうち、1 つ以上無回答・答えない・矛盾回答 (1 問で 2 つ以上の選択肢を選択)

【ギャンブル等依存が疑われる者と飲酒問題の関連】

SOGS の得点区別に、AUDIT-C による飲酒問題のあり、なしの割合を比較したところ、有意な差は認められなかった。（図表 2-48）

図表 2-48 ギャンブル等依存と飲酒問題との関連

		飲酒問題		
		なし	あり	全体
SOGS 得点	5点未満	4,950 (68.6%)	2,267 (31.4%)	7,217 (100.0%)
	5点以上	97 (61.4%)	61 (38.6%)	158 (100.0%)
	全体	5,047 (68.4%)	2,328 (31.6%)	7,375 (100.0%)

※集計から除外：問 47-49 のうち、1つ以上無回答・答えない・矛盾回答（1問で2つ以上の選択肢を選択）、SOGS（問 22-35）に回答不備（n=196）

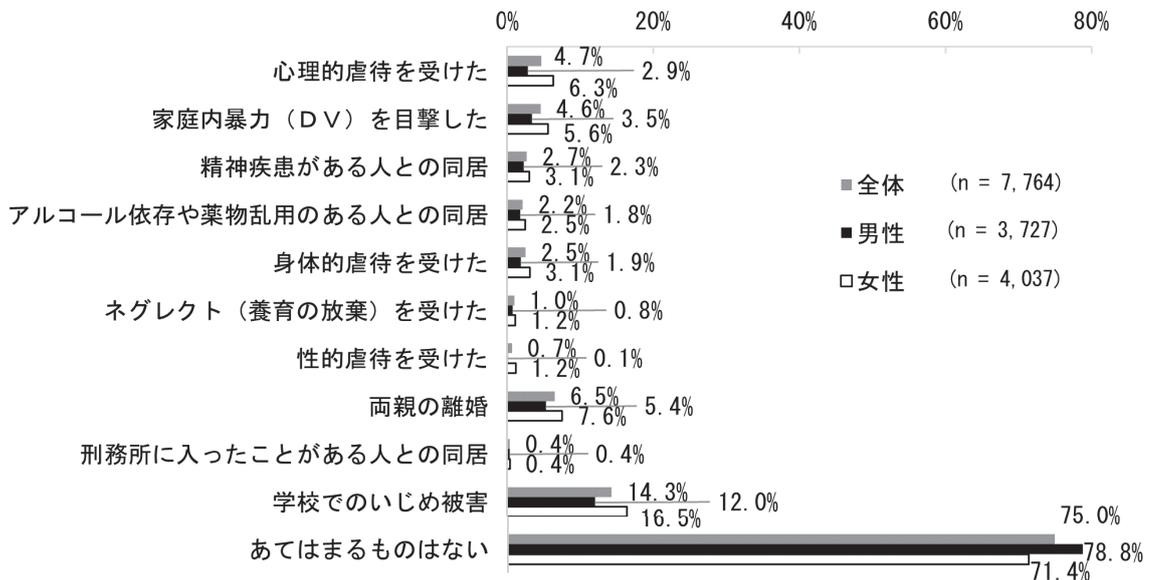
（5）ギャンブル問題と小児期逆境体験との関連

【問 51】 あなたが 18 歳までに経験したことがあるもの全てに○をつけてください。

【全体の傾向：小児期逆境体験】

選択肢 10 項目の逆境体験のうち、1つ以上に該当した者は、全体で 25.0% であり、男性では 21.2%、女性では 28.6% であった。図表 2-49 では、それぞれの項目に該当すると回答した者の割合を示した。経験頻度が最も高かったのは「学校でのいじめ被害」であり、男性の 12.0%、女性の 16.5% が「学校でのいじめ被害」を 18 歳までに経験したと回答した。（図表 2-49）

図表 2-49 小児期逆境体験の頻度



※問 51 集計から除外：答えたくない（n=280）、無回答（n=179）

【ギャンブル等依存が疑われる者と小児期逆境体験】

SOGS の得点区別に 18 歳までの小児期逆境体験（10 項目）のうち、1 項目以上に該当する者の割合を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では、割合が高かった。

（ $\chi^2(1) = 8.371, p < .01$ ）性別で分けて比較しても同様の結果であった。（図表 2-50）

図表 2-50 ギャンブル等依存と小児期逆境体験

		小児期逆境体験		
		なし	あり	全体
SOGS 得点	5 点未満	5,561 (75.2%)	1,834 (24.8%)	7,395 (100.0%)
	5 点以上	105 (65.2%)	56 (34.8%)	161 (100.0%)
	全体	5,666 (75.0%)	1,890 (25.0%)	7,556 (100.0%)

※集計から除外：問 51 で答えたくない（n=280）・無回答（n=179）、SOGS（問 22-35）に回答不備（n=208）

（6）ギャンブル問題と子育ての負担感との関連

【現在の 18 歳未満（児童）の子育て状況】

【問 9】 現在あなたは 18 歳以下のお子さんを子育て中ですか。（単一選択）

8,041 人中 2,083 人（25.9%）が 18 歳以下の子どもを子育て中と回答した。（図表 2-51）

図表 2-51 養育中の子供の有無



※問 9 集計から除外：無回答（n=182）

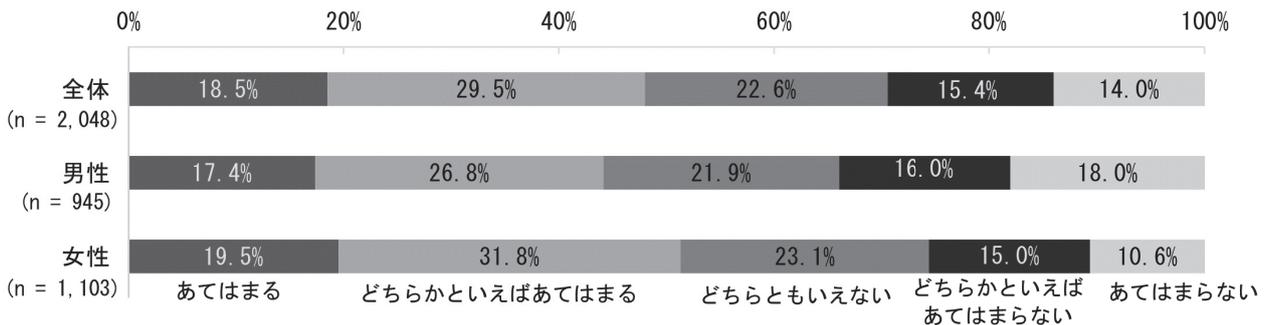
【問10】あなたは、子育てについて心配や負担感が強いですか。（単一選択）

続いて、18歳以下の子どもを子育て中の回答者にのみ「子育ての負担感」について尋ねた。

【全体の傾向：子育ての負担感】

子育ての負担感については、全体で「どちらかといえばあてはまる」が29.5%と最も多く、次いで「どちらともいえない」の22.6%であった。負担感が少ないとの回答（「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」の合計）が29.4%であったのに対し、負担感が多いとの回答（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計）は48.0%と多かった。（図表2-52）

図表 2-52 子育ての負担感



※問10集計から除外:条件分岐（問9で養育中ではないと回答）、設問内矛盾（n=1）（2つ以上選択）、無回答（n=26）、答えない（n=10）

【ギャンブル等依存が疑われる者と子育ての負担感】

【問9】で子育て中と回答し、かつ SOGS 得点の集計対象とした2,003人について、SOGSの得点区分別に子育ての負担感の回答割合を比較した。その結果、「あてはまる」の割合が SOGS 5点未満の18.2%に対し、SOGS 5点以上では27.8%であったが、有意な差は認めなかった。（図表2-53）

図表 2-53 ギャンブル等依存と子育ての負担感

		子育ての負担感					全体
		あてはまらない	どちらかといえばあてはまらない	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまる	あてはまる	
SOGS 得点	5点未満	279(14.3%)	304(15.6%)	436(22.4%)	576(29.6%)	354(18.2%)	1,949(100.0%)
	5点以上	4(7.4%)	8(14.8%)	15(27.8%)	12(22.2%)	15(27.8%)	54(100.0%)
	全体	283(14.1%)	312(15.6%)	451(22.5%)	588(29.4%)	369(18.4%)	2,003(100.0%)

※集計から除外:条件分岐（問9で養育中ではないと回答）、問10で設問内矛盾（n=1）（2つ以上選択）・無回答（n=26）・答えない（n=10）、SOGS（問22-35）に回答不備（n=45）

2.6.6 ギャンブル等依存症対策およびギャンブル依存に関する認識および新型コロナの影響

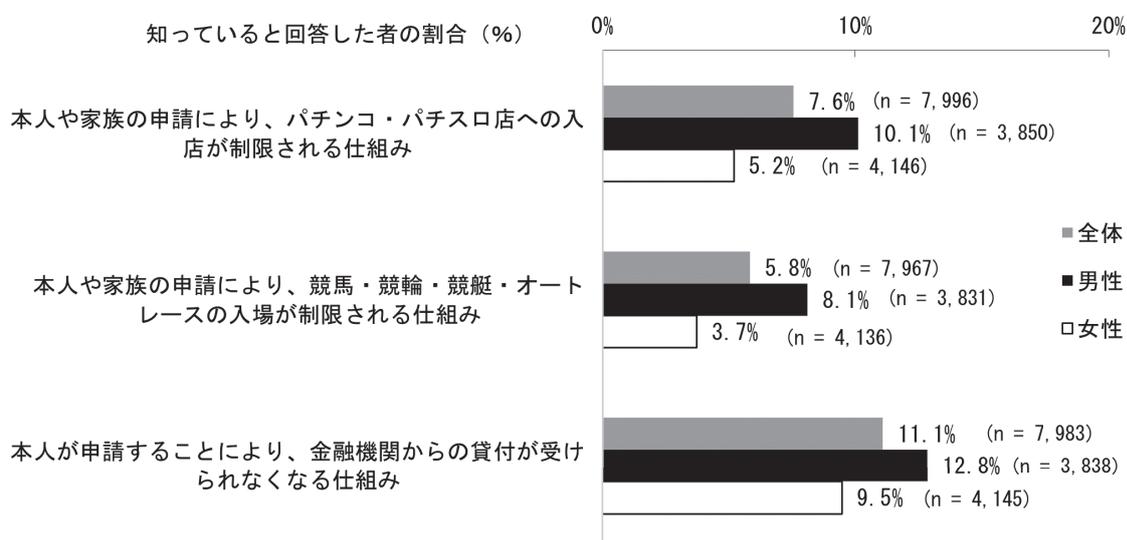
（1）ギャンブル等依存症対策の認知度

【問41】ギャンブル依存症対策に関する下記の①～③の仕組みについて、知っている、または、知らない、を選んで○をつけてください。

【全体の傾向】

ギャンブル等依存症対策に関して、「知っている」との回答は、全体の「パチンコ・パチスロの入店制限」は7.6%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」は5.8%、「金融機関からの貸付制限」が11.1%であった。また、全ての項目で女性より男性の方が「知っている」と回答した割合が高い傾向にあった。（図表2-54）

図表 2-54 ギャンブル等依存症対策の認知度



※問41 集計から除外：無回答

【ギャンブル等依存が疑われる者におけるギャンブル等依存症対策に関する認知度】

ギャンブル等依存症対策に関して、いずれの項目でも SOGS5 点以上の者は、5 点未満のものとは比べ、「知っている」と回答した割合が有意に高かった。SOGS5 点以上の者のうち、「パチンコ・パチスロの入店制限」は 25.0%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」は 16.0%、「金融機関からの貸付制限」は 19.6%が「知っている」と回答した。（図表 2-55）

図表 2-55 ギャンブル依存症対策等を「知っている」と回答した者の割合【SOGS 得点区分比較】

	本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み a	本人や家族の申請により、競馬・競輪・競艇・オートレースの入場が制限される仕組み b	本人が申請することにより、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組み c
SOGS5 点未満	543 (7.1%) 【有効回答数 7,607】	425 (5.6%) 【有効回答数 7,583】	832 (10.9%) 【有効回答数 7,599】
SOGS5 点以上	41 (25.0%) 【有効回答数 164】	26 (16.0%) 【有効回答数 163】	32 (19.6%) 【有効回答数 163】
全体	7,771	7,746	7,762

※集計から除外：問 41 で無回答，SOGS（問 22-35）に回答不備

※ χ^2 検定の結果 a： $\chi^2(1)=72.769, p<0.01$ ， b： $\chi^2(1)=29.293, p<0.01$ ， c： $\chi^2(1)=11.301, p<0.01$

(2) 依存症への考え方

【問 42】以下に掲げる病気になったのは、「本人の責任である」と思いますか。
(各疾患につき単一選択)

「本人の責任である」と思う人の割合（「そう思う」、「強くそう思う」の合計）はギャンブル依存症では 72.6%、アルコール依存症は 60.7%、うつ病では 8.8%であった。また、身体疾患で「本人の責任である」と思う人の割合は、がんは 3.6%、糖尿病は 28.5%であった。（図表 2-56）

図表 2-56 病気に対する考え方（男女別）

病気になったのは「本人の責任である」と思うか	うつ病		アルコール依存症	
	男性	女性	男性	女性
全くそう思わない	1,051 (27.7%)	1,237 (30.1%)	288 (7.6%)	237 (5.8%)
そう思わない	1,162 (30.6%)	1,380 (33.5%)	370 (9.7%)	425 (10.3%)
どちらでもない	1,150 (30.3%)	1,231 (29.9%)	783 (20.6%)	1,004 (24.4%)
そう思う	345 (9.1%)	222 (5.4%)	1,581 (41.6%)	1,762 (42.9%)
強くそう思う	87 (2.3%)	46 (1.1%)	779 (20.5%)	682 (16.6%)
n	3,795 (100.0%)	4,116 (100.0%)	3,801 (100.0%)	4,110 (100.0%)

病気になったのは「本人の責任である」と思うか	がん		ギャンブル依存症	
	男性	女性	男性	女性
全くそう思わない	1,851 (48.8%)	2,244 (54.6%)	243 (6.4%)	193 (4.7%)
そう思わない	923 (24.3%)	969 (23.6%)	235 (6.2%)	273 (6.7%)
どちらでもない	844 (22.3%)	788 (19.2%)	538 (14.2%)	683 (16.7%)
そう思う	133 (3.5%)	93 (2.3%)	1,511 (39.8%)	1,693 (41.3%)
強くそう思う	42 (1.1%)	19 (0.5%)	1,269 (33.4%)	1,260 (30.7%)
n	3,793 (100.0%)	4,113 (100.0%)	3,796 (100.0%)	4,102 (100.0%)

病気になったのは「本人の責任である」と思うか	糖尿病	
	男性	女性
全くそう思わない	593 (15.6%)	627 (15.2%)
そう思わない	664 (17.4%)	792 (19.2%)
どちらでもない	1,358 (35.6%)	1,632 (39.6%)
そう思う	973 (25.5%)	907 (22.0%)
強くそう思う	223 (5.9%)	160 (3.9%)
n	3,811 (100.0%)	4,118 (100.0%)

※問 42 集計から除外：設問内矛盾（2つ以上選択）、無回答、答えたくない

（3）新型コロナウイルス感染拡大とインターネットを使ったギャンブル

【問 50】 新型コロナウイルス感染症拡大前（令和2年1月時点）と現在を比べて、あなたのインターネットを使ったギャンブルはどのように変化しましたか。（単一選択）

【全体の傾向】

生涯ギャンブル経験のある者において、全体の87.4%がインターネットを使ったギャンブルを「したことがない」と回答した。「新たに始めた」と「する機会が増えた」の合計は2.2%、「する機会が減った」は1.5%であった。（図表 2-57）

図表 2-57 コロナ禍におけるインターネットを使ったギャンブル【全体】

		男性	女性	全体
コロナ禍におけるインターネットギャンブル利用の変化	新たに始めた	45 (1.4%)	15 (0.5%)	60 (1.0%)
	する機会が増えた	61 (1.9%)	12 (0.4%)	73 (1.2%)
	する機会が減った	68 (2.1%)	22 (0.8%)	90 (1.5%)
	する機会が変化はない	386 (11.7%)	155 (5.6%)	541 (8.9%)
	したことがない	2,733 (83.0%)	2,577 (92.7%)	5,310 (87.4%)
	全体	3,293 (100.0%)	2,781 (100.0%)	6,074 (100.0%)

※問 50 集計から除外：無回答（n=38）、答えたくない（n=18）

【ギャンブル等依存が疑われる者におけるコロナ禍のインターネットを使ったギャンブル】

過去1年間にギャンブル経験のある者で、問50に有効回答した者（N=2,510）を対象に、SOGs得点区分でインターネットギャンブル利用の変化について比較した。

インターネットを使ったギャンブルを「したことがない」と回答したのは、SOGs 5点未満の群では75.2%、SOGs 5点以上の群では67.3%であり、SOGs 5点以上の者でインターネットギャンブルの利用経験がある者が多かった。

新型コロナウイルス感染症拡大前の令和2年1月時点と比較し、インターネットを使ったギャンブルを「する機会が増えた」との回答は、SOGs 5点未満では2.2%で、SOGs 5点以上では7.3%で有意に高かった。一方、「する機会が減った」と回答した割合もSOGs 5点以上で有意に高かった。
 $(\chi^2(4)=23.114 p<.01)$ （図表2-58）

図表2-58 コロナ禍におけるインターネットを使ったギャンブル【SOGs得点区分比較】

SOGs 得点区分	インターネットギャンブル利用の変化					総計
	新たに 始めた (ns)	する機会が 増えた **	する機会が 減った *	する機会に 変化はない (ns)	したことが ない *	
5点未満	48 (2.0%)	51 (2.2%)	64 (2.7%)	418 (17.8%)	1,764 (75.2%)	2,345 (100.0%)
5点以上	3 (1.8%)	12 (7.3%)	10 (6.1%)	29 (17.6%)	111 (67.3%)	165 (100.0%)
SOGs 集計全体	51 (0.9%)	63 (2.5%)	74 (2.9%)	447 (17.8%)	1,875 (74.7%)	2,510 (100.0%)

※集計から除外：問50で無回答・無効回答（n = 11）

※残差分析の結果 * $p<.05$ ** $p<.01$, ns: 有意差なし

第3章 ギャンブル問題で相談機関や自助グループを利用する者の実態調査（調査B）

3.1 調査目的

ギャンブルを含む依存の問題のために、相談機関や自助グループを利用する者（当事者とその家族）の特徴、ギャンブル関連問題（多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪）の実態把握を目的として調査を実施した。

3.2 調査方法

（1）調査対象施設の抽出

依存症の相談支援を担う公的機関として、日本全国の精神保健福祉センター（69 か所）と、都道府県が所掌する依存症相談拠点となっている保健所（9 都道府県、84 か所）を抽出し、調査の依頼を行った。

（2）調査対象

本調査では、当事者向けの A 票と家族向けの B 票、2 種類の自記式アンケート調査を実施した。

A 票（当事者回答）は、ギャンブル問題を含む依存の問題で公的相談機関に来所した当事者および、ギャンブル依存の自助グループ（ギャンブラーズ・アノニマス（以下、GA））などに参加する有志（以下、自助グループ有志）を対象とした。

B 票（家族回答）は、ギャンブル問題を含む依存の問題で公的相談機関に来所した家族および、ギャンブル問題を抱える家族向けの自助グループ（ギヤマノンなど）に参加する有志（以下、家族向け自助グループ有志）とした。

（3）調査回答期間

令和2年11月30日～令和3年2月4日

（4）調査票名と調査内容

- ・ 調査票名：「さまざまな依存症におけるギャンブル問題の実態調査」
- ・ 調査内容

① A 票：当事者向け（自助グループ有志兼用）

- ・ 基本属性、背景情報（性別、年齢、婚姻状況、同居者、職業、年収等）
- ・ 依存問題の種類、相談に来た経緯、抑うつ気分尺度（K6）
- ・ ギャンブル行動（過去1年ギャンブル経験の有無、ギャンブルの種類、頻度、使う金額等）
- ・ ギャンブル障害のスクリーニングテスト（PGSI, NODS-CLIP）
- ・ ギャンブル関連問題（多重債務、養育困難の有無、小児期逆境体験、希死念慮・自殺企図の有無、触法行為の有無）
- ・ クロスアディクション（アルコール使用障害のスクリーニングテスト（AUDIT-C）、インターネットゲーム障害のスクリーニングテスト（IGDT-10）
- ・ 治療機関や自助グループ、回復支援施設、その他相談機関の利用経験に関する質問、行政への要望

② B票：家族向け（家族向け自助グループ有志兼用）

＜さまざまな依存の問題を抱える当事者のご家族共通の質問＞

- ・相談に来た経緯，性別，年齢，婚姻状況，同居者，職業，年収，抑うつ気分尺度（K6），希死念慮・自殺企図の有無，養育困難の有無，小児期逆境体験の有無，依存問題の相談経験の有無，行政への要望，自助グループ・家族会等の利用経験の有無等
- ・当事者との関係，当事者の依存問題の種類，当事者の生活支援制度利用の有無，当事者の触法行為を含む問題行為の有無等

＜ギャンブル問題を抱える当事者のご家族への質問＞

- ・問題となっているギャンブルの種類，家族がギャンブル問題から受けた影響，借金（立て替え経験）の有無，ギャンブルの停止状況等

（5）配布・回答・回収方法

配布方法は，日本全国 of 精神保健福祉センター（69 か所）と，都道府県が所掌する依存症相談拠点となっている保健所（9 都道府県，84 か所）に対して，調査説明文書一式と調査票セット（回答案内，調査票，返送用封筒）15 部を送付した。調査票は，各施設において依存症の相談支援を担当する職員より，対象者へと配布した。

なお，回答・回収方法は，2 形式から調査対象者が任意に選択できる形式とした。

- ①同封された紙の調査票に回答して返送用封筒にて返送する形式（以下，郵送回答という。）
 - ②回答案内に記載の URL から，インターネット経由で Web 回答する形式（以下，Web 回答という。）
- また，一部の自助グループ有志には回答案内を電子メールで送付し，Web 回答を依頼した。

（6）分析方法

A 票（当事者），B 票（家族）ともに，対象者が調査票を受け取った場所によって，大きく「公的相談機関に来所した対象者」と「自助グループ有志」に分けて解析した。さらに，公的相談機関に来所した当事者と家族については，当事者の抱える依存問題の種類によってグループに分けて集計した（群分け集計結果は「3.5 有効票の概要」を参照）。グループの比較には， χ^2 検定を用いた。 χ^2 検定にて有意差を認めた項目には，残差分析を適用し，どの比較に差が見られたかを検証した。有意水準は，5%，1%とした。

3.3 回収結果

A 票の総回収数は，377 通であった。内訳は，公的相談機関に来所した者は 114 通（郵送 102 通，Web12 通），自助グループ有志は 181 通（郵送 45 通，Web136 通），調査票を受け取った場所が不明の者は 82 通（郵送 7 通，Web75 通）であった。

B 票の総回収数は 643 通であった。内訳は，公的相談機関に来所した者は 134 通（郵送 117 通，Web17 通），自助グループ有志は 409 通（郵送 54 通，Web355 通），調査票を受け取った場所が不明の者は 110 通（郵送 10 通，Web100 通）であった。

3.4 データクレンジング基準の概要

（1）有効票の基準

A 票：問7（調査票を受け取った場所）を必須回答項目とし、回答しなかった者（n=82）は集計から除いた。また、問7の回答により自助グループ有志に区分されるもののうち、問8（問題となっている依存の種類）で「ギャンブルの問題」を選択していないもの（n=16）は有効回答から除外した。

B 票：問8（調査票を受け取った場所）を必須回答項目とし、回答しなかった者（n=110）は集計から除いた。また、問8の回答により家族向け自助グループ有志に区分されるもののうち、問10（当事者が抱えている問題）で「ギャンブルの問題」を選択していないもの（n=28）は有効回答から除外した。

（2）回答ミスの取り扱い

ア 単一選択設問に複数選択している場合

調査（A）と同様、単一選択すべき設問に、複数選択している場合は、原則不適切回答として該当設問の集計に含めていない。

一部、設問によって単一選択と判断できるものは、集計対象に含めている。

- ・例1：「答えたくない」とそれ以外の選択肢を選択している場合、それ以外の選択肢を優先
- ・例2：問4で「一人暮らし」とそれ以外の選択肢を選択している場合、「一人暮らし」を優先

イ 自由回答（数値）における異常値

年齢や金額等について、選択肢ではなく数値を回答する設問では、論理的に説明がつかない数値、社会常識から想定されない数値等の場合は異常値とみなし該当設問の集計に含めていない。

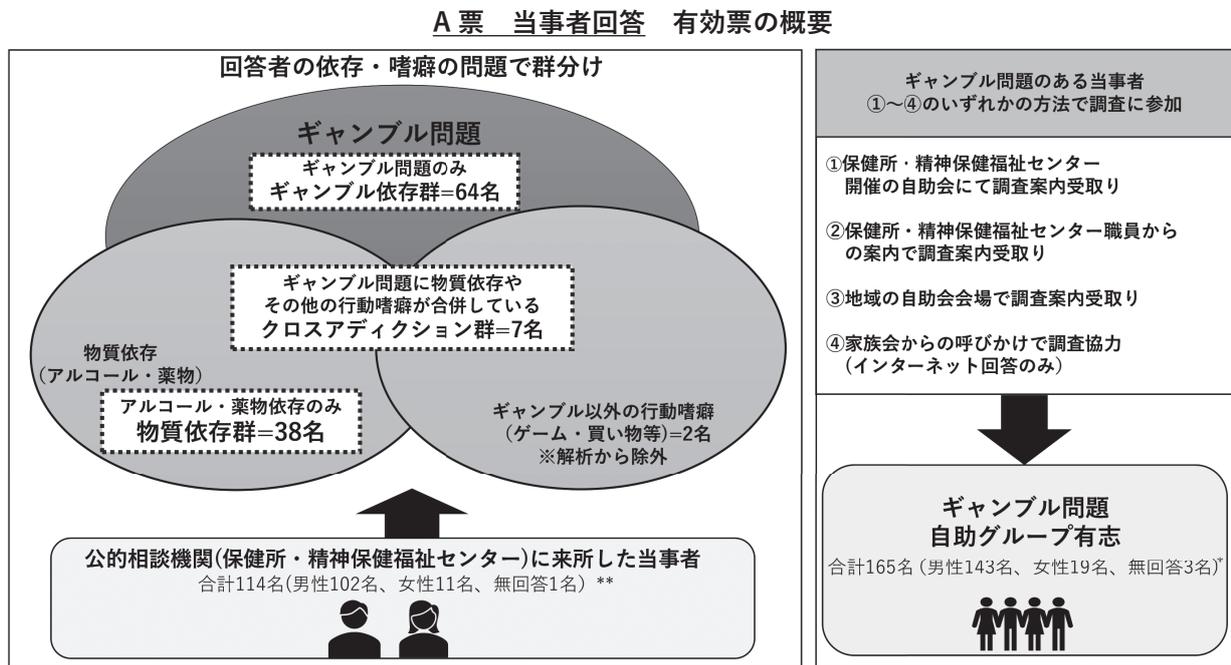
ウ 設問間の矛盾

設問間の矛盾回答は、個別に下記のいずれかの処理を実施した。

- ・不適切回答として該当設問の集計対象に含めない。
- ・どちらかの設問を正とし、もう片方の設問を訂正して集計する。

3.5 有効票の概要

(1) A票 当事者回答：有効票の概要



**[問8]で依存問題が無回答の3名は解析から除外

*[問7]で調査票を受け取った場所が無回答の82名は解析から除外

【A票：問7】（調査票を受け取った場所）の回答より、精神保健福祉センターおよび保健所経由で調査票を受け取ったと回答しているものを「公的相談機関」、GAの会場または、精神保健福祉センターで開催のGAで受け取ったと回答しているものを「自助グループ有志」として、2つのグループに分けてそれぞれ集計した。

【A票：問7】の集計結果より、公的相談機関に来所した者は114名、自助グループ有志は165名で、合計279名の回答を解析対象とした。（図表3-1）

【A票：問7】 この調査票は、どこでもらいましたか。（単一選択）

図表 3-1 当事者 – 調査票を受け取った場所（選択肢別）

	公的相談機関	自助グループ有志
精神保健福祉センターに相談に行ったとき	110 (96.5%)	0 (0.0%)
保健所に相談に行ったとき	4 (3.5%)	0 (0.0%)
GA（ギャンブラーズ・アノニマス）の会場	0 (0.0%)	151 (91.5%)
精神保健福祉センターで開催のGAに参加したとき	0 (0.0%)	14 (8.5%)
全体	114 (100.0%)	165 (100.0%)

さらに、公的相談機関に来所した者は、問8で尋ねた依存問題の種類別（図表3-2）の結果に基づき、「①ギャンブル依存群」「②物質依存群」「③クロスアディクション群」に分け、群間比較を行った。なお、各群の定義については図表3-3に示した。

【A票：問8】「問7」で答えた場所を利用することになった依存の問題は次のどれですか。
（複数選択）

図表 3-2 当事者 – 依存・嗜癖問題の種類

依存・嗜癖問題の種類	公的相談機関 (n=114)	自助グループ有志 (n=165)
ギャンブルの問題	71 (62.3%)	165 (100.0%)
アルコールの問題	20 (17.5%)	6 (3.6%)
薬物の問題	25 (21.9%)	4 (2.4%)
ゲームの問題	4 (3.5%)	4 (2.4%)
買い物の問題	2 (1.8%)	4 (2.4%)
盗癖	1 (0.9%)	8 (4.8%)
その他	0 (0.0%)	2 (1.2%)

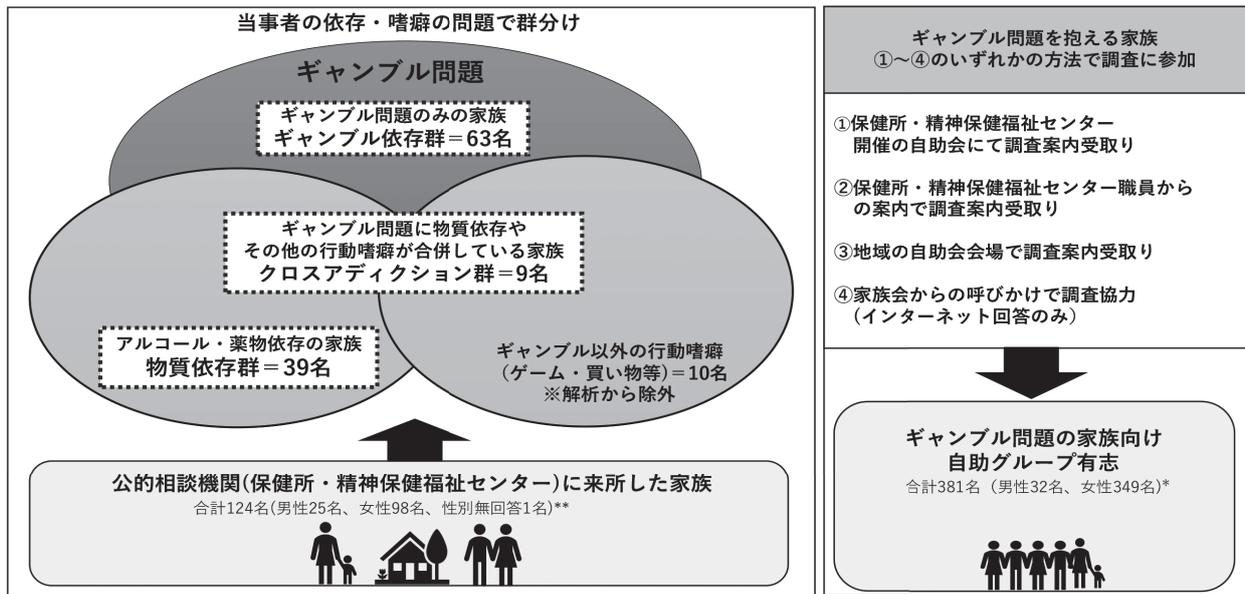


図表 3-3 当事者 – 依存・嗜癖問題の種類別の群分け：各群の定義

グループ名	定義
①ギャンブル依存群	ギャンブル依存の問題を抱える当事者
②物質依存群	アルコールまたは薬物依存の問題を抱える当事者
③クロスアディクション群	ギャンブル依存の問題に加えて、物質依存（アルコール・薬物）、あるいはその他（ゲーム、買い物、盗癖など）による行動嗜癖の問題を合併している当事者

(2) B票 家族回答：有効票の概要

B票 家族回答 有効票の概要



**[問10]で当事者の依存問題が無回答の3名は解析から除外

*[問8]で調査票を受け取った場所が無回答の110名は解析から除外

【B票：問8】（調査票を受け取った場所）の回答より、精神保健福祉センターおよび保健所経由で調査票を受け取ったと回答している回答者を「公的相談機関」、ギャマノンの会場または、精神保健福祉センターで開催のギャマノンで受け取ったと回答している回答者を「家族向け自助グループ有志」として2つのグループに分けてそれぞれ集計した。

【B票：問8】の集計結果より、公的相談機関は124名、家族向け自助グループ有志は381名で、合計505名の回答を解析対象とした。（図表3-4）

【B票：問8】 この調査票は、どこでもらいましたか。（単一選択）

図表3-4 家族－調査票を受け取った場所（選択肢別）

	公的相談機関	家族向け自助グループ有志
精神保健福祉センターに相談に行ったとき	116 (93.5%)	0 (0.0%)
保健所に相談に行ったとき	8 (6.5%)	0 (0.0%)
ギャマノン (GAM-ANON) の会場	0 (0.0%)	360 (94.5%)
精神保健福祉センターで開催のギャマノンに参加したとき	0 (0.0%)	21 (5.5%)
全体	124 (100.0%)	381 (100.0%)

さらに、公的相談機関に来所した家族は、【B票：問10】で尋ねた当事者の依存問題の種類別（図表3-5）の結果に基づき、「①ギャンブル依存群」「②物質依存群」「③クロスアディクション群」に分け、群間比較を行った。なお、各群の定義については図表3-6に示した。

【B票：問10】 あなたのご家族（依存の問題がある当事者）が抱えている問題は、次のどれですか。あてはまる全ての番号に○をつけてください。（複数選択）

図表 3-5 家族 – 依存・嗜癖問題の種類

依存の種類	公的相談機関 (n=124)	家族向け自助グループ有志 (n=381)
ギャンブルの問題	72 (58.1%)	381 (100.0%)
アルコールの問題	26 (21.0%)	11 (2.9%)
薬物の問題	27 (21.8%)	26 (6.8%)
ゲームの問題	3 (2.4%)	22 (5.8%)
買い物の問題	2 (1.6%)	18 (4.7%)
盗癖	6 (4.8%)	21 (5.5%)
その他	8 (6.5%)	18 (4.7%)



図表 3-6 家族 – 依存・嗜癖問題の種類別の群分け：各群の定義

グループ名	定義
①ギャンブル依存群	ギャンブル依存の問題を抱える家族
②物質依存群	アルコールまたは薬物依存の問題を抱える家族
③クロスアディクション群	ギャンブル依存の問題に加えて、物質依存（アルコール・薬物）、あるいはその他（ゲーム、買い物、盗癖など）の行動嗜癖による問題を合併している家族

3.6 【A票】当事者回答の結果

本項では、調査票「さまざまな依存症におけるギャンブル問題の実態調査」A票（依存問題のある当事者向け）の回答結果を設問項目の領域ごとにまとめて提示する。なお「公的相談機関」に来訪した者と、「ギャンブル問題自助グループ有志」は、グループごとに解析しているため、図表では、2つのグループの集計結果を並列して示す。

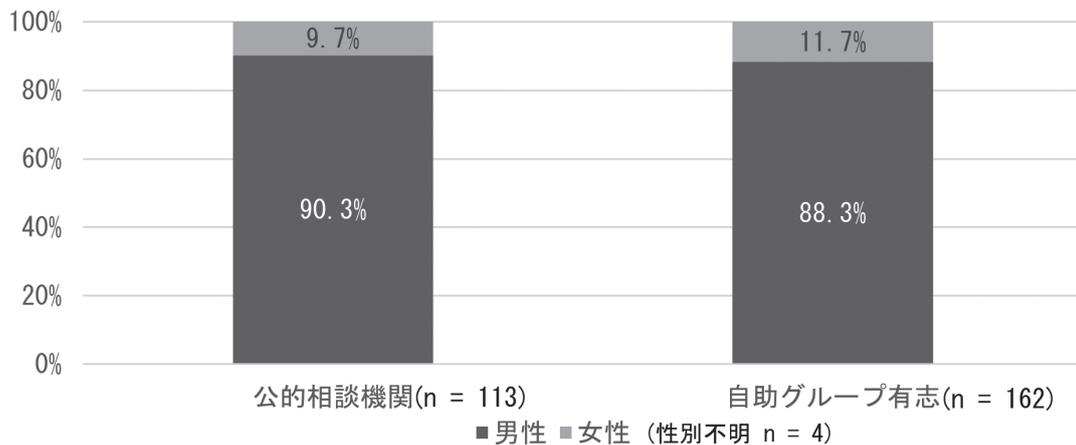
3.6.1 対象者の基本属性

（1）年齢・性別（当事者）

【A票：問1】 あなたの性別を教えてください。（単一選択）

公的相談機関について、男性が102名（90.3%）、女性が11名（9.7%）であった。自助グループ有志について、男性が143名（88.3%）、女性が19名（11.7%）であった。（図表3-7）

図表 3-7 当事者 – 調査票を受け取った場所別，性別



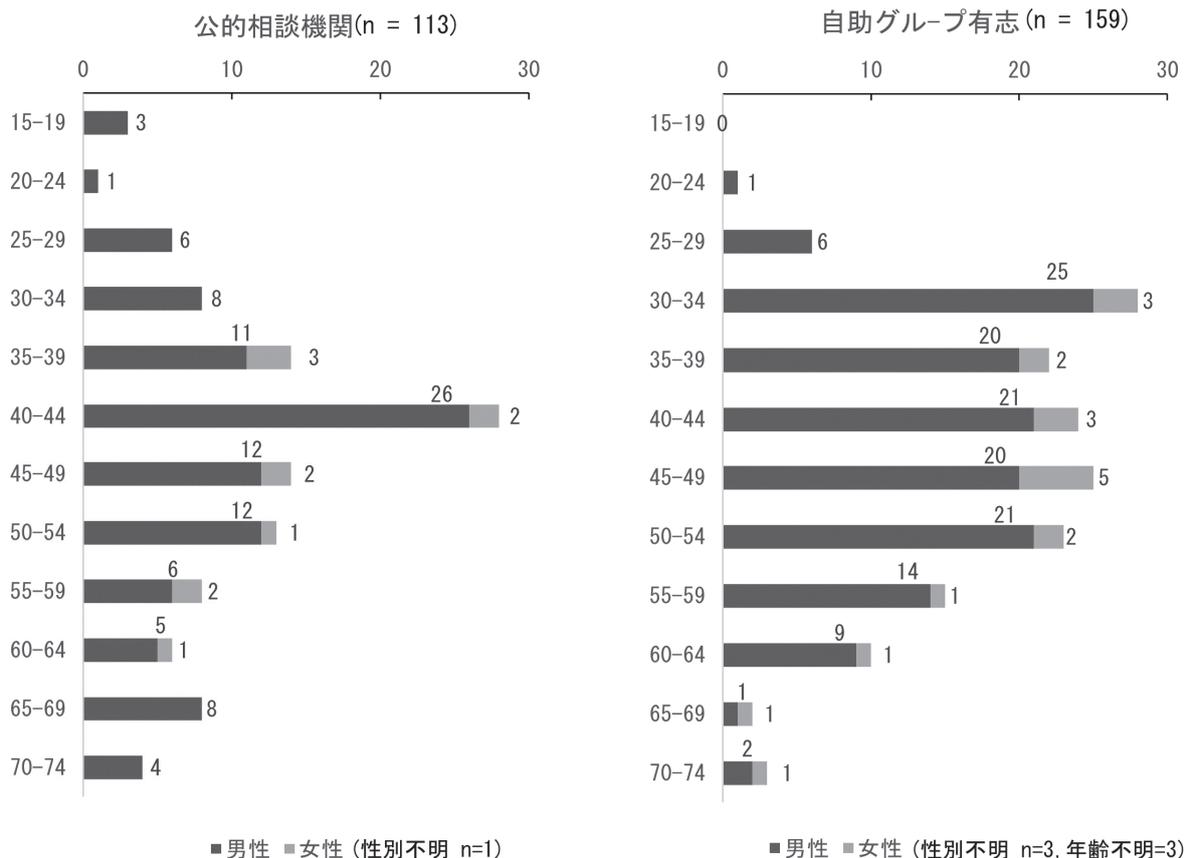
※欠損数：公的相談機関 =1, 自助グループ有志 =3

【A票：問2】 あなたの年齢を教えてください。（数値記述）

公的相談機関について、男性の平均年齢は45.5歳（標準偏差12.8歳）、女性の平均年齢は46.4歳（標準偏差9.2歳）であった。また、最も回答数が多かったのは男性が40-44歳、女性は35-39歳であった。

自助グループ有志について、男性の平均年齢は44.5歳（標準偏差10.8歳）、女性の平均年齢は47.0歳（標準偏差11.2歳）であった。また、最も回答数が多かったのは男性が30-34歳、女性は45-49歳であった。（図表3-8）

図表3-8 当事者 – 調査票を受け取った場所別、年齢区分・性別



※欠損数：公的相談機関 =1, 自助グループ有志 =6

（2）婚姻状況・同居家族（当事者）

【A票：問3】 あなたは現在、結婚されていますか。あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。（単一選択）

公的相談機関と自助グループ有志ともに、「結婚している」が最も割合が高く、次いで、「未婚（結婚したことがない）」、「離婚した」の順で割合が高かった。（図表3-9）

図表3-9 当事者－調査票を受け取った場所別，婚姻歴

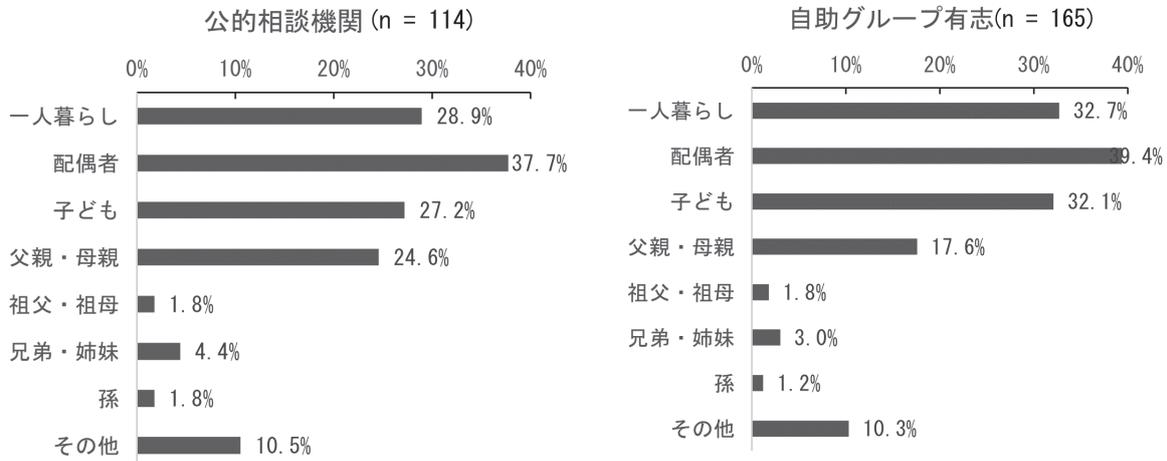
	公的相談機関	自助グループ有志
結婚している	45 (39.8%)	75 (45.5%)
内縁関係（配偶者のような関係）	4 (3.5%)	2 (1.2%)
死別した	1 (0.9%)	4 (2.4%)
離婚した	29 (25.7%)	28 (17.0%)
未婚（結婚したことがない）	33 (29.2%)	54 (32.7%)
別居中	1 (0.9%)	2 (1.2%)
全体	113 (100.0%)	165 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関=1，自助グループ有志=0

【A票：問4】 あなたは現在、だれと住んでいますか。（複数選択）

公的相談機関と自助グループ有志ともに、「配偶者」と同居している割合が最も高く、次いで、「一人暮らし」「子ども」との同居の順で割合が高かった。（図表3-10）

図表3-10 当事者－調査票を受け取った場所別，同居者



（3）職業・年収（当事者）

【A票：問5】現在のあなたの職業を教えてください。（単一選択）

公的相談機関と自助グループ有志ともに、「勤め（正社員・正職員）」が最も割合が高かった。無職（求職中、失業中、進路未定を含む）と回答した割合は、自助グループ有志（9.8%）に比べ、公的相談機関（20.2%）の方が高かった。（図表 3-11）

図表 3-11 当事者－調査票を受け取った場所別，職業

	公的相談機関	自助グループ有志
自営・自由業者・経営者（家族従業を含む）	4（3.5%）	10（6.1%）
勤め（正社員・正職員）	54（47.4%）	98（59.8%）
勤め（契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト）	22（19.3%）	25（15.2%）
学生	1（0.9%）	3（1.8%）
家事専業（専業主婦・専業主夫）	2（1.8%）	2（1.2%）
無職（求職中、失業中、進路未定を含む）	23（20.2%）	16（9.8%）
無職（退職者、今後就業予定のない者）	6（5.3%）	5（3.0%）
その他	2（1.8%）	5（3.0%）
全体	114（100.0%）	164（100.0%）

※欠損数：自助グループ有志 = 1

【A票：問6】あなたの年収（税込み）は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ合計額でお答えください。（単一選択）

公的相談機関は、「300万円以上～400万円未満」の割合が最も高かった。自助グループ有志は、「400万円以上～600万円未満」の割合が最も高かった。（図表 3-12）

図表 3-12 当事者－調査票を受け取った場所別，年収

	公的相談機関	自助グループ有志
収入なし	8（7.3%）	7（4.8%）
1円以上～100万円未満	14（12.8%）	6（4.1%）
100万円以上～200万円未満	19（17.4%）	14（9.5%）
200万円以上～300万円未満	17（15.6%）	21（14.3%）
300万円以上～400万円未満	24（22.0%）	28（19.0%）
400万円以上～600万円未満	18（16.5%）	31（21.1%）
600万円以上～800万円未満	7（6.4%）	22（15.0%）
800万円以上～1,000万円未満	1（0.9%）	11（7.5%）
1,000万円以上～1,200万円未満	1（0.9%）	6（4.1%）
1,200万円以上～1,500万円未満	0（0.0%）	0（0.0%）
1,500万円以上	0（0.0%）	1（0.7%）
総計	109（100.0%）	147（100.0%）

※欠損数：公的相談機関 = 5，自助グループ有志 = 18

3.6.2 相談支援や国の制度の利用状況・行政に求める支援

（1）公的相談機関や自助グループを利用したきっかけ（当事者）

【A票：問9】 【問7】で答えた場所を利用することになったきっかけについて教えてください。（複数選択）

公的相談機関の利用者は、「家族にすすめられた」の割合が最も高く、次いで、「自分からホームページなどで探した」、「友人、知人にすすめられた」の割合が高かった。

自助グループ有志は、「家族にすすめられた」の割合が最も高く、次いで、「医療機関ですすめられた」、「自分からホームページなどで探した」の割合が高かった。（図表 3-13）

図表 3-13 当事者－利用のきっかけ

利用のきっかけ	公的相談機関			自助グループ有志		
	男性 (n=102)	女性 (n=11)	全体 (n=113)	男性 (n=143)	女性 (n=19)	全体 (n=162)
友人、知人にすすめられた	12 (11.8%)	1 (9.1%)	13 (11.5%)	10 (7.0%)	5 (26.3%)	15 (9.3%)
家族にすすめられた	43 (42.2%)	3 (27.3%)	46 (40.7%)	70 (49.0%)	1 (5.3%)	71 (43.8%)
医療機関ですすめられた	8 (7.8%)	3 (27.3%)	11 (9.7%)	45 (31.5%)	3 (15.8%)	48 (29.6%)
法律や司法の専門家に すすめられた	11 (10.8%)	1 (9.1%)	12 (10.6%)	8 (5.6%)	1 (5.3%)	9 (5.6%)
自分からホームページなどで 探した	23 (22.5%)	2 (18.2%)	25 (22.1%)	35 (24.5%)	10 (52.6%)	45 (27.8%)
その他	12 (11.8%)	1 (9.1%)	13 (11.5%)	12 (8.4%)	2 (10.5%)	14 (8.6%)

※欠損数：公的相談機関 = 1, 自助グループ有志 = 3

（2）相談支援機関の利用状況（当事者）

【A票：問10】 あなたはこれまでに、依存の問題で以下のところに相談や援助を求めたことがありますか。あてはまるもの全てに○をしてください。（複数選択）

公的相談機関は、全体では「病院やクリニックの受診」の割合が最も高く、次いで、「自助グループ」、「公的な相談機関（市区町村や精神保健福祉センター、保健所等）」の割合が高かった。

自助グループ有志は、全体では「自助グループ」の割合が最も高く、次いで、「病院やクリニックの受診」、「法律の専門家（弁護士、司法書士等）」の割合が高かった。（図表 3-14）

図表 3-14 当事者－依存の問題で相談援助を求めた経験

相談先	公的相談機関			自助グループ有志		
	男性 (n=102)	女性 (n=11)	全体 (n=113)	男性 (n=143)	女性 (n=19)	全体 (n=162)
法律の専門家 (弁護士、司法書士等)	12 (11.8%)	3 (27.3%)	15 (13.3%)	48 (33.6%)	1 (5.3%)	49 (30.2%)
病院やクリニックの受診	49 (48.0%)	7 (63.6%)	56 (49.6%)	85 (59.4%)	9 (47.4%)	94 (58.0%)
公的な相談機関（市区町村や精神 保健福祉センター、保健所等）	35 (34.3%)	4 (36.4%)	39 (34.5%)	25 (17.5%)	8 (42.1%)	33 (20.4%)
民間の相談機関 (無料電話相談、回復施設)	20 (19.6%)	2 (18.2%)	22 (19.5%)	37 (25.9%)	2 (10.5%)	39 (24.1%)
自助グループ	42 (41.2%)	5 (45.5%)	47 (41.6%)	109 (76.2%)	13 (68.4%)	122 (75.3%)
警察	5 (4.9%)	0 (0.0%)	5 (4.4%)	1 (0.7%)	1 (5.3%)	2 (1.2%)
その他	1 (1.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)	2 (1.2%)
あてはまるものはない	20 (19.6%)	2 (2%)	22 (21.6%)	9 (6.3%)	1 (0.7%)	10 (7.0%)

※欠損数：公的相談機関 = 1, 自助グループ有志 = 3

（3）経済的な支援制度の利用状況（当事者）

【A票：問11】 あなたはこれまでに次の制度を利用したことがありますか。（単一選択）

生活保護を利用したことがあるとの回答割合は、公的相談機関は、男性 21.1%、女性 37.5%であった。自助グループ有志は、男性 13.6%、女性 33.3%であった。（図表 3-15）

債務整理（自己破産・個人再生・任意整理等）を利用したことがあるとの回答割合は、公的相談機関は、男性 37.1%、女性 55.6%であった。自助グループ有志は、男性では 54.6%、女性では 33.3%であった。（図表 3-16）

図表 3-15 当事者 – 生活保護の利用

生活保護の利用有無	公的相談機関			自助グループ有志		
	男性	女性	全体	男性	女性	全体
利用したことがある	19 (21.1%)	3 (37.5%)	22 (22.4%)	19 (13.6%)	6 (33.3%)	25 (15.8%)
利用したことがない	71 (78.9%)	5 (62.5%)	76 (77.6%)	121 (86.4%)	12 (66.7%)	133 (84.2%)
全体	90 (100.0%)	8 (100.0%)	98 (100.0%)	140 (100.0%)	18 (100.0%)	158 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 =15, 自助グループ有志 =4

図表 3-16 当事者 – 債務整理（自己破産・個人再生・任意整理等）の利用

債務整理の利用有無	公的相談機関			自助グループ有志		
	男性	女性	全体	男性	女性	全体
利用したことがある	36 (37.1%)	5 (55.6%)	41 (38.7%)	77 (54.6%)	6 (33.3%)	83 (52.2%)
利用したことがない	61 (62.9%)	4 (44.4%)	65 (61.3%)	64 (45.4%)	12 (66.7%)	76 (47.8%)
全体	97 (100.0%)	9 (100.0%)	106 (100.0%)	141 (100.0%)	18 (100.0%)	159 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 =7, 自助グループ有志 =3

（4）行政に求める支援（当事者）

【A票：問36】 行政により一層取り組んで欲しいことについて、該当するものすべてに○をつけてください。（複数選択）

行政により一層取り組んで欲しいことについては、公的相談機関は、「依存症の治療ができる医療機関を増やす」の割合が最も高かった。自助グループ有志は「依存症に関する正しい知識や理解の普及啓発」の割合が最も高かった。（図表 3-17）

図表 3-17 当事者 – 行政に対する要望

行政に対する要望	公的相談機関			自助グループ有志		
	男性 (n=102)	女性 (n=11)	全体 (n=113)	男性 (n=143)	女性 (n=19)	全体 (n=162)
依存症に関する正しい知識や理解の普及啓発	50 (49%)	7 (63.6%)	57 (50.4%)	110 (76.9%)	12 (63.2%)	122 (75.3%)
依存症に関する相談窓口の周知・拡大	53 (52%)	4 (36.4%)	57 (50.4%)	94 (65.7%)	12 (63.2%)	106 (65.4%)
依存症の治療ができる医療機関を増やす	55 (53.9%)	5 (45.5%)	60 (53.1%)	61 (42.7%)	11 (57.9%)	72 (44.4%)
自助グループや民間団体への支援・連携の強化	44 (43.1%)	5 (45.5%)	49 (43.4%)	104 (72.7%)	16 (84.2%)	120 (74.1%)
その他	3 (2.9%)	0 (0.0%)	3 (2.7%)	5 (3.5%)	0 (0.0%)	5 (3.1%)
特になし	1 (1.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	3 (2.1%)	1 (5.3%)	4 (2.5%)

※欠損数：公的相談機関 =1, 自助グループ有志 =3

3.6.3 公的相談機関および自助グループを利用する者のギャンブル問題

ここでは、公的相談機関の利用者のうち、ギャンブル問題を抱えている者（【A票：問8】で、依存の対象を「ギャンブル問題」と回答した者）を抽出し、過去1年のギャンブル経験、ギャンブルの種類や頻度、ギャンブルに費やす金額、ギャンブルをするようになった経緯、ギャンブル障害のスクリーニングテスト等に関する質問の回答結果を示す。

同様に、自助グループ有志のうち、【A票：問8】で、依存の対象を「ギャンブル問題」と回答した者を抽出し、ギャンブル問題に関する項目の集計を行った。

以下、公的相談機関と自助グループ有志における、「ギャンブル問題」に関する集計結果を併記して示す。

（1）過去1年のギャンブル経験とギャンブルの種類

公的相談機関の利用者のうち、【A票：問8】で「ギャンブルの問題」と回答した者は71名で、そのうち過去1年ギャンブル経験の有る者は50名であった。過去1年間で経験したギャンブルの種類は、割合が高い順に、パチンコ（52.2%）、パチスロ（50.7%）、宝くじ（27.5%）であった。また、19名（依存の対象がギャンブル問題と回答した者の27.5%）は「過去1年間ギャンブルをしていない」と回答した。（図表3-18）

自助グループ有志のうち、【A票：問8】で「ギャンブルの問題」と回答した者は165名で、そのうち過去1年ギャンブル経験の有る者は70名であった。過去1年間で経験したギャンブルの種類は、割合が高い順に、パチンコ（26.3%）、パチスロ（23.1%）、競馬（11.3%）であった。また、90名（依存の対象がギャンブル問題と回答した者の56.3%）は「過去1年間ギャンブルをしていない」と回答した。（図表3-18）

【A票：問15】 あなたは過去1年間にギャンブルをしましたか。この調査でギャンブルとは、下表の（ア）～（シ）のことです。過去1年間に経験したものの全ての番号に○をつけてください。（複数選択）

図表3-18 当事者－過去1年間に経験したギャンブル

過去1年間で経験したギャンブル	公的相談機関 (n=69)	自助グループ有志 (n=160)
(ア) パチンコ	36 (52.2%)	42 (26.3%)
(イ) パチスロ	35 (50.7%)	37 (23.1%)
(ウ) 競馬	17 (24.6%)	18 (11.3%)
(エ) 競輪	11 (15.9%)	6 (3.8%)
(オ) 競艇	10 (14.5%)	9 (5.6%)
(カ) オートレース	4 (5.8%)	2 (1.3%)
(キ) 宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	19 (27.5%)	14 (8.8%)
(ク) サッカーくじ	7 (10.1%)	2 (1.3%)
(ケ) 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX ※仕事などの業務で行うものは除く	6 (8.7%)	7 (4.4%)
(コ) インターネットを使ったギャンブル (競馬、競輪、競艇、オートレースを除く)	9 (13.0%)	8 (5.0%)
(サ) 海外のカジノ	2 (2.9%)	2 (1.3%)
(シ) その他のギャンブル	2 (2.9%)	3 (1.9%)
(ス) 過去1年間ギャンブルをしていない	19 (27.5%)	90 (56.3%)

※欠損数：公的相談機関=2，自助グループ有志=5

※以下、(2)～(6)は「過去1年間にギャンブル経験のある者」を解析対象とした結果を示す。

(2) 過去1年のギャンブルの頻度・インターネットを使ったギャンブル

【A票：問16】 前の【問15】で○をつけたギャンブルについて、過去1年間はどのくらいの頻度で行いましたか。下表の「1：週1回未満，2：週1回以上」からあてはまる番号を1つ選んでください。（単一選択）

【問15】で過去1年間に（ア）～（シ）のいずれかのギャンブルを経験したと回答した者（過去1年間のギャンブル経験あり）を対象に、過去1年間のギャンブルの頻度を尋ねた。

公的相談機関は、週1回以上の割合が最も高いものは、パチスロ、次いでパチンコ、宝くじであった。

自助グループ有志は、週1回以上の割合が最も高いものは、パチンコ、次いでパチスロ、競馬であった。（図表3-19）

図表3-19 当事者－過去1年間のギャンブル頻度

過去1年間で経験したギャンブル	公的相談機関* (n=50)			自助グループ有志* (n=70)		
	週1回未満	週1回以上	合計	週1回未満	週1回以上	合計
(ア) パチンコ	9 (18.0%)	24 (48.0%)	33	9 (12.9%)	32 (45.7%)	41
(イ) パチスロ	6 (12.0%)	28 (56.0%)	34	12 (17.1%)	25 (35.7%)	37
(ウ) 競馬	9 (18.0%)	6 (12.0%)	15	4 (5.7%)	14 (20.0%)	18
(エ) 競輪	5 (10.0%)	5 (10.0%)	10	0 (0.0%)	6 (8.6%)	6
(オ) 競艇	3 (6.0%)	5 (10.0%)	8	3 (4.3%)	6 (8.6%)	9
(カ) オートレース	2 (4.0%)	1 (2.0%)	3	0 (0.0%)	2 (2.9%)	2
(キ) 宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	8 (16.0%)	8 (16.0%)	16	11 (15.7%)	3 (4.3%)	14
(ク) サッカーくじ	5 (10.0%)	0 (0.0%)	5	2 (2.9%)	0 (0.0%)	2
(ケ) 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX ※仕事などの業務で行うものは除く	3 (6.0%)	1 (2.0%)	4	4 (5.7%)	3 (4.3%)	7
(コ) インターネットを使ったギャンブル （競馬、競輪、競艇、オートレースを除く）	3 (6.0%)	5 (10.0%)	8	1 (1.4%)	6 (8.6%)	7
(サ) 海外のカジノ	1 (2.0%)	0 (0.0%)	1	0 (0.0%)	2 (2.9%)	2
(シ) その他のギャンブル	1 (2.0%)	0 (0.0%)	1	1 (1.4%)	2 (2.9%)	3

※【A票：問15】で「(ス) 過去1年間ギャンブルをしていない」を選択した者を除く、公的相談機関（n=50）、自助グループ有志（n=70）に占める割合

【A票：問17】 【問15】で（3）競馬，（4）競輪，（5）競艇，（6）オートレースのいずれかに○をつけた人にお尋ねします。主にどこで券を購入しますか。競技ごとに、あてはまる番号を1つお選びください。（単一選択）

問15にて過去1年間に競馬，競輪，競艇，オートレースの経験ありと答えた者を対象として集計した。

公的相談機関と自助グループ有志ともに、公営競技の主な券の購入場所として、競馬，競輪，競艇，オートレースの全てにおいて、インターネット購入を利用する者（「オンライン（インターネット）」と「ギャンブル場/場外とオンラインの両方」のいずれかを選択した者）の割合が高かった。（図表3-20）

図表 3-20 当事者 - 公営競技：主な券の購入場所

	公的相談機関				自助グループ有志			
	ギャンブル場、または、場外売り場	オンライン（インターネット）	ギャンブル場/場外とオンラインの両方	全体	ギャンブル場、または、場外売り場	オンライン（インターネット）	ギャンブル場/場外とオンラインの両方	全体
競馬	2(12.5%)	11(68.8%)	3(18.8%)	16(100.0%)	2(11.1%)	12(66.7%)	4(22.2%)	18(100.0%)
競輪	2(20.0%)	7(70.0%)	1(10.0%)	10(100.0%)	0(0.0%)	6(100.0%)	0(0.0%)	6(100.0%)
競艇	2(22.2%)	3(33.3%)	4(44.4%)	9(100.0%)	1(11.1%)	5(55.6%)	3(33.3%)	9(100.0%)
オートレース	1(33.3%)	1(33.3%)	1(33.3%)	3(100.0%)	0(0.0%)	2(100.0%)	0(0.0%)	2(100.0%)

※欠損数：公的相談機関（競馬=1，競輪=1，競艇=1，オートレース=1）

（3）過去1年ギャンブルに使ったお金

【A票：問18】 過去1年間、あなたが最もお金を使ったギャンブルはどれですか。1～13からあてはまる番号を一つ選んでください。（単一選択）

公的相談機関の利用者と自助グループ有志ともに、過去1年間に最もお金を使ったギャンブルの種類は、パチスロが最多、次いでパチンコ，競馬であった。（図表3-21）

図表 3-21 当事者 - 最もお金を使ったギャンブル

過去1年間で経験したギャンブル	公的相談機関 (n=45)	自助グループ有志 (n=68)
パチンコ	11 (24.4%)	16 (23.5%)
パチスロ	17 (37.8%)	22 (32.4%)
競馬	8 (17.8%)	14 (20.6%)
競輪	2 (4.4%)	1 (1.5%)
競艇	4 (8.9%)	5 (7.4%)
オートレース	0 (0.0%)	0 (0.0%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	1 (2.2%)	2 (2.9%)
サッカーくじ	1 (2.2%)	0 (0.0%)
証券の信用取引，先物取引市場への投資，FX ※仕事などの業務で行うものは除く	0 (0.0%)	2 (2.9%)
インターネットを使ったギャンブル (競馬，競輪，競艇，オートレースを除く)	0 (0.0%)	1 (1.5%)
海外のカジノ	0 (0.0%)	1 (1.5%)
その他のギャンブル	0 (0.0%)	3 (4.4%)
いずれのギャンブルもしたことがない	1 (2.2%)	1 (1.5%)
全体	45 (100.0%)	68 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関=5，自助グループ有志=2

【A票：問19】 過去1年間、1ヶ月あたりギャンブルにどのくらいお金をかけていますか。勝ったお金は含めずにお答えください。（数値記述）

公的相談機関について、1ヶ月あたりにギャンブルにかかる金額の平均値は298,854円、中央値は75,000円、範囲は0-7,000,000円、標準偏差は1,054,954円であった。（n=50）

自助グループ有志について、1ヶ月あたりにギャンブルにかかる金額の平均値は480,456円、中央値は100,000円、範囲は0-10,000,000円、標準偏差は1,418,693円であった。（n=64 欠損数6）

（4）ギャンブルに関連した借金

【A票：問20】 あなたは、これまでにギャンブルに関連して借金したことはありますか。また、その総額はいくらですか。（数値記述）

公的相談機関について、ギャンブルに関連した借金額の平均値は3,939,773円、中央値は3,000,000円、範囲は50,000-10,000,000円、標準偏差は2,848,798円であった。（n=44 欠損数6）

自助グループ有志について、ギャンブルに関連した借金額の平均値は7,503,237円、中央値は3,000,000円、範囲は100-80,000,000円、標準偏差は11,685,152円であった。（n=62 欠損数8）

（5）ギャンブルをするようになった経緯

【A票：問21】 初めてギャンブルをしたのは何歳の時でしたか。（数値記述）

公的相談機関について、初めてギャンブルをした年齢の平均値は21.0歳（男性20.6歳、女性25.8歳）、中央値は20.0歳、範囲は8.0-50.0歳、標準偏差は6.0歳であった。（n=49 欠損数1）

自助グループ有志について、初めてギャンブルをした年齢の平均値は20.2歳（男性20.2歳、女性20.7歳）、中央値は20.0歳、範囲は4.0-45.0歳、標準偏差は6.2歳であった。（n=67 欠損数3）

【A票：問22】 あなたが、初めてギャンブルをした時の状況に最も近いものを1つ選んでください。（単一選択）

公的相談機関と自助グループ有志ともに、「ギャンブルをする友人に誘われて」の割合が最も高かった。（図表3-22・図表3-23）

図表3-22 当事者－初めてギャンブルをした時の状況

	公的相談機関	自助グループ有志
自分一人で	13 (26.5%)	22 (31.9%)
ギャンブルをする友人に誘われて	24 (49.0%)	32 (46.4%)
ギャンブルをする親に誘われて	3 (6.1%)	7 (10.1%)
ギャンブルをする兄弟姉妹に誘われて	0 (0.0%)	1 (1.4%)
ギャンブルをする交際相手に誘われて	3 (6.1%)	3 (4.3%)
ギャンブルをする親・兄弟姉妹以外の親戚に誘われて	1 (2.0%)	1 (1.4%)
その他	5 (10.2%)	3 (4.3%)
あてはまるものはない	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全体	49 (100.0%)	69 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関=1，自助グループ有志=1

図表 3-23 当事者 – 初めてギャンブルをした時の状況（その他内訳）

	公的相談機関	自助グループ有志
その他内訳	仕事の都合による、上司に誘われて、職場の上司に誘われて、会社のオーナーに連れていってもらった、夫・友人	上司か友人、店員に誘われて、学校の先輩

【A票：問23】 あなたが、少なくとも月1回以上の頻度で、習慣的にギャンブルをするようになったのは何歳でしたか。（数値記述）

公的相談機関について、習慣的にギャンブルをするようになった年齢の平均値は24.2歳（男性23.6歳、女性30.2歳）、中央値は22.0歳、範囲は18.0-29.0歳、標準偏差は7.7歳であった。（n=49 欠損数1）

自助グループ有志について、習慣的にギャンブルをするようになった年齢の平均値は23.7歳（男性23.7歳、女性23.9歳）、中央値は21.0歳、範囲は12.0-50.0歳、標準偏差は8.5歳であった。（n=65 欠損数5）

（6）ギャンブル障害のスクリーニングテスト

【A票：問27】 以下9つの質問について、過去1年間のあなたの状況に最もよくあてはまる番号を「0：全くない」～「3：ほとんどいつも」から1つ選んでください。（単一選択）（PGSI、ギャンブル問題のスクリーニングテスト）

公的相談機関について、PGSIが8点以上であったのは、全体で91.3%、男性では90.2%、女性では100.0%であった。

自助グループ有志について、PGSIが8点以上であったのは、全体で84.1%、男性では82.5%、女性では100.0%であった。（図表3-24）

図表 3-24 当事者 – PGSI 得点

		公的相談機関			自助グループ有志		
		男性	女性	全体	男性	女性	全体
PGSI 得点	0-7点	4 (9.8%)	0 (0.0%)	4 (8.7%)	10 (17.5%)	0 (0.0%)	10 (15.9%)
	8点以上	37 (90.2%)	5 (100.0%)	42 (91.3%)	47 (82.5%)	6 (100.0%)	53 (84.1%)
	全体	41 (100.0%)	5 (100.0%)	46 (100.0%)	57 (100.0%)	6 (100.0%)	63 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関=4、自助グループ有志=7

3.6.4 過去1年ギャンブルをしていない理由

【A票：問15】で過去1年ギャンブルをしていないと回答した者を対象に、ギャンブルをしていない理由および、最後にギャンブルをした時期について尋ねた。

【A票：問28】 過去1年間、ギャンブルをしていない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をしてください。（複数選択）

公的相談機関、自助グループ有志ともに「自助グループに通ってやめたから」と回答した割合が最も高かった。（図表3-25）

図表 3-25 当事者 – 過去1年間ギャンブルをしていない理由

	公的相談機関 (n=19)	自助グループ有志 (n=90)
医療機関で治療を受けてやめたから	9 (47.3%)	20 (22.2%)
自助グループに通ってやめたから	14 (73.6%)	84 (93.3%)
特に理由はない	0 (0.0%)	4 (4.44%)
ギャンブル以外の楽しみをみつけたから	4 (21.0%)	33 (36.6%)
お金がないから	4 (21.0%)	10 (11.1%)
その他	4 (21.0%)	12 (13.3%)

【A票：問29】 あなたが最後にギャンブルをしたのはいつですか。（数値記述）

公的相談機関について、「2000年1月頃～2009年12月頃」「2010年1月頃～2014年12月頃」「2018年1月頃～2018年12月頃」「2019年1月頃～2019年12月頃」と回答した者が1名ずつ存在した。自助グループ有志について、「2010年1月頃～2014年12月頃」と回答した者の割合が最も高かった。なお、この項目は有効回答の31.2%（34件）が無回答であった。最後にギャンブルをした年月を記憶していない者が多かったと思われる解釈には留意が必要である。（図表3-26）

図表 3-26 当事者 – 最後にギャンブルをした時期

	公的相談機関	自助グループ有志
2000年1月頃～2009年12月頃	1 (25.0%)	8 (11.3%)
2010年1月頃～2014年12月頃	1 (25.0%)	22 (31.0%)
2015年1月頃～2015年12月頃	0 (0.0%)	6 (8.5%)
2016年1月頃～2016年12月頃	0 (0.0%)	9 (12.7%)
2017年1月頃～2017年12月頃	0 (0.0%)	12 (16.9%)
2018年1月頃～2018年12月頃	1 (25.0%)	8 (11.3%)
2019年1月頃～2019年12月頃	1 (25.0%)	6 (8.5%)
全体	4 (100.0%)	71 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 = 15, 自助グループ有志 = 19

3.6.5 ギャンブラーズ・アノニマスの利用状況

【A票：問40】 あなたはGA（ギャンブラーズ・アノニマス）を利用したことがありますか。（単一選択）

公的相談機関は、GAの利用経験があると答えたのは、31人（50.0%）、GAの利用経験がないと答えたのは、31人（50.0%）であった。（n=62 欠損数9）

自助グループ有志は、GAの利用経験があると答えたのは、145人（98.0%）、GAの利用経験がないと答えたのは、3人（2.0%）であった。（n=148 欠損数17）

問41～43は、問40でGAの利用経験があると答えたものを対象に（公的相談機関:31名、自助グループ有志:145名）を対象に尋ねた結果を示す。

【A票：問41】 問題に気づいてからGAにつながるまで、どのくらいの期間がありましたか。（数値記述）

公的相談機関について、GAにつながるまでにかかった期間の平均値は47.6ヶ月、中央値が6.0ヶ月、範囲は1.0-288.0ヶ月、標準偏差は77.6ヶ月であった。（n=29 欠損数2）

自助グループ有志について、GAにつながるまでにかかった期間の平均値は63.1ヶ月、中央値が36ヶ月、範囲は0-380ヶ月、標準偏差は78.8ヶ月であった。（n=132 欠損数13）

【A票：問42】 あなたがGAに通いはじめてどのくらいの期間になりますか。（数値記述）

公的相談機関について、GAに通っている期間は平均値が44.5ヶ月、中央値が24.0ヶ月、範囲は1.0-175.0ヶ月、標準偏差は47.1ヶ月であった。（n=27 欠損数4）

自助グループ有志について、GAに通っている期間は平均値が55.1ヶ月、中央値が42ヶ月範囲は1.0-236ヶ月、標準偏差は52.3ヶ月であった。（n=135 欠損数10）

【A票：問43】 あなたがGAに参加して、良かったことに○をつけてください。（複数選択）

公的相談機関について、「自分ひとりじゃないと思えた」の割合が最も高く、次いで、「参加すると気持ちが軽くなる」、「同じ悩みを持つ仲間とのネットワークが広がった」の割合が高かった。

自助グループ有志について、「自分ひとりじゃないと思えた」の割合が最も高く、次いで、「参加すると気持ちが軽くなる」「同じ悩みを持つ仲間とのネットワークが広がった」の割合が同率で高かった。（図表3-27）

図表3-27 当事者-GAに参加してよかったこと

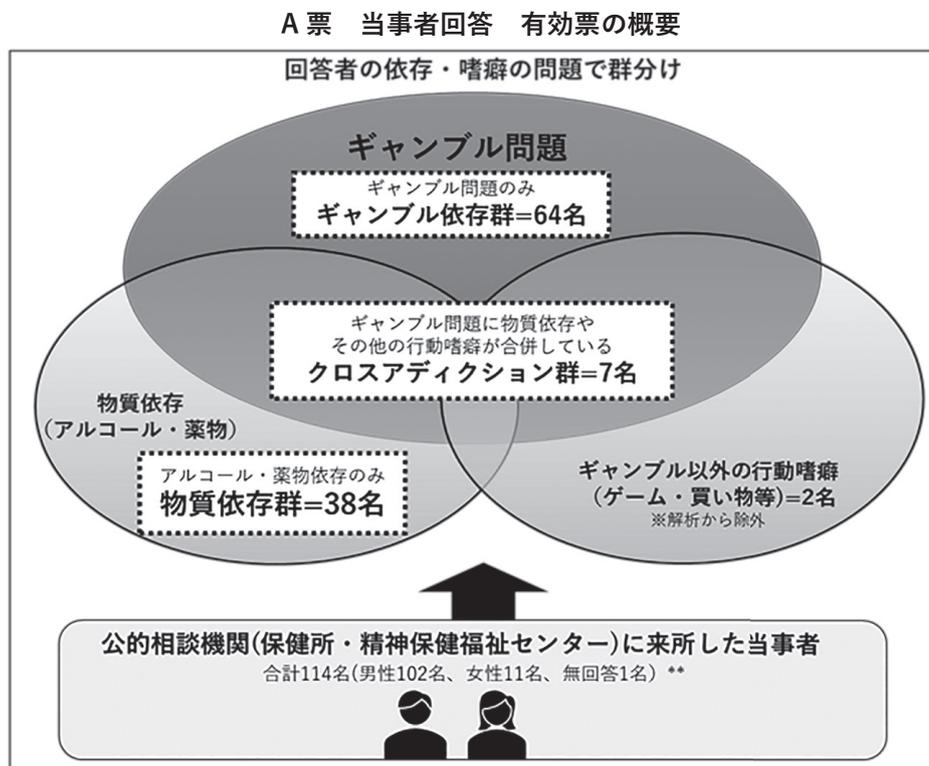
	公的相談機関 (n=31)	自助グループ有志 (n=145)
自分ひとりじゃないと思えた	23 (74.2%)	125 (86.2%)
回復するためのお手本となる人と出会った	12 (38.7%)	100 (69.0%)
相談する人ができた	13 (41.9%)	103 (71.0%)
依存することを止めたい気持ちが強くなった	14 (45.2%)	95 (65.5%)
自分も回復できると思えるようになった	14 (45.2%)	106 (73.1%)
同じ悩みを持つ仲間とのネットワークが広がった	16 (51.6%)	107 (73.8%)
参加すると気持ちが軽くなる	22 (71.0%)	107 (73.8%)
同じ悩みを持つ仲間の役に立てる	13 (41.9%)	80 (55.2%)
1 2ステップで生き方を変えられた	10 (32.3%)	71 (49.0%)
スポンサーシップが心強い	4 (12.9%)	47 (32.4%)
その他	0 (0.0%)	6 (4.1%)
特になし	1 (3.2%)	2 (1.4%)

※欠損数：公的相談機関=0, 自助グループ有志=0

3.6.6 公的相談機関を利用する当事者における関連問題

公的相談機関に来所した当事者の依存問題の種類により、3つのグループ（ギャンブル依存群、クロスアディクション群、物質依存群）に分けて、関連問題について比較した。

※クロスアディクション群に含まれる総数が7名と少ないため、3群間の比較結果については参考程度とし、慎重な解釈が必要である。



(1) 抑うつ・不安との関連（公的－当事者）

※以下本項において、公的相談機関を利用する当事者の結果を「公的－当事者」と略記する。

【A票：問12】 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適当と思われる番号（1: いつも～5: 全くない）を選んで○をつけてください。（単一選択）

抑うつ・不安のスクリーニング尺度 K6 得点では、5点以上を「抑うつ・不安の問題あり」とする。これより、公的相談機関を依存問題で利用する者のうち、5点以上に該当したのは71名で全体の66.4%を占めた。

また、K6得点について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、有意差は認められなかった。（図表 3-28）

図表 3-28 当事者-K6得点, 群別

	抑うつ・不安の問題なし 0-4点	何らかの抑うつ・不安の問題あり 5-9点	抑うつ・不安障害の疑い 10-12点	重度の抑うつ・不安障害の疑い 13点以上	全体
ギャンブル依存群	21 (33.9%)	12 (19.4%)	13 (21.0%)	16 (25.8%)	62 (100.0%)
物質依存群	14 (36.8%)	13 (34.2%)	5 (13.2%)	6 (15.8%)	38 (100.0%)
クロスアディクション群	1 (14.3%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)	2 (28.6%)	7 (100.0%)
全体	36 (33.6%)	28 (26.2%)	19 (17.8%)	24 (22.4%)	107 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=2

(2) 希死念慮・自殺企図との関連（公的－当事者）

【A票：問13】 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。（単一選択）

全体では、「希死念慮がある・あった」と答えた割合が73.5%であった。希死念慮の有無について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、有意差は認められなかった。（図表3-29）

図表3-29 当事者－希死念慮の有無，群別

	希死念慮がある・あった	希死念慮がない	全体
ギャンブル依存群	41 (70.7%)	17 (29.3%)	58 (100.0%)
物質依存群	29 (78.4%)	8 (21.6%)	37 (100.0%)
クロスアディクション群	5 (71.4%)	2 (28.6%)	7 (100.0%)
全体	75 (73.5%)	27 (26.5%)	102 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群 =6, 物質依存群 =1

【A票：問14】 あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。（単一選択）

全体では、「自殺企図がある・あった」と答えた割合が22.6%であった。自殺企図の有無について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、有意差は認められなかった。（図表3-30）

図表3-30 当事者－自殺企図の有無，群別

	自殺企図がある・あった	自殺企図がない	全体
ギャンブル依存群	9 (14.8%) *	52 (85.2%) *	61 (100.0%)
物質依存群	12 (31.6%)	26 (68.4%)	38 (100.0%)
クロスアディクション群	3 (42.9%)	4 (57.1%)	7 (100.0%)
全体	24 (22.6%)	82 (77.4%)	106 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群 =3

（3）小児期逆境体験との関連（公的 - 当事者）

【A票：問35】あなたが18歳までに経験したことがあるもの全てに○をつけてください。
（複数選択）

全体では、小児期逆境体験が1つ以上該当する割合は50.0%であった。また、該当者の割合が最も高かったのは「学校でのいじめ被害」であった。小児期逆境体験の有無、また、個別の小児期逆境体験項目ごとの該当有無について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、どちらも有意差は認められなかった。（図表3-31・図表3-32）

図表3-31 当事者 - 小児期逆境体験の有無，群別

	小児期逆境体験		
	該当なし	1つ以上該当	全体
ギャンブル依存群	31 (56.4%)	24 (43.6%)	55 (100.0%)
物質依存群	14 (41.2%)	20 (58.8%)	34 (100.0%)
クロスアディクション群	3 (42.9%)	4 (57.1%)	7 (100.0%)
全体	48 (50.0%)	48 (50.0%)	96 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群 =9, 物質依存群 =4

図表3-32 当事者 - 小児期逆境体験項目ごとの該当数・割合，群別

	心理的虐待を受けた	家庭内暴力（DV）を目撃した	精神疾患がある人との同居	アルコール依存や薬物乱用のある人との同居	身体的虐待を受けた
ギャンブル依存群	7 (12.7%)	7 (12.7%)	5 (9.1%)	6 (10.9%)	7 (12.7%)
物質依存群	6 (17.6%)	7 (20.6%)	3 (8.8%)	3 (8.8%)	5 (14.7%)
クロスアディクション群	1 (14.3%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)
全体	14 (14.6%)	15 (15.6%)	9 (9.4%)	9 (9.4%)	13 (13.5%)

	ネグレクト（養育の放棄）を受けた	性的虐待を受けた	両親の離婚	刑務所に入ったことがある人との同居	学校でのいじめ被害
ギャンブル依存群	4 (7.3%)	0 (0.0%)	11 (20.0%)	1 (1.8%)	11 (20.0%)
物質依存群	1 (2.9%)	1 (2.9%)	6 (17.6%)	1 (2.9%)	6 (17.6%)
クロスアディクション群	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	2 (28.6%)
全体	5 (5.2%)	1 (1.0%)	18 (18.8%)	2 (2.1%)	19 (19.8%)

※欠損数：ギャンブル依存群 =9, 物質依存群 =4

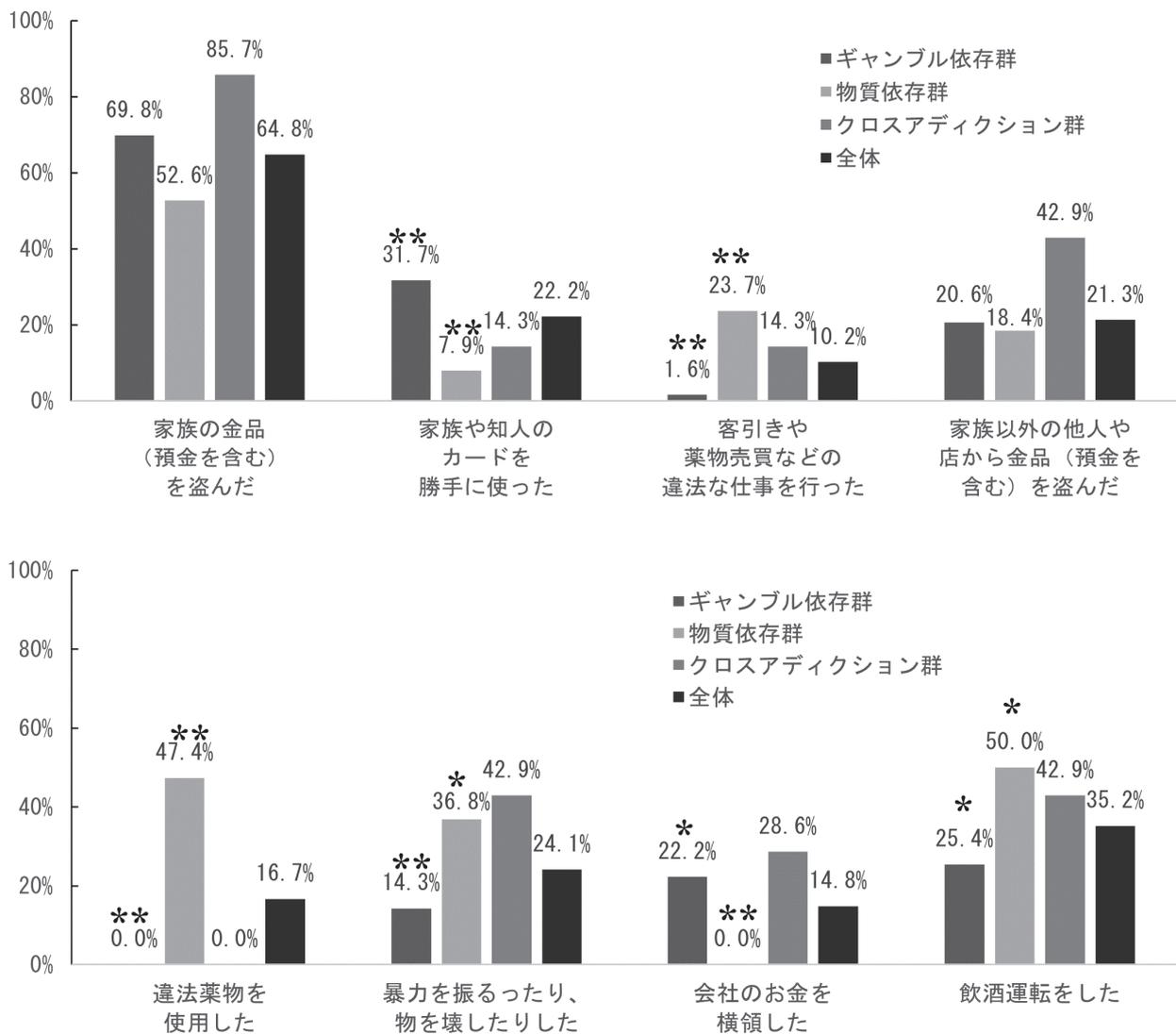
（4）触法行為との関連（公的－当事者）

【A票：問37】あなたは、下記のリストに掲げる行為をしたことはありますか。あてはまるもの全てに○をしてください。（複数選択）

全体では、該当者の割合が最も高いのは「家族の金品（預金を含む）を盗んだ」であった。触法行為を含む問題行為の該当割合について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、下記に有意差を認めた。

ギャンブル依存群は、物質依存群に比べて「家族や知人のカードを勝手に使った（ $\chi^2(2)=8.074, p<.05$ ）」、「会社のお金を横領した（ $\chi^2(2)=10.398, p<.01$ ）」に該当する割合が有意に高く、「客引きや薬物売買などの違法な仕事を行った（ $\chi^2(2)=12.789, p<.01$ ）」「違法薬物を使用した（ $\chi^2(2)=39.789, p<.01$ ）」「暴力を振るったり、物を壊したりした（ $\chi^2(2)=8.043, p<.05$ ）」「飲酒運転をした（ $\chi^2(2)=6.485, p<.05$ ）」割合が有意に低かった。（図表3-33）

図表 3-33 当事者－触法行為を含む問題行為の該当割合、群別



※欠損数：ギャンブル依存群=1 *：残差分析結果有意差あり * $p<.05$, ** $p<.01$
 ※ギャンブル依存群 n = 63, 物質依存群 n = 38, クロスアディクション群 n = 7

(5) 養育困難との関連（公的－当事者）

【A票：問38】 あなたはこれまでに、依存の問題があることで子育てが難しいと感じたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（単一選択）
（養育困難）

子育て経験のある回答者全体では、依存の問題があることで養育困難があると答えた割合は、54.0%であった。養育困難の有無について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、有意差は認められなかった。（図表3-34）

図表3-34 当事者－依存の問題があることによる養育困難の有無，群別

	養育困難あり	養育困難なし	全体
ギャンブル依存群	18 (46.2%)	21 (53.8%)	39 (100.0%)
物質依存群	13 (61.9%)	8 (38.1%)	21 (100.0%)
クロスアディクション群	3 (100.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
全体	34 (54.0%)	29 (46.0%)	63 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=25，物質依存群=17，クロスアディクション群=4

【A票：問39】 あなたはこれまでに、依存の問題があることで、子どもに対して、心理的な虐待（子どもを傷つける言葉を言う、夫婦間暴力をみせるなど）や身体的虐待（たたく、けるなど）や、ネグレクト（必要な世話をしない、子どもに愛情のある関わりをもてないなど）のいずれかのことがありましたか。（単一選択）

子育て経験のある回答者全体では、依存の問題があることで子どもへの虐待の経験があると答えた割合は、36.5%であった。子どもへの虐待の経験の有無について依存対象による3群間の違いを検証したところ、ギャンブル依存群はクロスアディクション群と比べ、子どもへの虐待経験のある割合が有意に低かった。（ $\chi^2(2)=8.323, p<.05$ ）（図表3-35）

図表3-35 当事者－依存の問題があることによる子どもへの虐待経験の有無，群別

	子どもへの虐待経験あり	子どもへの虐待経験なし	全体
ギャンブル依存群	10 (25.6%) *	29 (74.4%) *	39 (100.0%)
物質依存群	10 (47.6%)	11 (52.4%)	21 (100.0%)
クロスアディクション群	3 (100.0%) *	0 (0.0%) *	3 (100.0%)
全体	23 (36.5%)	40 (63.5%)	63 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=25，物質依存群=17，クロスアディクション群=4

※*：残差分析結果：有意差あり * $p<.05$

(6) クロスアディクション（公的－当事者）

【A票：問30-32】 AUDIT-C（アルコール問題のスクリーニングテスト）

全体では、男性で5点以上は31.7%、女性で4点以上は16.7%であった。依存対象による3群と、AUDIT-C得点の違いを検証したところ、男性、女性ともに有意差は認められなかった。（図表3-36）

図表3-36 当事者－AUDIT-C得点，群別

	AUDIT-C得点区分（男性）				AUDIT-C得点区分（女性）		
	0-4点	5点以上	全体		0-3点	4点以上	全体
ギャンブル依存群	29 (65.9%)	15 (34.1%)	44 (100.0%)	ギャンブル依存群	4 (80.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)
物質依存群	22 (71.0%)	9 (29.0%)	31 (100.0%)	物質依存群	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
クロスアディクション群	5 (71.4%)	2 (28.6%)	7 (100.0%)	クロスアディクション群	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全体	56 (68.3%)	26 (31.7%)	82 (100.0%)	全体	5 (83.3%)	1 (16.7%)	6 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=15，物質依存群=6

【A票：問34】 以下のそれぞれの質問について、過去1年間のあなたにあてはまりますか。それぞれ「全くなかった」「ときどきあった」「よくあった」から選んで○をつけてください。（単一選択）
（IGDT-10，インターネットゲーム障害のスクリーニングテスト）

IGD-10による「インターネットゲーム障害が疑われる者」の割合は、2.8%であった。依存対象による3群と、IGDT-10得点の違いを検証したところ、有意差は認められなかった。（図表3-37）

図表3-37 当事者－IGDT-10得点，群別

	IGDT-10得点区分		
	0-4点	5点以上	全体
ギャンブル依存群	61 (96.8%)	2 (3.2%)	63 (100.0%)
物質依存群	37 (97.4%)	1 (2.6%)	38 (100.0%)
クロスアディクション群	7 (100.0%)	0 (0.0%)	7 (100.0%)
全体	105 (97.2%)	3 (2.8%)	108 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=1

3.6.7 自助グループ有志における関連問題

（1）抑うつ・希死念慮・自殺企図との関連（自助G）※

※以下本項において、ギャンブル問題の自助グループ有志を「自助G」と略記する。

【A票：問12】 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適当と思われる番号（1:いつも～5:全くない）を選んで○をつけてください。（単一選択）

抑うつ・不安のスクリーニング尺度 K6 得点では、5点以上を「抑うつ・不安の問題あり」とする。自助グループを利用する者のうち、5点以上に該当したのは89名で全体の56.3%を占めた。

（図表 3-38）

図表 3-38 当事者 – K6 得点

		男性	女性	全体
K6 得点区分	0 – 4 点	64 (45.7%)	5 (27.8%)	69 (43.7%)
	5 – 9 点	38 (27.1%)	6 (33.3%)	44 (27.8%)
	10 – 12 点	17 (12.1%)	3 (16.7%)	20 (12.7%)
	13 点以上	21 (15.0%)	4 (22.2%)	25 (15.8%)
	全体	140 (100.0%)	18 (100.0%)	158 (100.0%)

※欠損数：7

【A票：問13】 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。（単一選択）

希死念慮の経験がある・あった者は、全体の73.9%であった。（図表 3-39）

図表 3-39 当事者 – 希死念慮の有無

	男性	女性	全体
希死念慮がある・あった	103 (73.0%)	13 (81.3%)	116 (73.9%)
希死念慮がない	38 (27.0%)	3 (18.8%)	41 (26.1%)
全体	141 (100.0%)	16 (100.0%)	157 (100.0%)

※欠損数：6

【A票：問14】 あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。（単一選択）

自殺企図の経験がある・あった者は、全体の28.9%であった。（図表 3-40）

図表 3-40 当事者 – 自殺企図の有無

	男性	女性	全体
自殺企図がある・あった	38 (27%)	8 (44.4%)	46 (28.9%)
自殺企図がない	103 (73%)	10 (55.6%)	113 (71.1%)
全体	141 (100.0%)	18 (100.0%)	159 (100.0%)

※欠損数：6

（2）小児期逆境体験との関連（自助G）

【A票：問35】 あなたが18歳までに経験したことがあるもの全てに○をつけてください。（単一選択）

小児期逆境体験に1つ以上該当する者の割合は、全体の58.1%であった。小児期逆境体験のうち該当した割合が高い項目は、「学校でのいじめの被害」34.5%、次いで「心理的虐待を受けた」22.3%、「アルコール依存や薬物乱用のある人との同居」14.2%であった。（図表3-42）

図表3-41 当事者－小児期逆境体験の有無

	男性	女性	全体
該当なし	57 (43.8%)	5 (27.8%)	62 (41.9%)
1つ以上該当	73 (56.2%)	13 (72.2%)	86 (58.1%)
全体	130 (100.0%)	18 (100.0%)	148 (100.0%)

※欠損数：17

図表3-42 当事者－小児期逆境体験項目ごとの該当数・割合

	男性 (n=130)	女性 (n=18)	全体 (n=148)
心理的虐待を受けた	29 (22.3%)	4 (22.2%)	33 (22.3%)
家庭内暴力（DV）を目撃した	13 (10.0%)	4 (22.2%)	17 (11.5%)
精神疾患がある人との同居	5 (3.8%)	4 (22.2%)	9 (6.1%)
アルコール依存や薬物乱用のある人との同居	16 (12.3%)	5 (27.8%)	21 (14.2%)
身体的虐待を受けた	8 (6.2%)	4 (22.2%)	12 (8.1%)
ネグレクト（養育の放棄）を受けた	2 (1.5%)	3 (16.7%)	5 (3.4%)
性的虐待を受けた	2 (1.5%)	3 (16.7%)	5 (3.4%)
両親の離婚	10 (7.7%)	6 (33.3%)	16 (10.8%)
刑務所に入ったことがある人との同居	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)
学校でのいじめ被害	42 (32.3%)	9 (50.0%)	51 (34.5%)

※欠損数：17

（3）触法行為との関連（自助G）

【A票：問37】 あなたは、下記のリストに掲げる行為をしたことはありますか。あてはまるもの全てに○をしてください。（複数選択）

触法行為を含む問題行為のうち該当した割合が最も高かったのは、「家族の金品（預金を含む）を盗んだ」70.3%であった。次いで、「家族や知人のカードを勝手に使った」32.9%、「家族以外の他人や店から金品（預金を含む）を盗んだ」31.0%、「会社のお金を横領した」29.0%であった。（図表3-43）

図表3-43 当事者－触法行為を含む問題行為ごとの該当数・割合

	男性 (n=138)	女性 (n=17)	全体 (n=155)
家族の金品（預金を含む）を盗んだ	100 (72.5%)	9 (52.9%)	109 (70.3%)
家族や知人のカードを勝手に使った	47 (34.1%)	4 (23.5%)	51 (32.9%)
客引きや薬物売買などの違法な仕事を行った	5 (3.6%)	1 (5.9%)	6 (3.9%)
家族以外の他人や店から金品（預金を含む）を盗んだ	46 (33.3%)	2 (11.8%)	48 (31.0%)
違法薬物を使用した	6 (4.3%)	0 (0.0%)	6 (3.9%)
暴力を振るったり、物を壊したりした	26 (18.8%)	4 (23.5%)	30 (19.4%)
会社のお金を横領した	42 (30.4%)	3 (17.6%)	45 (29.0%)
飲酒運転をした	42 (30.4%)	1 (5.9%)	43 (27.7%)

※欠損数：10

（4）養育困難との関連（自助G）

【A票：問38】 あなたはこれまでに、依存の問題があることで子育てが難しいと感じたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（単一選択）

これまでに子育てをしたことがない者66名を除く99名の回答結果を以下に提示する。自助グループ有志全体の66.3%が、依存の問題があることで養育困難があったと回答した。（図表3-44）

図表3-44 当事者－依存の問題があることによる養育困難の有無

	男性	女性	全体
養育困難あり	48 (66.7%)	7 (63.6%)	55 (66.3%)
養育困難なし	24 (33.3%)	4 (36.4%)	28 (33.7%)
全体	72 (100.0%)	11 (100.0%)	83 (100.0%)

※欠損数：16

【A票：問39】 あなたはこれまでに、依存の問題があることで、子どもに対して、心理的な虐待（子どもを傷つける言葉を言う、夫婦間暴力をみせるなど）や身体的虐待（たたく、けるなど）や、ネグレクト（必要な世話をしない、子どもに愛情のある関わりをもてないなど）のいずれかのことがありましたか。（単一選択）

これまでに子育てをしたことがない者63名を除く102名の回答結果を以下に提示する。自助グループ有志全体の44.7%がこれまでに、依存の問題があることで、子への虐待経験があると回答した。（図表3-45）

図表3-45 当事者－子どもへの虐待経験の有無

	男性	女性	全体
子への虐待経験あり	31 (42.5%)	7 (58.3%)	38 (44.7%)
子への虐待経験なし	42 (57.5%)	5 (41.7%)	47 (55.3%)
全体	73 (100.0%)	12 (100.0%)	85 (100.0%)

※欠損数：17

(5) クロスアクション（自助G）

【A票：問30-32】 AUDIT-C（アルコール問題のスクリーニングテスト）

自助グループ有志におけるアルコール問題を有する者の割合は、男性 34.6%、女性 11.8%であった。（図表 3-46）

図表 3-46 当事者 - AUDIT-C 得点

AUDIT-C 得点区分 (男性)	該当人数	割合	AUDIT-C 得点区分 (女性)	該当人数	割合
0 - 4 点	83	65.4%	0 - 3 点	15	88.2%
5 点以上	44	34.6%	4 点以上	2	11.8%
全体	127	100.0%	全体	17	100.0%

※欠損数：21

【A票：問33】 あなたは過去1年間、ゲームをしたことがありますか。ここでいう「ゲーム」とは、ゲーム機、パソコン、スマホなどを使ったゲームのことです。（単一選択）

自助グループ有志におけるゲームの経験のある者は、71.4%であった。（図表 3-47）

図表 3-47 当事者 - ゲームの経験の有無

	男性	女性	全体
ゲームの経験あり	98 (72.1%)	12 (66.7%)	110 (71.4%)
ゲームの経験なし	38 (27.9%)	6 (33.3%)	44 (28.6%)
全体	136 (100.0%)	18 (100.0%)	154 (100.0%)

※欠損数：11

【A票：問34】 以下のそれぞれの質問について、過去1年間のあなたにあてはまりますか。それぞれ「全くなかった」「ときどきあった」「よくあった」から選んで○をつけてください。（単一選択）
(IGDT-10, インターネットゲーム障害のスクリーニングテスト)

自助グループ有志において、インターネットゲーム障害のスクリーニングテスト (IGD-10) による「インターネットゲーム障害の疑いのある者」は、全体の 2.6%（男性 2.9%、女性 0.0%）であった。（図表 3-48）

図表 3-48 当事者 - IGDT-10 得点

IGDT-10 得点区分	男性	女性	全体
0 - 4 点	136 (97.1%)	19 (100.0%)	155 (97.6%)
5 点以上	4 (2.9%)	0 (0.0%)	4 (2.6%)
全体	140 (100.0%)	19 (100.0%)	159 (100.0%)

※欠損数：6

3.7 【B票】家族回答の結果概要

本項では、調査票「さまざまな依存症におけるギャンブル問題の実態調査」B票（依存問題の家族向け）の回答結果を設問項目の領域ごとにまとめて提示する。なお「公的相談機関」に来訪した者と、「家族向け自助グループ有志」は、グループごとに解析しているため、図表では、2つのグループの集計結果を並列して示す。なお、【B票：問8】の集計結果より、公的相談機関は124名、家族向け自助グループ有志は381名で、合計505名の回答を解析対象とした（再掲：図表3-4参照）

3.7.1 対象者の基本属性

（1）性別・年齢（家族回答）

【B票：問1】 あなたの性別を教えてください。（単一選択）

公的相談機関について、男性が25名（20.3%）、女性が98名（79.7%）であった。家族向け自助グループ有志について、男性が32名（8.4%）、女性が349名（91.6%）であった。（図表3-49）

図表3-49 家族－調査票を受け取った場所別，性別

	公的相談機関	家族向け自助グループ有志
男性	25 (20.3%)	32 (8.4%)
女性	98 (79.7%)	349 (91.6%)
全体	123 (100.0%)	381 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 = 1

【B票：問2】 あなたの年齢を教えてください。（数値記述）

公的相談機関について、男性の平均年齢は60.0歳（標準偏差10.9歳）、女性の平均年齢は55.3歳（標準偏差11.3歳）であった。また、最も回答数が多かったのは全体で50-54歳、55-59歳、男性が55-59歳、65-69歳、女性は50-54歳であった。

家族向け自助グループ有志について、男性の平均年齢は60.7歳（標準偏差9.7歳）、女性の平均年齢は53.4歳（標準偏差11.7歳）であった。また、最も回答数が多かったのは全体で55-59歳、男性が55-59歳、女性は55-59歳、60-64歳であった。（図表3-50）

図表3-50 家族－調査票を受け取った場所別，年齢区分・性別

年齢区分	公的相談機関			家族向け自助グループ有志		
	男性	女性	全体	男性	女性	全体
20-24	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.6%)	2 (0.5%)
25-29	1 (4.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	6 (1.8%)	6 (1.6%)
30-34	0 (0.0%)	6 (6.5%)	6 (5.1%)	1 (3.1%)	14 (4.1%)	15 (4.0%)
35-39	0 (0.0%)	4 (4.3%)	4 (3.4%)	0 (0.0%)	28 (8.2%)	28 (7.5%)
40-44	0 (0.0%)	8 (8.6%)	8 (6.8%)	0 (0.0%)	31 (9.1%)	31 (8.3%)
45-49	3 (12.0%)	7 (7.5%)	10 (8.5%)	2 (6.3%)	29 (8.5%)	31 (8.3%)
50-54	3 (12.0%)	17 (18.3%)	20 (16.9%)	5 (15.6%)	56 (16.4%)	61 (16.4%)
55-59	5 (20.0%)	15 (16.1%)	20 (16.9%)	9 (28.1%)	59 (17.3%)	68 (18.2%)
60-64	3 (12.0%)	15 (16.1%)	18 (15.3%)	3 (9.4%)	59 (17.3%)	62 (16.6%)
65-69	5 (20.0%)	10 (10.8%)	15 (12.7%)	7 (21.9%)	32 (9.4%)	39 (10.5%)
70-74	4 (16.0%)	9 (9.7%)	13 (11.0%)	4 (12.5%)	19 (5.6%)	23 (6.2%)
75-79	1 (4.0%)	2 (2.2%)	3 (2.5%)	0 (0.0%)	5 (1.5%)	5 (1.3%)
80-84	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.1%)	1 (0.3%)	2 (0.5%)
合計	25 (100.0%)	93 (100.0%)	118 (100.0%)	32 (100.0%)	341 (100.0%)	373 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 = 6，家族向け自助グループ有志 = 8

（2）依存の問題がある当事者との関係（家族回答）

【B票：問3】 依存の問題をもつ当事者はどなたですか。あなたから見たご関係をお答えください。（単一選択）

公的相談機関と家族向け自助グループ有志ともに、依存の問題を持つ当事者は「回答者の子ども」が最も割合が高く、次いで、「回答者の配偶者（内縁関係含む）」の割合が高い結果となった。

（図表 3-51）

図表 3-51 家族 – 調査票を受け取った場所別、当事者と回答者の関係

	公的相談機関	家族向け自助グループ有志
回答者の配偶者（内縁関係含む）	49 (40.2%)	141 (37.1%)
回答者の子ども	62 (50.8%)	205 (53.9%)
回答者の親	2 (1.6%)	8 (2.1%)
回答者の兄弟姉妹	5 (4.1%)	9 (2.4%)
回答者の祖父母	0 (0.0%)	0 (0.0%)
回答者の孫	1 (0.8%)	0 (0.0%)
その他	3 (2.5%)	17 (4.5%)
全体	122 (100.0%)	380 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 =2, 家族向け自助グループ有志 =1

（3）婚姻状況・同居家族（家族回答）

【B票：問4】 あなたは現在、結婚されていますか。あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。（単一選択）

公的相談機関について、「結婚している」が最も割合が高く、次いで、「離婚した」、「未婚（結婚したことがない）」の順で割合が高い結果となった。家族向け自助グループ有志について、「結婚している」が最も割合が高く、次いで、「離婚した」、「死別した」の順で割合が高い結果となった。（図表 3-52）

表 3-52 家族 – 調査票を受け取った場所別、婚姻歴

	公的相談機関	家族向け自助グループ有志
結婚している	105 (84.7%)	290 (76.1%)
内縁関係（配偶者のような関係）	2 (1.6%)	2 (0.5%)
死別した	3 (2.4%)	18 (4.7%)
離婚した	8 (6.5%)	50 (13.1%)
未婚（結婚したことがない）	4 (3.2%)	5 (1.3%)
別居中	2 (1.6%)	16 (4.2%)
全体	124 (100.0%)	381 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 =1

【B票：問5】 あなたは現在、だれと住んでいますか。（複数選択）

公的相談機関について、「配偶者」と同居している割合が最も高く、次いで、「子ども」、「父親・母親」との同居の割合が高かった。家族向け自助グループ有志について、「配偶者」と同居している割合が最も高く、次いで、「子ども」との同居、「一人暮らし」の割合が高かった。（図表 3-53）

図表 3-53 家族 – 調査票を受け取った場所別，同居者

	公的相談機関 (n=123)	家族向け自助グループ有志 (n=380)
一人暮らし	4 (3.3%)	50 (13.2%)
配偶者	104 (84.6%)	271 (71.3%)
子ども	74 (60.2%)	188 (49.5%)
父親・母親	20 (16.3%)	41 (10.8%)
祖父・祖母	2 (1.6%)	0 (0.0%)
兄弟・姉妹	4 (3.3%)	5 (1.3%)
孫	5 (4.1%)	7 (1.8%)
その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)

※欠損数：公的相談機関 =1，家族向け自助グループ有志 =1

（4）職業・世帯年収（家族回答）**【B票：問6】 あなたの職業を教えてください。（単一選択）**

公的相談機関と家族向け自助グループ有志ともに、「勤め（契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト）」が最も割合が高かった。（図表 3-54）

図表 3-54 家族 – 調査票を受け取った場所別，職業

	公的相談機関	家族向け 自助グループ有志
自営・自由業者・経営者（家族従業を含む）	6 (4.9%)	40 (10.6%)
勤め（正社員・正職員）	21 (17.1%)	123 (32.5%)
勤め（契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト）	46 (37.4%)	135 (35.6%)
学生	0 (0.0%)	0 (0.0%)
家事専業（専業主婦・専業主夫）	27 (22.0%)	56 (14.8%)
無職（求職中，失業中，進路未定を含む）	6 (4.9%)	4 (1.1%)
無職（退職者，今後就業予定のない者）	13 (10.6%)	20 (5.3%)
その他	4 (3.3%)	1 (0.3%)
全体	123 (100.0%)	379 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 =1，家族向け自助グループ有志 =2

【B票：問7】 あなたの世帯年収（税込み）は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ合計額でお答えください。

公的相談機関について、「400万円以上～600万円未満」が最も割合が高かった。家族向け自助グループ有志について、「600万円以上～800万円未満」が最も割合が高かった。（図表3-55）

図表 3-55 家族 – 調査票を受け取った場所別、税込み年収

	公的相談機関	家族向け自助グループ有志
収入なし	1 (0.9%)	2 (0.5%)
1円以上～100万円未満	8 (6.8%)	19 (5.2%)
100万円以上～200万円未満	16 (13.7%)	43 (11.8%)
200万円以上～300万円未満	20 (17.1%)	54 (14.8%)
300万円以上～400万円未満	18 (15.4%)	55 (15.1%)
400万円以上～600万円未満	26 (22.2%)	57 (15.6%)
600万円以上～800万円未満	11 (9.4%)	59 (16.2%)
800万円以上～1,000万円未満	5 (4.3%)	37 (10.1%)
1,000万円以上～1,200万円未満	6 (5.1%)	17 (4.7%)
1,200万円以上～1,500万円未満	2 (1.7%)	10 (2.7%)
1,500万円以上	4 (3.4%)	12 (3.3%)
総計	117 (100.0%)	365 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 = 7, 家族向け自助グループ有志 = 16

3.7.2 相談や経済的支援制度の利用状況・行政に求める支援（家族）

（1）公的相談機関や自助グループ利用のきっかけ（家族回答）

【B票：問9】 【問8】で答えた場所を利用することになったきっかけについて教えてください。（複数選択）

公的相談機関について、「自分からホームページなどで探した」の割合が最も高く、次いで、「医療機関ですすすめられた」の割合が高かった。家族向け自助グループ有志について、「自分からホームページなどで探した」の割合が最も高く、次いで、「その他」、「医療機関ですすすめられた」の割合が高かった。（図表 3-56）

図表 3-56 家族－利用のきっかけ

利用のきっかけ	公的相談機関			家族向け自助グループ有志		
	男性 (n=25)	女性 (n=98)	全体 (n=123)	男性 (n=32)	女性 (n=349)	全体 (n=381)
友人、知人にすすめられた	1 (4.0%)	9 (9.2%)	10 (8.1%)	5 (15.6%)	44 (12.6%)	49 (12.9%)
家族にすすめられた	6 (24.0%)	8 (8.2%)	14 (11.4%)	6 (18.8%)	35 (10.0%)	41 (10.8%)
医療機関ですすすめられた	1 (4.0%)	14 (14.3%)	15 (12.2%)	6 (18.8%)	62 (17.8%)	68 (17.8%)
法律や司法の専門家に すすめられた	4 (16.0%)	4 (4.1%)	8 (6.5%)	1 (3.1%)	12 (3.4%)	13 (3.4%)
自分からホームページなどで 探した	10 (40.0%)	56 (57.1%)	66 (53.7%)	9 (28.1%)	165 (47.3%)	174 (45.7%)
その他	3 (12.0%)	11 (11.2%)	14 (11.4%)	6 (18.8%)	66 (18.9%)	72 (18.9%)

※欠損数：公的相談機関 = 1

（2）依存問題の相談経験（家族回答）

【B票：問16】 あなたはこれまでに、当事者の依存の問題で、以下のところに相談や援助を求めたことがありますか。あてはまるもの全てに○をしてください。（複数選択）

公的相談機関について、全体では「公的な相談機関（市区町村や精神保健福祉センター、保健所等）」の割合が最も高く、次いで、「病院やクリニックの受診」、「自助グループ」の割合が高かった。家族向け自助グループ有志について、全体では「自助グループ」の割合が最も高く、次いで、「病院やクリニックの受診」、「公的な相談機関（市区町村や精神保健福祉センター、保健所等）」の割合が高かった。（図表 3-57）

図表 3-57 家族－依存の問題で相談援助を求めた経験

相談先	公的相談機関			家族向け自助グループ有志		
	男性 (n=25)	女性 (n=98)	全体 (n=123)	男性 (n=32)	女性 (n=349)	全体 (n=381)
法律の専門家 (弁護士、司法書士等)	8 (32.0%)	29 (29.6%)	37 (30.1%)	6 (18.8%)	117 (33.5%)	123 (32.3%)
病院やクリニックの受診	11 (44.0%)	62 (63.3%)	73 (59.3%)	21 (65.6%)	189 (54.2%)	210 (55.1%)
公的な相談機関（市区町村や精神保健福祉センター、保健所等）	18 (72.0%)	80 (81.6%)	98 (79.7%)	10 (31.3%)	143 (41.0%)	153 (40.2%)
民間の相談機関 (無料電話相談、回復施設)	5 (20.0%)	16 (16.3%)	21 (17.1%)	12 (37.5%)	139 (39.8%)	151 (39.6%)
自助グループ	10 (40.0%)	41 (41.8%)	51 (41.5%)	27 (84.4%)	304 (87.1%)	331 (86.9%)
警察	3 (12.0%)	12 (12.2%)	15 (12.2%)	5 (15.6%)	42 (12.0%)	47 (12.3%)
その他	1 (4.0%)	1 (1.0%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	2 (0.6%)	2 (0.5%)
あてはまるものはない	2 (8.0%)	1 (1.0%)	3 (2.4%)	1 (3.1%)	3 (0.9%)	4 (1.0%)

※欠損数：公的相談機関 = 1

（3）当事者の経済的な支援制度の利用経験（家族回答）

【B票：問23】 依存の問題がある当事者は、これまでに次の制度を利用したことがありますか。（単一選択）

当事者が生活保護を利用したことがあるとの回答割合は、公的相談機関は、男性では16.0%、女性では4.8%であった。家族向け自助グループ有志は、男性で3.3%、女性で11.6%であった。（図表3-58）

当事者が債務整理（自己破産・個人再生・任意整理等）を利用したことがあるとの回答割合は、公的相談機関は、男性では36.0%、女性では35.2%であった。家族向け自助グループ有志は、男性では39.3%、女性では46.7%であった。（図表3-59）

図表 3-58 家族－当事者の生活保護の利用

生活保護の利用有無	公的相談機関			家族向け自助グループ有志		
	男性	女性	全体	男性	女性	全体
利用したことがある	4 (16.0%)	4 (4.8%)	8 (7.4%)	1 (3.3%)	36 (11.6%)	37 (10.9%)
利用したことがない	21 (84.0%)	79 (95.2%)	100 (92.6%)	29 (96.7%)	275 (88.4%)	304 (89.1%)
全体	25 (100.0%)	83 (100.0%)	108 (100.0%)	30 (100.0%)	311 (100.0%)	341 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 =16, 家族向け自助グループ有志 =40

図表 3-59 家族－当事者の債務整理（自己破産・個人再生・任意整理等）の利用

債務整理の利用有無	公的相談機関			家族向け自助グループ有志		
	男性	女性	全体	男性	女性	全体
利用したことがある	9 (36.0%)	31 (35.2%)	40 (35.4%)	11 (39.3%)	141 (46.7%)	152 (46.1%)
利用したことがない	16 (64.0%)	57 (64.8%)	73 (64.6%)	17 (60.7%)	161 (53.3%)	178 (53.9%)
全体	25 (100.0%)	88 (100.0%)	113 (100.0%)	28 (100.0%)	302 (100.0%)	330 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 =11, 家族向け自助グループ有志 =51

（4）依存問題を抱える家族が要望する支援策や行政に期待すること

【B票：問25】 依存問題を抱えるご家族の立場から、具体的にどのような支援策や情報があるとよいですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）

公的相談機関の利用者について、「気軽に相談できる場所の情報」の割合が最も高かった。次いで、「病気を理解するための知識や情報」と「当事者を治療につなげる関わり方」の割合が同率で高かった。家族向け自助グループ有志について、全体では「病気を理解するための知識や情報」の割合が最も高かった。次いで、「気軽に相談できる場所の情報」, 「当事者を治療につなげる関わり方」, 「家族自身の心身をケアする方法」の割合が高かった。（図表 3-60）

図表 3-60 家族 – 家族の要望する支援策や情報

家族の要望する支援策や情報	公的相談機関			家族向け自助グループ有志		
	男性 (n=25)	女性 (n=98)	全体 (n=123)	男性 (n=32)	女性 (n=349)	全体 (n=381)
気軽に相談できる場所の情報	23 (92.0%)	76 (77.6%)	99 (80.5%)	26 (81.3%)	270 (77.4%)	296 (77.7%)
病気を理解するための知識や情報	16 (64.0%)	75 (76.5%)	91 (74.0%)	23 (71.9%)	280 (80.2%)	303 (79.5%)
当事者を治療につなげる関わり方	16 (64.0%)	75 (76.5%)	91 (74.0%)	21 (65.6%)	270 (77.4%)	291 (76.4%)
家族自身の心身をケアする方法	13 (52.0%)	70 (71.4%)	83 (67.5%)	21 (65.6%)	262 (75.1%)	283 (74.3%)
生活費や治療費の支援	8 (32.0%)	32 (32.7%)	40 (32.5%)	10 (31.3%)	145 (41.5%)	155 (40.7%)
当事者が作る借金への対応	12 (48.0%)	49 (50.0%)	61 (49.6%)	16 (50.0%)	212 (60.7%)	228 (59.8%)
当事者の犯罪への対応 (法律の知識)	7 (28.0%)	16 (16.3%)	23 (18.7%)	7 (21.9%)	116 (33.2%)	123 (32.3%)
金銭管理	11 (44.0%)	36 (36.7%)	47 (38.2%)	8 (25.0%)	120 (34.4%)	128 (33.6%)
当事者の依存以外の心と体の 病気への対応	12 (48.0%)	49 (50.0%)	61 (49.6%)	6 (18.8%)	171 (49.0%)	177 (46.5%)
依存症の治療方法	16 (64.0%)	69 (70.4%)	85 (69.1%)	17 (53.1%)	216 (61.9%)	233 (61.2%)
当事者への就労支援	5 (20.0%)	32 (32.7%)	37 (30.1%)	15 (46.9%)	125 (35.8%)	140 (36.7%)
その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (1.4%)	5 (1.3%)
とくになし	0 (0.0%)	1 (1.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)

※欠損数：公的相談機関 = 1

【B票：問26】 今後、行政により一層取り組んで欲しいことについて、あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択）

公的相談機関は、「依存症に関する正しい知識や理解の普及啓発」の割合が最も高かった。次いで、「依存症に関する相談窓口の周知・拡大」、「依存症の治療ができる医療機関を増やす」の割合が高かった。家族向け自助グループ有志は、「依存症に関する正しい知識や理解の普及啓発」の割合が最も高かった。次いで、「自助グループや民間団体への支援・連携の強化」、「依存症に関する相談窓口の周知・拡大」の割合が高かった。（図表 3-61）

図表 3-61 家族－行政に取り組んでほしいこと

行政に取り組んでほしいこと	公的相談機関			家族向け自助グループ有志		
	男性 (n=25)	女性 (n=98)	全体 (n=123)	男性 (n=32)	女性 (n=349)	全体 (n=381)
依存症に関する正しい知識や理解の普及啓発	19 (76.0%)	74 (75.5%)	93 (75.6%)	27 (84.4%)	307 (88.0%)	334 (87.7%)
依存症に関する相談窓口の周知・拡大	18 (72.0%)	68 (69.4%)	86 (69.9%)	22 (68.8%)	283 (81.1%)	305 (80.1%)
依存症の治療ができる医療機関を増やす	19 (76.0%)	65 (66.3%)	84 (68.3%)	19 (59.4%)	246 (70.5%)	265 (69.6%)
自助グループや民間団体への支援・連携の強化	14 (56.0%)	51 (52.0%)	65 (52.8%)	27 (84.4%)	294 (84.2%)	321 (84.3%)
その他	1 (4.0%)	8 (8.2%)	9 (7.3%)	2 (6.3%)	19 (5.4%)	21 (5.5%)
特になし	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)

※欠損数：公的相談機関 = 1

3.7.3 公的相談機関および自助グループを利用する家族が抱えるギャンブル問題

本項では、公的相談機関および自助グループを利用する家族のうち、問10で当事者の依存問題の種類が、「ギャンブル」と回答した者を抽出し、「当事者のギャンブル問題」に関する項目を集計した結果を示す。なお【問10】で、当事者の依存問題について、「1. ギャンブルの問題」と回答した家族は、公的相談機関では72名、家族向け自助グループ有志は381名で、合計447名を解析対象とした。

以下、公的相談機関と家族向け自助グループを利用する家族の結果を併記して示す。

（1）当事者の問題となっているギャンブルの種類

**【B票：問11】 当事者の依存の問題となっているギャンブルの種類はどれですか。
次の1～13からあてはまる全ての番号に○をつけてください。（複数選択）**

公的相談機関について、当事者の依存の問題となっているギャンブルの種類として最も割合が高かったのは、パチンコ（72.2%）であった。次いで、パチスロ（50.0%）、競馬（27.8%）の割合が高かった。家族向け自助グループ有志について、当事者の依存の問題となっているギャンブルの種類として最も割合が高かったのは、パチンコ（66.7%）とパチスロ（66.7%）で同率であった。次いで、競馬（21.1%）の割合が高かった。（図表3-62）

図表3-62 家族－当事者の依存の問題となったギャンブル

	公的相談機関 (n=72)	家族向け自助グループ有志 (n=375)
(ア) パチンコ	52 (72.2%)	250 (66.7%)
(イ) パチスロ	36 (50.0%)	250 (66.7%)
(ウ) 競馬	20 (27.8%)	79 (21.1%)
(エ) 競輪	10 (13.9%)	9 (2.4%)
(オ) 競艇	8 (11.1%)	35 (9.3%)
(カ) オートレース	2 (2.8%)	6 (1.6%)
(キ) 宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	6 (8.3%)	22 (5.9%)
(ク) サッカーくじ	0 (0.0%)	5 (1.3%)
(ケ) 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX ※仕事などの業務で行うものは除く	5 (6.9%)	24 (6.4%)
(コ) インターネットを使ったギャンブル (競馬、競輪、競艇、オートレースを除く)	7 (9.7%)	41 (10.9%)
(サ) 海外のカジノ	1 (1.4%)	7 (1.9%)
(シ) その他のギャンブル	0 (0.0%)	14 (3.7%)

※欠損数：家族向け自助グループ有志 =6

（2）当事者のギャンブル問題から受けた影響

【B票：問12】 あなたは、当事者のギャンブル問題から、影響を受けたことがありますか。影響を受けたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。（複数選択）

公的相談機関と家族向け自助グループ有志ともに、「借金の肩代わりをした」の割合が最も高かった。次いで、「ギャンブルをやめられない人に怒りを感じた」、「浪費、借金による経済的困難が生じた」の割合が高かった。（図表 3-63）

図表 3-63 家族 – 当事者のギャンブル問題から受けた影響

	公的相談機関 (n=72)	家族向け自助グループ有志 (n=378)
浪費、借金による経済的困難が生じた	37 (51.4%)	205 (54.2%)
借金の肩代わりをした	46 (63.9%)	294 (77.8%)
金品を盗まれた	25 (34.7%)	186 (49.2%)
殴る蹴るなどの暴力を受けた	7 (9.7%)	22 (5.8%)
家庭不和・別居・離婚を経験した	21 (29.2%)	153 (40.5%)
うつ状態になった	14 (19.4%)	97 (25.7%)
脅しや言葉の暴力を受けた	16 (22.2%)	100 (26.5%)
ギャンブルをやめられない人に怒りを感じた	45 (62.5%)	273 (72.2%)
子への暴力や不適切な養育をしてしまった	10 (13.9%)	63 (16.7%)
アルコール問題（飲酒運転を含む）が生じた	2 (2.8%)	23 (6.1%)
あてはまるものはない	3 (4.2%)	5 (1.3%)

※欠損数：家族向け自助グループ有志 = 3

（3）当事者がギャンブルのためにした借金額

【B票：問13】 依存の問題がある当事者が、ギャンブルの資金を手に入れるために借金をしたことはありますか。その総額はいくらですか。借金経験がない場合は0円と記入してください。（数値記述）

公的相談機関について、ギャンブルの資金を手に入れるために当事者がした借金額の平均値は7,682,963円、中央値は4,625,000円、範囲は400,000-60,000,000円、標準偏差は10,870,045円であった。（n=54 欠損数18）

家族向け自助グループ有志について、ギャンブルの資金を手に入れるために当事者がした借金額の平均値は10,464,972円、中央値は5,000,000円、範囲は70-270,000,000円、標準偏差は24,644,841円であった。（n=234 欠損数144）

（4）当事者のギャンブルのためにした借金を立て替えた金額

【B票：問14】 これまでに、依存の問題がある当事者が作った借金を立て替えたことはありましたか。あなたも含めて家族全員による立て替え総額を記入してください。立て替えたことがない場合は0円と記入してください。（数値記述）

立て替えたことがあると答えた者は、公的相談機関は43名（59.7%）、家族向け自助グループ有志は228名（59.8%）であった。

公的相談機関について、家族による立て替え額の平均値は7,804,479円、中央値は3,000,000円、範囲は300,000-100,000,000円、標準偏差は15,396,802円であった。（n=43）

家族向け自助グループ有志について、家族による立て替え額の平均値は6,508,830円、中央値は3,800,000円、範囲は200-80,000,000円、標準偏差は9,730,865円であった。（n=228）

（5）当事者のギャンブルの停止状況

【B票：問15】 直近3カ月、当事者はギャンブルをやめていますか。最もあてはまる番号1つに○をつけてください。（単一選択）

公的相談機関と家族向け自助グループ有志ともに、「やめている」の割合が最も高かった。

（図表 3-64）

図表 3-64 家族－直近3ヶ月のギャンブル状況

	公的相談機関	家族向け自助グループ有志
やめている	23 (44.2%)	111 (60.3%)
やめてはいないが以前より減った	8 (15.4%)	26 (14.1%)
やめていない	21 (40.4%)	36 (19.6%)
その他	0 (0.0%)	11 (6.0%)
全体	52 (100.0%)	184 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 =20, 家族向け自助グループ有志 =197

（6）家族向け自助グループや家族会の利用経験

【B票：問27】 あなたは自助グループ・家族会等を利用したことがありますか。（単一選択）

公的相談機関について、自助グループ・家族会等の利用経験があると答えたのは45人（65.2%）、利用経験が無いと答えたのは24人（34.8%）であった。（n=69 欠損数3）

家族向け自助グループ有志について、自助グループ・家族会等の利用経験があると答えたのは361人（98.6%）、利用経験が無いと答えたのは5人（1.4%）であった。（n=366 欠損数15）

問28～30は、問27で自助グループ・家族会等の利用経験があると答えた者（公的相談機関：45名、自助グループ有志：361名）を対象に尋ねた結果を示す。

【B票：問28】 あなたが参加したことのある自助グループ・家族会等はどれですか。（複数選択）

公的相談機関について、「家族会」の割合が最も高かった。家族向け自助グループ有志について、「ギャマノン」の割合が最も高かった。（図表 3-65）

図表 3-65 家族－利用経験のある自助グループ・家族会等

	公的相談機関 (n=45)	家族向け自助グループ有志 (n=361)
ギャマノン	27 (60.0%)	333 (92.2%)
ギャマノン以外の自助グループ	11 (24.4%)	96 (26.6%)
家族会	29 (64.4%)	225 (62.3%)
その他	1 (2.2%)	5 (1.4%)

※欠損数：公的相談機関 =0, 家族向け自助グループ有志 =0

【B票：問29】 当事者の問題に気づいてから、あなたが初めて自助グループや家族会等につながるまでどのくらいの期間がありましたか。（数値記述）

公的相談機関について、自助グループ・家族会等につながるまでにかかった期間の平均値は58.2ヶ月、中央値は24.0ヶ月、範囲は0.0-300.0ヶ月、標準偏差は76.5ヶ月であった。（n=42 欠損数3）

家族向け自助グループ有志について、自助グループ・家族会等につながるまでにかかった期間の平均値は55.5ヶ月、中央値は24.0ヶ月、範囲は0.0-619.0ヶ月、標準偏差は82.7ヶ月であった。（n=334 欠損数27）

【B票：問30】 あなたが自助グループや家族会に参加してからどのくらいの年月になりますか。（数値記述）

公的相談機関について、自助グループ・家族会等に通っている期間の平均値は26.7ヶ月、中央値は12.0ヶ月、範囲は0.0-144.0ヶ月、標準偏差は37.4ヶ月であった。（n=41 欠損数4）

家族向け自助グループ有志について、自助グループ・家族会等に通っている期間の平均値は56.6ヶ月、中央値は36.0ヶ月、範囲は0.0-340.0ヶ月、標準偏差は55.1ヶ月であった。（n=338 欠損数23）

【B票：問31】 あなたが自助グループや家族会に参加して、良かったことは何ですか。（複数選択）

公的相談機関について、「自分ひとりじゃないと思えた」が最も割合が高かった。次いで「当事者のことが理解できるようになった」「参加すると気持ちが軽くなる」の割合が同率で高かった。家族向け自助グループ有志について、「自分ひとりじゃないと思えた」の割合が最も高かった。次いで「相談する人ができた」、「参加すると気持ちが軽くなる」の割合が高かった。（図表3-66）

図表3-66 家族－自助グループ・家族会等に参加してよかったこと

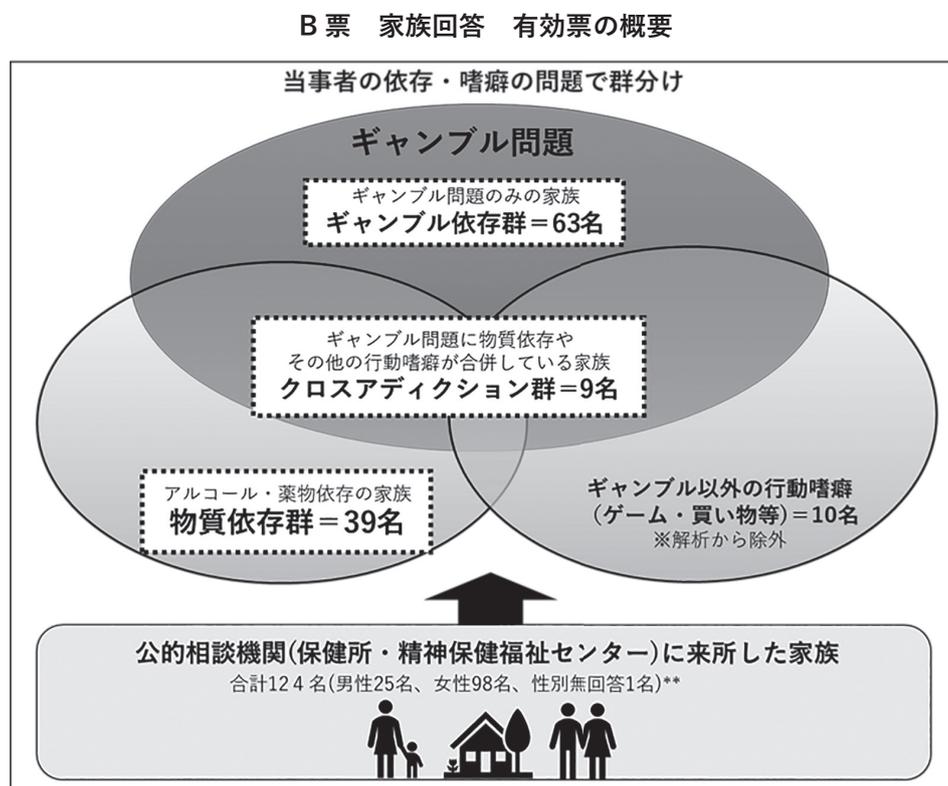
	公的相談機関 (n=45)	家族向け自助グループ有志 (n=361)
自分ひとりじゃないと思えた	39 (86.7%)	326 (90.3%)
家族の回復のお手本となる人と出会った	13 (28.9%)	252 (69.8%)
相談する人ができた	25 (55.6%)	304 (84.2%)
当事者のことが理解できるようになった	27 (60.0%)	262 (72.6%)
自分も回復できると思えるようになった	14 (31.1%)	264 (73.1%)
同じ悩みを持つ仲間とのネットワークが広がった	14 (31.1%)	271 (75.1%)
参加すると気持ちが軽くなる	27 (60.0%)	281 (77.8%)
同じ悩みを持つ家族の役に立てる	9 (20.0%)	216 (59.8%)
1 2ステップで生き方を変えられた	8 (17.8%)	185 (51.2%)
スポンサーシップが心強い	5 (11.1%)	178 (49.3%)
その他	1 (2.2%)	13 (3.6%)
特になし	2 (4.4%)	1 (0.3%)

※欠損数：公的相談機関=0，家族向け自助グループ有志=0

3.7.4 公的相談機関を利用する家族と関連問題

公的相談機関に来所した家族を当事者の抱える依存問題の種類で3つのグループ（ギャンブル依存群、クロスアディクション群、物質依存群）に分けて、関連問題についてそれぞれ比較した。

※クロスアディクション群に含まれる総数が9名と少ないため、3群間の比較結果については参考程度とし、慎重な解釈が必要である。



※以下本項において、公的相談機関を利用する家族の結果を「公的-家族」と略記する。

(1) 養育困難との関連（公的-家族）

【B票：問17】 あなたはこれまでに、依存の問題があることで子育てが難しいと感じたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（単一選択）
（養育困難）

全体では、依存の問題があることで養育困難があると答えた割合は、79.2%であった。養育困難の有無について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、有意差は認められなかった。

（図表 3-67）

図表 3-67 家族-依存の問題があることによる養育困難の有無，群別

	養育困難あり	養育困難なし	全体
ギャンブル依存群	43 (78.2%)	12 (21.8%)	55 (100.0%)
物質依存群	27 (81.8%)	6 (18.2%)	33 (100.0%)
クロスアディクション群	6 (75.0%)	2 (25.0%)	8 (100.0%)
全体	76 (79.2%)	20 (20.8%)	96 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=8，物質依存群=6，クロスアディクション群=1

（2）子への虐待との関連（公的－家族）

【B票：問18】 あなたはこれまでに、依存の問題があることで、子どもに対して、心理的な虐待（子どもを傷つける言葉を言う、夫婦間暴力をみせるなど）や身体的虐待（たたく、けるなど）や、ネグレクト（必要な世話をしない、子どもに愛情のある関わりをもてないなど）のいずれかのことがありましたか。（単一選択）
（子への虐待）

全体では、依存の問題があることで子どもへの虐待経験があると答えた割合は、34.4%であった。子どもへの虐待の経験の有無について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、有意差はなかった。（図表3-68）

図表3-68 家族－依存の問題があることによる子への虐待経験の有無，群別

	子どもへの虐待経験あり	子どもへの虐待経験なし	全体
ギャンブル依存群	20 (37.0%)	34 (63.0%)	54 (100.0%)
物質依存群	11 (32.4%)	23 (67.6%)	34 (100.0%)
クロスアディクション群	2 (25.0%)	6 (75.0%)	8 (100.0%)
全体	33 (34.4%)	63 (65.6%)	96 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=9，物質依存群=5，クロスアディクション群=1

（3）小児期逆境体験との関連（公的－家族）

【B票：問19】 あなたが18歳までに経験したことがあるもの全てに○をつけてください。
（複数選択）

全体で、小児期逆境体験が1つ以上該当する割合は34.3%で依存対象による3群間で有意差はなかった。（図表3-69）

図表3-69 家族－小児期逆境体験の有無，群別

	小児期逆境体験		全体
	該当なし	1つ以上該当	
ギャンブル依存群	37 (66.1%)	19 (33.9%)	56 (100.0%)
物質依存群	24 (64.9%)	13 (35.1%)	37 (100.0%)
クロスアディクション群	6 (66.7%)	3 (33.3%)	9 (100.0%)
全体	67 (65.7%)	35 (34.3%)	102 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=7，物質依存群=2

（4）抑うつ・不安との関連（公的－家族）

【B票：問20】 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適当と思われる番号（1:いつも～5:全くない）を選んで○をつけてください。（単一選択）

全体では、66.3%が5点以上で抑うつ・不安の問題ありとなった。K6得点について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、有意差は認められなかった。 $(\chi^2(6) = 4.369, n.s.)$

（図表3-70）

図表3-70 家族－K6得点，群別

	抑うつ・不安の問題なし	何らかの抑うつ・不安の問題あり	抑うつ・不安障害の疑い	重度の抑うつ・不安障害の疑い	全体
	0－4点	5－9点	10－12点	13点以上	
ギャンブル依存群	19 (33.3%)	13 (22.8%)	11 (19.3%)	14 (24.6%)	57 (100.0%)
物質依存群	14 (38.9%)	7 (19.4%)	10 (27.8%)	5 (13.9%)	36 (100.0%)
クロスアディクション群	1 (12.5%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	3 (37.5%)	8 (100.0%)
全体	34 (33.7%)	22 (21.8%)	23 (22.8%)	22 (21.8%)	101 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=6，物質依存群=3，クロスアディクション群=1

（5）希死念慮・自殺企図との関連（公的－家族）

【B票：問21】 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。（単一選択）

全体では、「希死念慮がある・あった」と答えた割合が39.8%であった。希死念慮の有無について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、有意差は認められなかった。（図表3-71）

図表3-71 家族－希死念慮の有無，群別

	希死念慮がある・あった	希死念慮がない	全体
ギャンブル依存群	23 (40.4%)	34 (59.6%)	57 (100.0%)
物質依存群	13 (35.1%)	24 (64.9%)	37 (100.0%)
クロスアディクション群	5 (55.6%)	4 (44.4%)	9 (100.0%)
全体	41 (39.8%)	62 (60.2%)	103 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=6，物質依存群=2

【B票：問22】 あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。（単一選択）

全体では、「自殺企図がある・あった」と答えた割合が6.5%であった。自殺企図の有無について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、有意差は認められなかった。（図表3-72）

図表3-72 家族－自殺企図の有無，群別

	自殺企図がある・あった	自殺企図がない	全体
ギャンブル依存群	5 (8.5%)	54 (91.5%)	59 (100.0%)
物質依存群	1 (2.6%)	38 (97.4%)	39 (100.0%)
クロスアディクション群	1 (11.1%)	8 (88.9%)	9 (100.0%)
全体	7 (6.5%)	100 (93.5%)	107 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=4

（6）依存問題のある当事者の触法行為（公的－家族）

【B票：問24】 依存の問題がある当事者は、下記のリストに掲げる行為をしたことはありますか。あてはまるもの全てに○をしてください。（複数選択）

全体で、該当者の割合が最も高かったのは「家族の金品（預金を含む）を盗んだ」であった。問題行為ごとの該当有無について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、下記行為の該当者割合に有意差が認められた。

ギャンブル依存群では、物質依存群に比べて「家族の金品（預金を含む）を盗んだ」の該当割合が有意に高く（ $\chi^2(2) = 15.745, p < .01$ ）、「違法薬物を使用した（ $\chi^2(2) = 34.412, p < .01$ ）」「暴力を振るったり、物を壊したりした（ $\chi^2(2) = 7.908, p < .05$ ）」「飲酒運転をした（ $\chi^2(2) = 17.812, p < .01$ ）」の該当割合が有意に低かった。（図表 3-73）

*：有意差あり

図表 3-73 家族－依存問題のある当事者の触法行為，群別

	家族の金品（預金を含む）を盗んだ	家族や知人のカードを勝手に使った	客引きや薬物売買などの違法な仕事を行った	家族以外の他人や店から金品（預金を含む）を盗んだ
ギャンブル依存群	39 (69.6%) **	18 (32.1%)	1 (1.8%)	5 (8.9%)
物質依存群	9 (27.3%) **	5 (15.2%)	1 (3%)	0 (0.0%)
クロスアディクション群	3 (37.5%)	3 (37.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全体	51 (52.6%)	26 (26.8%)	2 (2.1%)	5 (5.2%)

	違法薬物を使用した	暴力を振るったり、物を壊したりした	会社のお金を横領した	飲酒運転をした
ギャンブル依存群	0 (0.0%) **	11 (19.6%) *	7 (12.5%)	1 (1.8%) **
物質依存群	15 (45.5%) **	15 (45.5%) **	0 (0.0%)	11 (33.3%) **
クロスアディクション群	0 (0.0%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)
全体	15 (15.5%)	27 (27.8%)	8 (8.2%)	13 (13.4%)

※欠損数：ギャンブル依存群 = 7, 物質依存群 = 6, クロスアディクション群 = 1

※群分け集計回答総数（ギャンブル依存群 n=56, 物質依存群 n=33, クロスアディクション群 n=8）

*：残差分析結果有意差あり * $p < .05$, ** $p < .01$

3.7.5 ギャンブル家族向け自助グループ有志における関連問題

以下、ギャンブル家族向け自助グループを利用する者（以下、自助G-家族と表記）（n=381）における、「ギャンブル関連問題」に関する項目の集計結果を示す。

（1）養育困難との関連（自助G-家族）

【B票：問17】 あなたはこれまでに、依存の問題があることで子育てが難しいと感じたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（単一選択）（養育困難）

これまでに子育てをしたことがない者24名を除く357名に尋ねた結果を示す。「養育困難あり」と回答した者は全体の89.6%であった。（図表3-74）

図表 3-74 家族－養育困難の有無

	男性	女性	全体
養育困難あり	26 (86.7%)	276 (89.9%)	302 (89.6%)
養育困難なし	4 (13.3%)	31 (10.1%)	35 (10.4%)
全体	30 (100.0%)	307 (100.0%)	337 (100.0%)

※欠損数：20

（2）子への虐待との関連（自助G-家族）

【B票：問18】 あなたはこれまでに、依存の問題があることで、子どもに対して、心理的な虐待（子どもを傷つける言葉を言う、夫婦間暴力をみせるなど）や身体的虐待（たたく、けるなど）や、ネグレクト（必要な世話をしない、子どもに愛情のある関わりをもてないなど）のいずれかのことがありましたか。（単一選択）（子どもへの虐待）

これまでに子育てをしたことがない者24名を除く357名に尋ねた結果を示す。「子への虐待経験あり」と回答したのは全体の56.0%であった。（図表3-75）

図表 3-75 家族－子どもへの虐待経験の有無

	男性	女性	全体
子への虐待経験あり	12 (41.4%)	176 (57.3%)	188 (56.0%)
子への虐待経験なし	17 (58.6%)	131 (42.7%)	148 (44.0%)
全体	29 (100.0%)	307 (100.0%)	336 (100.0%)

※欠損数：21

（3）小児期逆境体験との関連（自助G-家族）

【B票：問19】 あなたが18歳までに経験したことがあるもの全てに○をつけてください。（複数選択）

小児期逆境体験に1つ以上該当する者の割合は全体の48.8%であった。最も該当割合の高かった項目は、「心理的虐待を受けた」23.8%であった。（図表3-76）

図表 3-76 家族－小児期逆境体験の有無

	男性	女性	全体
該当なし	20 (66.7%)	165 (49.8%)	185 (51.2%)
1つ以上該当	10 (33.3%)	166 (50.2%)	176 (48.8%)
全体	30 (100.0%)	331 (100.0%)	361 (100.0%)

※欠損数：20

図表 3-77 家族 – 小児期逆境体験項目ごとの該当数・割合

	男性 (n=30)	女性 (n=331)	全体 (n=361)
心理的虐待を受けた	2 (6.7%)	84 (25.4%)	86 (23.8%)
家庭内暴力 (DV) を目撃した	2 (6.7%)	69 (20.8%)	71 (19.7%)
精神疾患がある人との同居	2 (6.7%)	23 (6.9%)	25 (6.9%)
アルコール依存や薬物乱用のある人との同居	0 (0.0%)	39 (11.8%)	39 (10.8%)
身体的虐待を受けた	2 (6.7%)	31 (9.4%)	33 (9.1%)
ネグレクト (養育の放棄) を受けた	0 (0.0%)	12 (3.6%)	12 (3.3%)
性的虐待を受けた	0 (0.0%)	12 (3.6%)	12 (3.3%)
両親の離婚	1 (3.3%)	21 (6.3%)	22 (6.1%)
刑務所に入ったことがある人との同居	1 (3.3%)	5 (1.5%)	6 (1.7%)
学校でのいじめ被害	2 (6.7%)	63 (19.0%)	65 (18.0%)

※欠損数：20

(4) 抑うつ・不安との関連 (自助G- 家族)

【B票：問20】 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適当と思われる番号 (1: いつも～5: 全くない) を選んで○をつけてください。(単一選択) (K6, 抑うつ・不安のスクリーニングテスト)

抑うつ・不安のスクリーニング尺度 K6 得点では、5 点以上を「抑うつ・不安の問題あり」とする。家族向け自助グループを利用する者のうち、5 点以上に該当したのは 188 名で全体の 53.3% を占めた。(図表 3-78)

図表 3-78 家族 – K6 得点

		男性	女性	全体
K6 得点区分	0 – 4 点	17 (54.8%)	148 (46.0%)	165 (46.7%)
	5 – 9 点	8 (25.8%)	92 (28.6%)	100 (28.3%)
	10 – 12 点	3 (9.7%)	35 (10.9%)	38 (10.8%)
	13 点以上	3 (9.7%)	47 (14.6%)	50 (14.2%)
	全体	31 (100.0%)	322 (100.0%)	353 (100.0%)

※欠損数：28

(5) 希死念慮・自殺企図との関連 (自助G- 家族)

【B票：問21】 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。(単一選択)

希死念慮の経験がある・あった者は、全体の 46.7% であった。(図表 3-79)

図表 3-79 家族 – 希死念慮の有無

	男性	女性	全体
希死念慮がある・あった	11 (36.7%)	154 (47.7%)	165 (46.7%)
希死念慮がない	19 (63.3%)	169 (52.3%)	188 (53.3%)
全体	30 (100.0%)	323 (100.0%)	353 (100.0%)

※欠損数：28

【B票：問22】 あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。（単一選択）

自殺企図の経験がある・あったものは、全体の3.9%であった。（図表3-80）

図表 3-80 家族 – 自殺企図の有無

	男性	女性	全体
自殺企図がある・あった	0 (0.0%)	14 (4.2%)	14 (3.9%)
自殺企図がない	31 (100.0%)	316 (95.8%)	347 (96.1%)
全体	31 (100.0%)	330 (100.0%)	361 (100.0%)

※欠損数：20

(6) 当事者の触法行為（自助G-家族）

【B票：問24】 依存問題を抱える当事者は、下記のリストに掲げる行為をしたことはありますか。あてはまるもの全てに○をしてください。（触法行為を含む問題行為）

当事者がしたことのある触法行為を含む問題行為のうち、該当した割合が最も高かったのは、「家族の金品（預金を含む）を盗んだ」74.3%であった。（図表3-81）

図表 3-81 家族 – 触法行為を含む問題行為ごとの該当数・割合

	男性 (n=30)	女性 (n=316)	全体 (n=346)
家族の金品（預金を含む）を盗んだ	26 (86.7%)	231 (73.1%)	257 (74.3%)
家族や知人のカードを勝手に使った	11 (36.7%)	101 (32%)	112 (32.4%)
客引きや薬物売買などの違法な仕事を行った	1 (3.3%)	4 (1.3%)	5 (1.4%)
家族以外の他人や店から金品（預金を含む）を盗んだ	10 (33.3%)	64 (20.3%)	74 (21.4%)
違法薬物を使用した	0 (0.0%)	10 (3.2%)	10 (2.9%)
暴力を振るったり、物を壊したりした	4 (13.3%)	71 (22.5%)	75 (21.7%)
会社のお金を横領した	9 (30.0%)	73 (23.1%)	82 (23.7%)
飲酒運転をした	1 (3.3%)	24 (7.6%)	25 (7.2%)

※欠損数：35

第4章 ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査 （調査C）

4.1 調査目的

ギャンブル関連問題（多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪）について、各分野の相談支援に対応する各機関において、ギャンブル問題が背景に関与している相談の対応経験、また、そのような相談に対応する際の課題などを明らかにすることを目的とした。

4.2 調査方法

（1）調査対象

「多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪¹⁰⁾」のギャンブル関連問題の分野ごとに以下の計10種類の機関を調査対象とした。

- 多重債務：司法書士総合相談センター・弁護士会・消費生活センター
- 貧困：社会的包摂サポートセンター・福祉事務所
- 虐待：児童相談所・市区町村の保健センター
- 自殺：日本いのちの電話連盟・自殺対策推進センター・保健所

さらに、各機関で地理的な偏りを生じないように下記の抽出基準を用いて、調査を依頼する施設を抽出した。

<調査依頼施設の抽出基準>

①調査依頼をする地域（都市）の選定

全国を6つの地域（北海道・東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄）に分け、各地域より、政令指定都市を3か所（関東甲信越/近畿は4か所）を抽出した。政令指定都市の数が4以上ある地域については、人口が多い順に3か所（関東甲信越/近畿は4か所ずつ）を抽出した。また、政令指定都市の数が3未満（関東甲信越/近畿は4未満）の地域は、県庁所在地のある都市のうち人口が多い順に抽出した。1つの都道府県に複数の政令指定都市がある場合は県庁所在地となっている都市を優先的に抽出した。各都道府県から1都市までとし、計20都市を選定した。

②調査を依頼する施設の決定

上記、①の条件に基づいて、調査を依頼する政令指定都市または主要都市を選定した上で、調査依頼する施設を決定した。

- ・司法書士総合相談センター、自殺対策推進センター（精神保健福祉センター）、保健所については、抽出した都市1か所につき1施設設置されているため、全ての施設を調査対象とした。
- ・児童相談所、市区町村の保健センター、福祉事務所については、抽出した都市に存在する全ての施設を対象とした。（児童相談所は計28施設・市区町村の保健センターは計171施設・福祉事務所は計147施設）。
- ・消費生活センターについては、上記の政令指定都市または主要都市1か所につき1施設存在する

¹⁰⁾ 今回は犯罪分野の調査は実施しなかった。

場合はその施設を、上記の政令指定都市または主要都市に施設が存在しない場合は、選定した都市が属する都道府県にある1施設を対象とした。（計20施設）

- ・民間団体である社会的包摂サポートセンター・日本ののちの電話連盟については、各拠点の詳細な所在地は非公開のため、当該団体の事務局を通じて調査を依頼した。（各組織、計20拠点）このため、①で選定した都市が属する都道府県以外の自治体も調査対象に含めた。
- ・弁護士会については、消費者対策に係る委員を中心に当該団体の事務局から調査の協力依頼を実施した。

上記の条件に基づいて選定した政令指定都市または主要都市は図表4-1に示す。

図表4-1 調査対象として選定した20都市

地域区分	選定した都市	備考
北海道・東北	札幌市, 仙台市, 福島市	・福島市：政令指定都市以外で、北海道・東北エリアの県庁所在地のうち人口が最も多い都市
関東甲信越	新宿区, さいたま市, 千葉市, 横浜市	・新宿区：都庁所在地の都市（特別区）
東海・北陸	静岡市, 名古屋市, 金沢市	・静岡市：東海・北陸エリアの政令指定都市（静岡市・浜松市）のうち、県庁所在地の都市 ・金沢市：東海・北陸エリアの政令指定都市以外で県庁所在地のうち人口が最も多い都市
近畿	京都市, 大阪市, 神戸市, 奈良市	・奈良市：近畿エリアの政令指定都市以外で県庁所在地のうち人口が最も多い都市
中国・四国	岡山市, 広島市, 松山市	・松山市：四国エリアの政令指定都市以外で県庁所在地のうち人口が最も多い都市
九州・沖縄	福岡市, 熊本市, 鹿児島市	・鹿児島市：九州・沖縄エリアの政令指定都市以外で県庁所在地のうち人口が最も多い都市

（2）調査回答期間

令和2年12月23日～令和3年1月15日

（3）調査票名・調査項目

調査票名：「相談機関におけるギャンブル問題の実態調査」

調査項目：

- ①基本属性：組織種別，都道府県，施設名称，回答者の経歴（役職・職種・経歴年数）
- ②相談対応に係るギャンブルの実施状況の確認
- ③相談対応の際にギャンブル問題の相談先として紹介する機関
- ④令和元年度中の「新規相談受付件数」および「ギャンブル問題が関与していると思われる相談件数」
- ⑤ギャンブル問題が関与していると思われる相談対応に係る課題認識

（4）配布・回答・回収方法

Web 回答にアクセスするための URL を記載した依頼状を郵送あるいはメールにて各調査対象施設に送付した。回答・回収方法は、原則インターネット経由とした。ただし、事業所内の端末から、本調査専用の Web 回答にアクセスできないなどの場合は、Eメールを用いて、各組織の担当者宛に調査票様式を送付し回収した。

4.3 有効票の概要

回収総数は166件（Web回答：152件，メール回答：14件）であった。

調査依頼時の想定では1組織につき1回答を想定していたが，一部の組織から複数の回答が得られた。1組織から複数回答が得られた場合には，相談実績の報告に関する質問は1組織につき1つの回答を有効票とし，ギャンブル依存に対する回答者の考えや相談経験を問う質問は全ての票を集計の対象とした。なお，弁護士会（依頼状送付施設数：25）においては，得られた回答は1件であり，匿名性保持の観点より集計から除外した。よって計165件を有効票として解析を行った。

以上の手続きにより抽出された調査対象施設の概要および有効票数の一覧を図表4-2に示す。

図表4-2 調査対象施設の概要および有効票数

ギャンブル関連問題の分野	組織種別	調査依頼施設数	有効票数	全国設置数	全国設置数（出典）
虐待	児童相談所	28 ^{**}	23	210	H30 児童相談所関連データ（厚生労働省）
	市区町村の保健センター	171 ^{**}	20	2,457	都道府県別市区町村保健センター設置数：令和3年4月1日現在（厚生労働省）
貧困	福祉事務所	147 ^{**}	12	1,250	福祉事務所の設置状況（厚生労働省 HP）（令和2年度数値）
多重債務	消費生活センター	20	20 (29) [*]	829	消費生活相談窓口の状況（消費者庁）（平成29年度数値）
	日本弁護士連合会 （消費者対策に係る委員）	25	0	—	—
	司法書士総合相談センター	20	19	154	日本司法書士会連合会 HP（調査時点数値）
自殺	社会的包摂サポートセンター	20	10	45	当該法人より施設数を確認（調査時点数値）
	日本いのちの電話連盟	20	20 (25) [*]	53	日本いのちの電話連盟 HP（調査時点数値）
	自殺対策推進センター	20	13	62	平成30年版自殺対策白書（厚生労働省）
	保健所	20	14	469	保健所設置数・推移（全国保健所長会 HP）（令和2年度数値）
全体		466	165	—	—

※ギャンブル依存に対する回答者の考えや相談経験を問う質問は集計対象

※児童相談所は本所・支所（本所20+支所8）の合計数，市区町村の保健センターは本所・支所（本所20+支所151）の合計数，福祉事務所は本所・支所（本所20+支所127）の合計数

4.4 調査結果

（1）回答者の基本属性

【問1】貴組織の種別をお選びください。（単一回答）

組織種別では、福祉事務所からの回収数が最も多かった。（図表 4-3）

図表 4-3 組織の種別

組織種別	回答件数（割合）
保健所	23（13.9%）
児童相談所	20（12.1%）
市区町村の保健センター	12（7.3%）
福祉事務所	29（17.6%）
消費生活センター	19（11.5%）
司法書士総合相談センター	10（6.1%）
自殺対策推進センター	25（15.2%）
日本いのちの電話連盟	13（7.9%）
社会的包摂サポートセンター	14（8.5%）
全体	165（100.0%）

【問2】貴組織のある都道府県をお選びください。（単一回答）

組織のある都道府県について、最も多く得られた回答が「神奈川県」9.1%、次いで「北海道」・「静岡県」が7.9%で同値であった。（図表 4-4）

図表 4-4 回答者が所属する組織の所在地（都道府県）

都道府県	回答件数（割合）
北海道	13（7.9%）
宮城県	5（3.0%）
福島県	10（6.1%）
栃木県	1（0.6%）
埼玉県	7（4.2%）
千葉県	9（5.5%）
東京都	10（6.1%）
神奈川県	15（9.1%）
石川県	8（4.8%）
静岡県	13（7.9%）
愛知県	4（2.4%）
京都府	10（6.1%）
大阪府	4（2.4%）
兵庫県	9（5.5%）
奈良県	5（3.0%）
岡山県	4（2.4%）
広島県	7（4.2%）
香川県	1（0.6%）
愛媛県	4（2.4%）
福岡県	9（5.5%）
熊本県	6（3.6%）
鹿児島県	10（6.1%）
沖縄県	1（0.6%）
全体	165（100.0%）

【問3】 貴組織の施設名称（都道府県以下の名称、支所名、部署名等）をご記載ください。

組織の施設名称について、調査回答のあった165施設から回答が得られた。（非公表）

【問4】 あなたの役職について最も近いものを1つお選びください。（単一回答）

役職について、最も多く得られた回答が「一般（正規）職員」38.8%、次いで「係長・主任」36.4%、「施設の代表・役員・管理者（所長やセンター長など）」および「部長（部局長・所属長など）」が6.1%であった。（図表4-5）

図表4-5 回答者の役職

役職	回答件数（割合）
施設の代表・役員・管理者（所長やセンター長など）	10（6.1%）
部長（部局長・所属長など）	10（6.1%）
課長	3（1.8%）
係長・主任	60（36.4%）
一般（正規）職員	64（38.8%）
契約職員	7（4.2%）
パート・アルバイト	1（0.6%）
派遣社員	1（0.6%）
ボランティア	3（1.8%）
その他	5（3.0%）
無回答	1（0.6%）
全体	165（100.0%）

【問5】 あなたの職種について最も近いものを1つお選びください。（単一回答）

職種について、最も多く得られた回答が「事務員」で24.2%、次いで「精神保健福祉士」13.9%、「保健師」13.3%であった。（図表4-6）

図表4-6 回答者の職種

職種	回答件数（割合）
医師	3（1.8%）
看護師	2（1.2%）
保健師	22（13.3%）
精神保健福祉士	23（13.9%）
心理職	6（3.6%）
司法書士	9（5.5%）
社会福祉士	9（5.5%）
児童福祉司	8（4.8%）
社会福祉主事	7（4.2%）
ケース・ワーカー	7（4.2%）
相談員	18（10.9%）
事務員	40（24.2%）
その他	10（6.1%）
無回答	1（0.6%）
全体	165（100.0%）

【問6】上記の職種の経験年数としてあてはまるものを1つお選びください。（単一回答）

職種の経験年数について、最も多く得られた回答が「5年以上」で53.9%、次いで「1年以上3年未満」19.4%、「1年未満」13.9%であった。（図表4-7）

図表4-7 職種の経験年数

経験年数	回答件数（割合）
1年未満	23（13.9%）
1年以上3年未満	32（19.4%）
3年以上5年未満	20（12.1%）
5年以上	89（53.9%）
無回答	1（0.6%）
全体	165（100.0%）

（2）ギャンブルの実施状況確認

「ギャンブル」および「ギャンブル問題」について用語の定義を示した上で、【問7】を質問した。

「ギャンブル」とは…金銭や品物などの財物を賭けて偶然性の要素が含まれる勝負を行い、その勝負の結果によって賭けた財物のやりとりをおこなう行為である。

日本国内における競馬、競輪、競艇などの公営ギャンブルのほか、海外のギャンブル（カジノ、ブックメーカー等）や、違法ギャンブル（裏カジノ、賭け麻雀等）などが含まれる。ここでは、パチンコ・パチスロも含む。

「ギャンブル問題」とは…ギャンブル（パチンコ・パチスロを含む）を起因とした様々な問題に関する以下のようなことが含まれる問題のことをいう。

- ① ギャンブルから抜け出せない（ギャンブルをやめられない、やめさせられない）ことに
関する問題
- ② ギャンブルにより生じた経済上（借金、働かないことによる生活困窮）の問題
- ③ ギャンブルにより生じた家庭の問題（離婚、虐待、育児放棄）
- ④ ギャンブルにより生じた人間関係上の問題
- ⑤ ギャンブルにより生じた精神保健上の問題
- ⑥ ギャンブルにより生じた社会的、学業上の問題

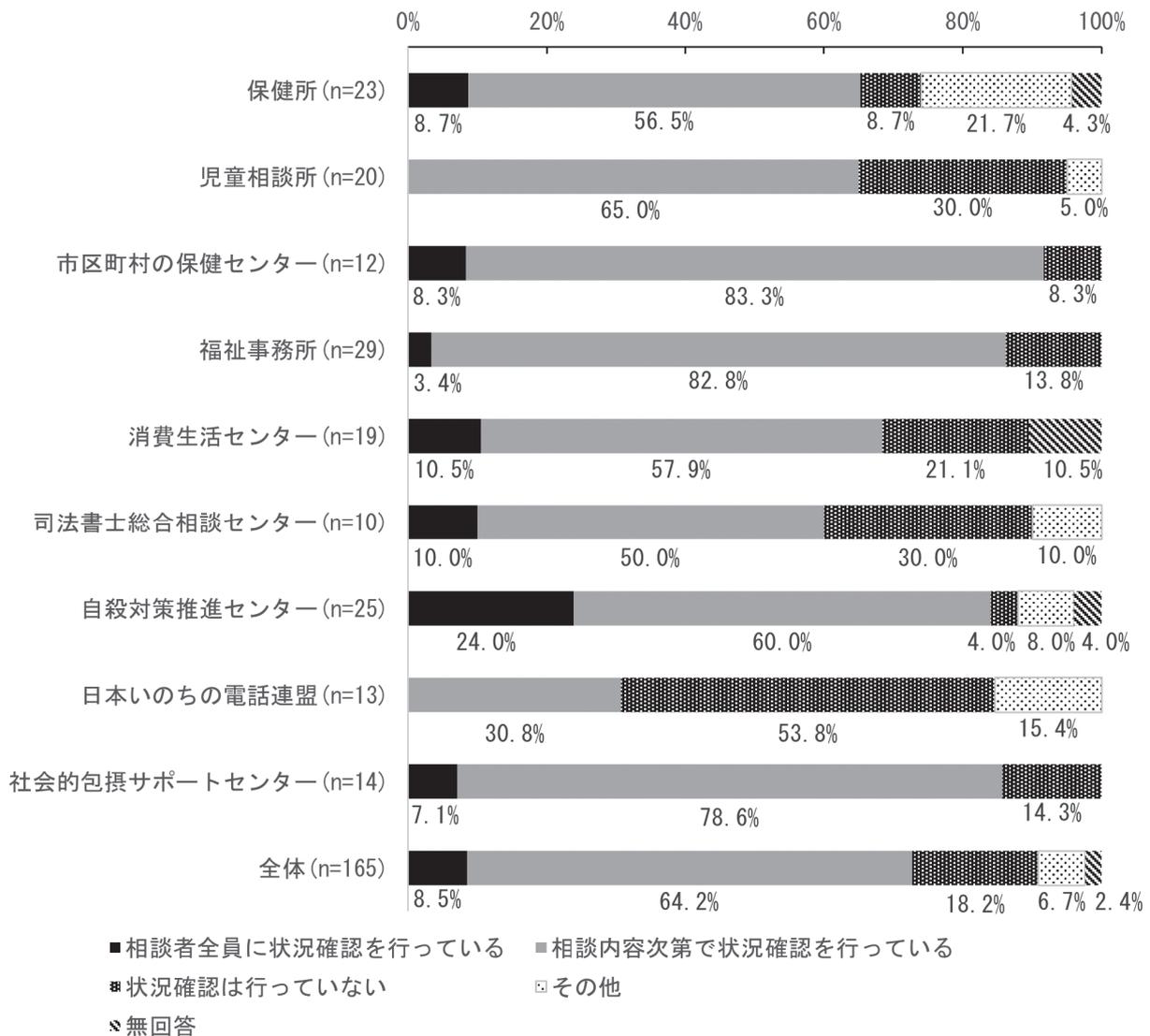
【問7】貴組織に相談をされた方（相談者）に対して、ギャンブルの実施状況の確認を行うことがありますか。（単一回答）

結果を組織種別でみると、「相談者全員に状況確認を行っている」と回答した割合が高かったのは、「自殺対策推進センター」24.0%、次いで「消費生活センター」10.5%、「司法書士総合相談センター」10.0%であった。一方、「状況確認は行っていない」と回答した割合が高かったのは、「日本いのちの電話連盟」53.8%、「児童相談所」30.0%、「司法書士総合相談センター」30.0%であった。全体の傾向として、多くの施設が「相談内容次第で状況確認を行っている」と回答し、全体の64.2%を占めた。（図表4-8）

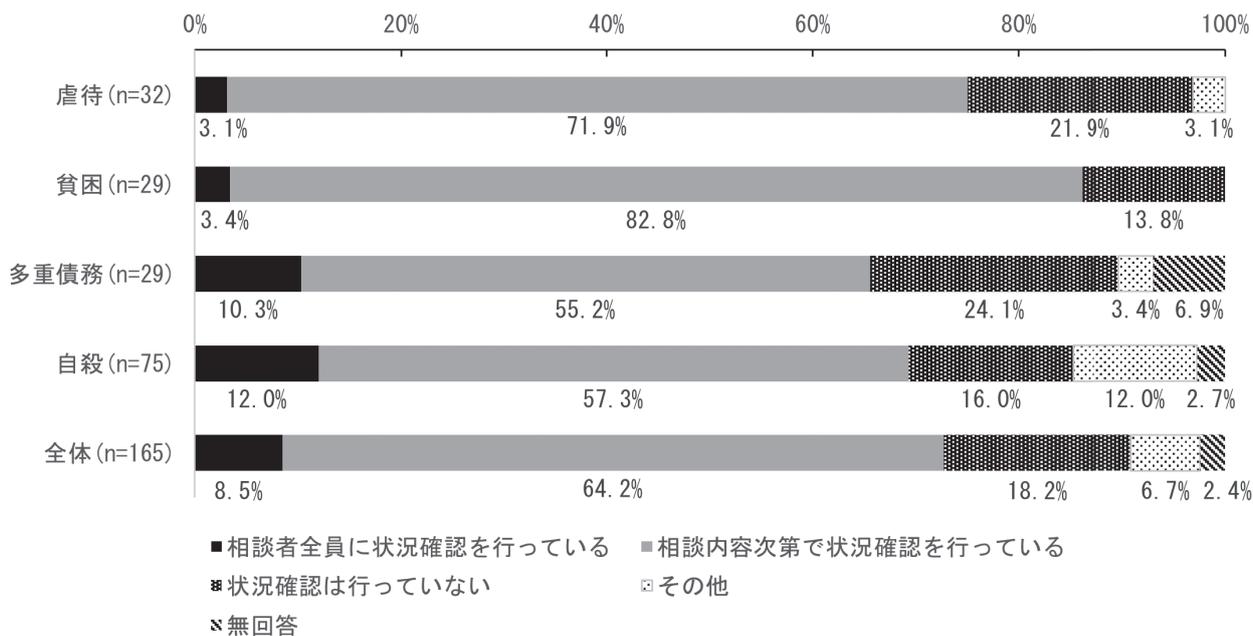
続いて、各施設をギャンブル関連問題の分野で分けて集計した結果を図表4-9に示す。

これより、「相談者全員に状況確認を行っている」と回答した割合は、「自殺」12.0%、「多重債務」10.3%、「貧困」3.4%、「虐待」3.1%であった。一方で、いずれの分野でも「状況確認は行っていない」と回答した施設が一定数（16.0%～24.1%）存在した。

図表4-8 ギャンブル実施状況の確認（組織種別）



図表 4-9 ギャンブル実施状況の確認（関連問題の分野別）



続いて、【問7】で「相談者全員に状況確認を行っている」、または「相談内容次第で状況確認を行っている」と回答した場合に、「相談者のギャンブルの実施状況」について、各施設で確認している内容を尋ねた。

【問8】ギャンブルの実施状況について、具体的にどのようなことを確認していますか。あてはまるものに全て○をしてください。（複数回答）

組織種別にみると、「保健所」、「児童相談所」、「市区町村の保健センター」では、「ギャンブルの種類」と回答した施設の割合が高かった。また「消費生活センター」や「司法書士総合相談センター」は、「ギャンブルによる借金額」を確認していると回答した施設の割合が高かった。また、「福祉事務所」や「自殺対策推進センター」「社会的包摂サポートセンター」は、各選択肢に同程度の回答があった。また「日本いのちの電話連盟」では「その他」が30.8%で最も高かった。なお、「日本いのちの電話連盟」におけるその他の内容は、「ギャンブル問題の特定は難しい」「ギャンブルによってもたらされる不安の内容」などが挙げられていた。（図表 4-10）

関連問題の分野別では、虐待・自殺分野において、「ギャンブルの種類」（虐待分野：75.0%，自殺分野：60.0%）、貧困分野において、「ギャンブルの種類」「借金額」（いずれも69.0%）、多重債務分野において、「借金額」（62.1%）と回答した施設の割合が高かった。（図表 4-11）

図表 4-10 ギャンブルの実施状況について具体的な確認内容（組織種別）

組織種別	ギャンブルの種類（パチンコや競馬などの種類）		ギャンブルの頻度		ギャンブルに使う金額		ギャンブルによる借金額		他機関等への相談状況		その他	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
保健所（n=23）	14	60.9%	13	56.5%	12	52.2%	12	52.2%	10	43.5%	2	8.7%
児童相談所（n=20）	13	65.0%	12	60.0%	8	40.0%	11	55.0%	123	60.0%	3	15.0%
市区町村の保健センター（n=12）	11	91.7%	10	83.3%	8	66.7%	8	66.7%	7	58.3%	220	16.7%
福祉事務所（n=29）	20	69.0%	18	62.1%	16	55.2%	20	69.0%	14	48.3%	2	6.9%
消費生活センター（n=19）	9	47.4%	4	21.1%	6	31.6%	12	63.2%	4	21.1%	0	0.0%
司法書士総合相談センター（n=10）	3	30.0%	3	30.0%	3	30.0%	6	60.0%	5	50.0%	1	10.0%
自殺対策推進センター（n=25）	18	72.0%	18	72.0%	18	72.0%	18	72.0%	19	76.0%	10	40.0%
日本いのちの電話連盟（n=13）	2	15.4%	2	15.4%	1	7.7%	1	7.7%	1	7.7%	4	30.8%
社会的包摂サポートセンター（n=14）	11	78.6%	10	71.4%	10	71.4%	9	64.3%	9	64.3%	1	7.1%
全体（n=165）	101	61.2%	90	54.5%	82	49.7%	97	58.8%	81	49.1%	25	15.2%

※問7で「状況確認はおこなっていない」「その他」と回答しているにもかかわらず問8に回答した（n=12）場合も問8の集計に含めた。

図表 4-11 ギャンブルの実施状況について具体的な確認内容（関連問題の分野別）

関連問題の分野別	ギャンブルの種類（パチンコや競馬などの種類）		ギャンブルの頻度		ギャンブルに使う金額		ギャンブルによる借金額		他機関等への相談状況		その他	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
虐待（n=32）	24	75.0%	22	68.8%	16	50.0%	19	59.4%	19	59.4%	5	15.6%
貧困（n=29）	20	69.0%	18	62.1%	16	55.2%	20	69.0%	14	48.3%	2	6.9%
多重債務（n=29）	12	41.4%	7	24.1%	9	31.0%	18	62.1%	9	31.0%	1	3.4%
自殺（n=75）	45	60.0%	43	57.3%	41	54.7%	40	53.3%	39	52.0%	17	22.7%
全体（n=165）	101	61.2%	90	54.5%	82	49.7%	97	58.8%	81	49.1%	25	15.2%

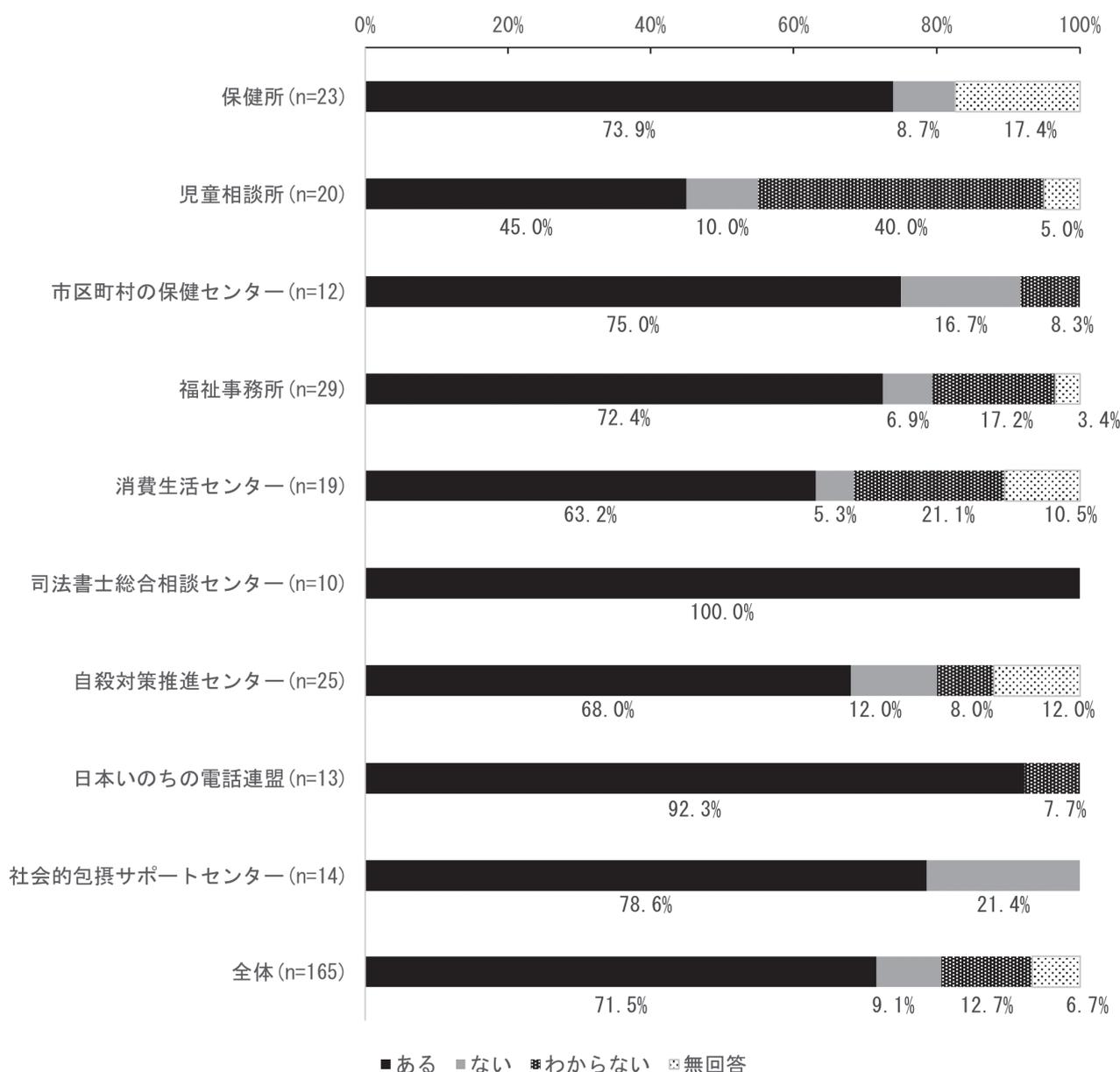
（3）ギャンブル問題が関与する相談の対応経験・紹介先

【問9】貴組織において、これまでに、相談内容の背景にギャンブル問題が関与していると思われる相談事例を経験されたことはありますか。（単一回答）

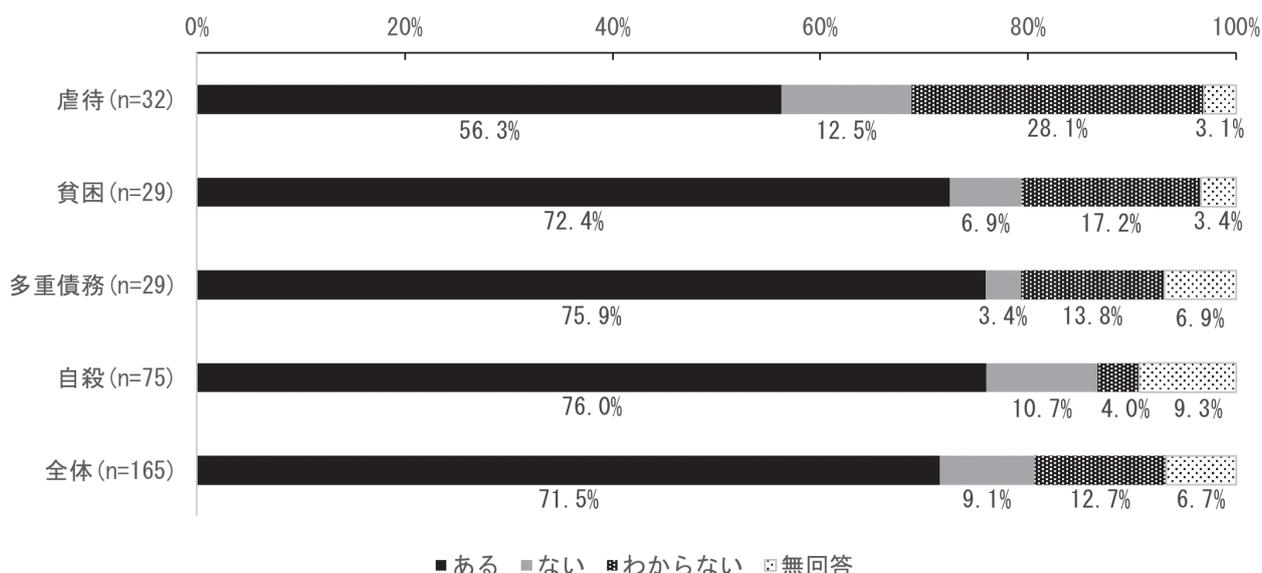
ギャンブル問題が相談の背景に関与していると思われる事例の経験の有無について尋ねたところ、「司法書士総合支援センター」は、100%で回答者の全員が「ある」と回答した。次いで「日本のちの電話連盟」92.3%、「社会的包摂サポートセンター」78.6%であった。一方、児童相談所は「経験がある」は45.0%であり、「経験がない」「わからない」と回答した割合が施設種別の中で最も高かった。（図表4-12）

関連問題の分野別では、虐待に係る相談機関では「ある」と回答した割合が56.3%、それ以外の貧困、多重債務、自殺問題では7割以上から「ある」との回答が得られた。（図表4-13）

図表4-12 ギャンブル問題が関与する相談の対応経験（組織種別）



図表 4-13 ギャンブル問題が関与する相談の対応経験（関連問題の分野別）



【問 10】 貴組織において、ギャンブル問題が関与していると思われる相談に対応する際、どのような機関を紹介しますか。（複数回答）

【問 10】では、ギャンブル問題が関与していると思われる相談事例に対し、紹介している機関について、回答を求めた。全施設の集計（n=165）では、「医療機関」が40.6%で最多で、次いで「精神保健福祉センター」38.2%、「自助グループ」が35.2%であった。「特に紹介はしていない」と回答した施設も6.1%あった。（図表 4-14）

図表 4-14 全施設ーギャンブル問題が関与する相談の紹介先（n=165）

紹介先	n	%
医療機関	67	40.6
精神保健福祉センター	63	38.2
自助グループ	58	35.2
弁護士の相談窓口	43	26.1
民間依存症回復施設	29	17.6
家族会	29	17.6
司法書士の相談窓口	27	16.4
保健所	21	12.7
消費生活センター	20	12.1
市区町村の窓口	17	10.3
特に紹介はしていない	11	6.7
その他	10	6.1
警察	9	5.5

続いて、関連問題の分野ごとに紹介先の頻度について集計しグラフに示した。（図表 4-15 ～ 4-18）

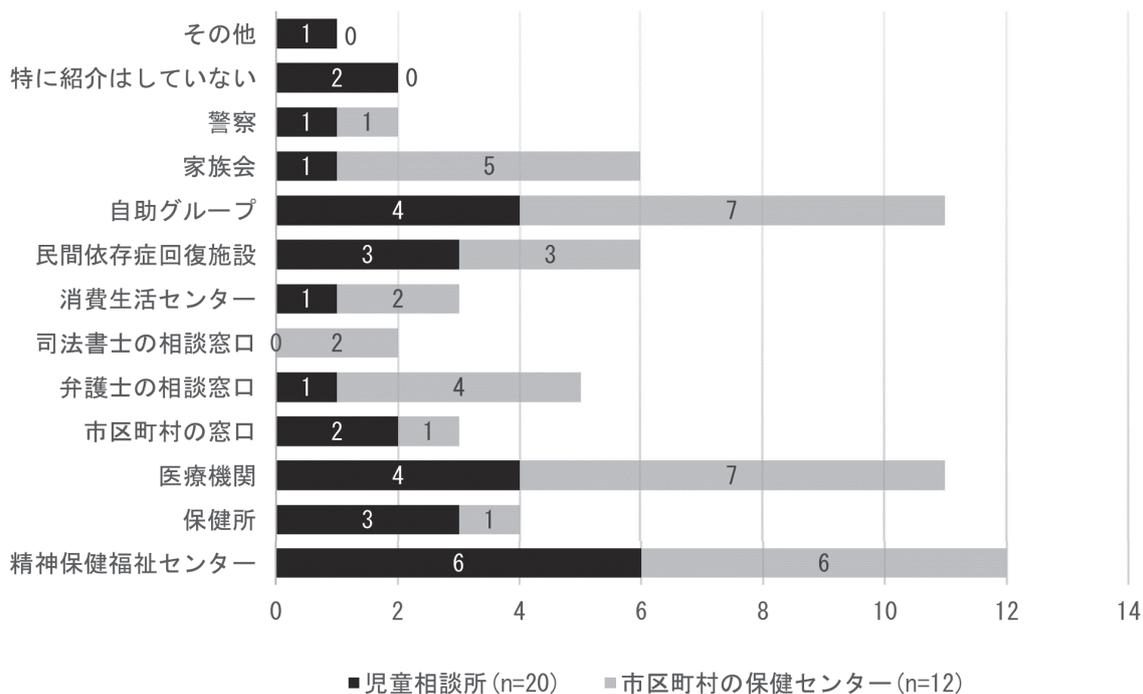
虐待分野（児童相談所，市区町村の保健センター）では，総回答数 32 件のうち，「精神保健福祉センター」12 件で最も多く，次いで「医療機関」および「自助グループ」11 件であった。

貧困分野（福祉事務所，社会的包摂サポートセンター）では，総回答数 43 件のうち「医療機関」22 件で最も多く，次いで「精神保健福祉センター」19 件，「自助グループ」15 件であった。

多重債務分野（消費生活センター，司法書士総合相談センター）では，総回答数 29 件のうち，「精神保健福祉センター」が 11 件で最も多く，次いで「弁護士の相談窓口」10 件，「司法書士の相談窓口」9 件であった。なお，弁護士の相談窓口への紹介は，消費生活センターのみで 10 件を占めた。

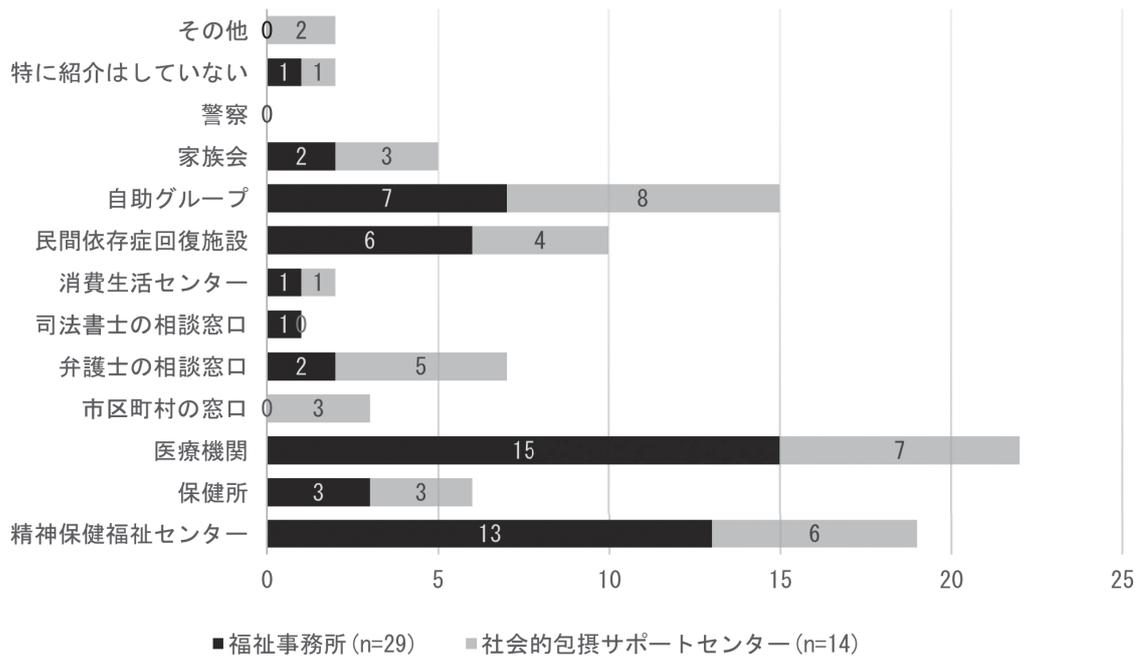
自殺分野（自殺対策推進センター，日本いのちの電話連盟，保健所）では，総回答数 61 件のうち，「自助グループ」が 29 件と最も多く，次いで「医療機関」26 件，「精神保健福祉センター」および「弁護士の相談窓口」21 件，「家族会」18 件であった。

図表 4-15 虐待分野ーギャンブル問題が関与する相談の紹介先



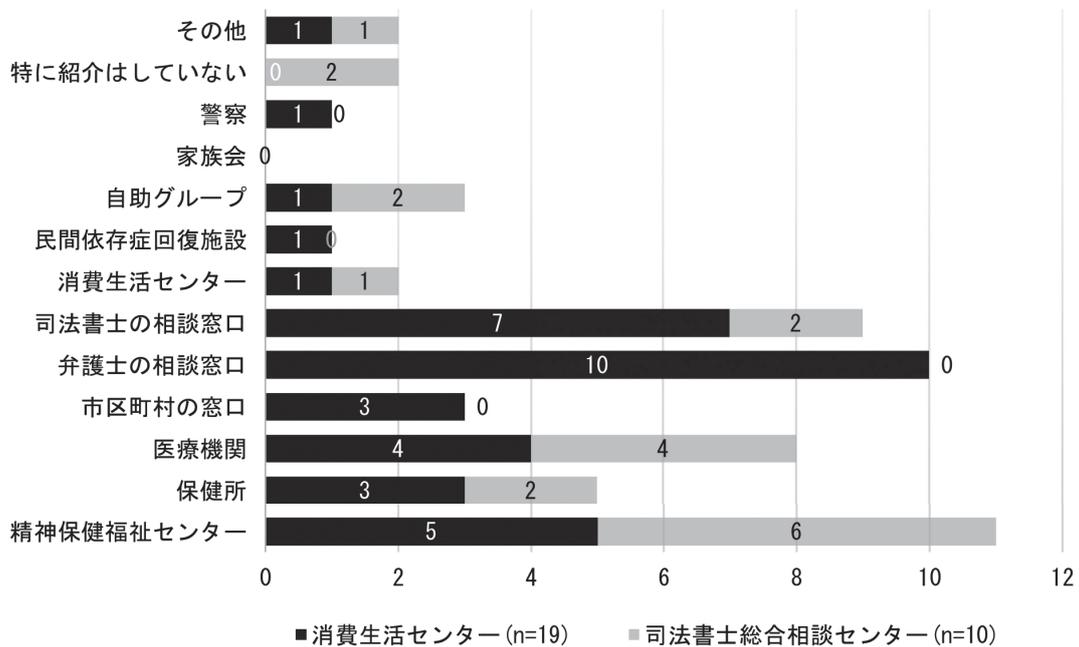
※図表内の数値は回答件数。凡例の n は，問 10 に回答した施設数。

図表 4-16 貧困分野ーギャンブル問題が関与する相談の紹介先



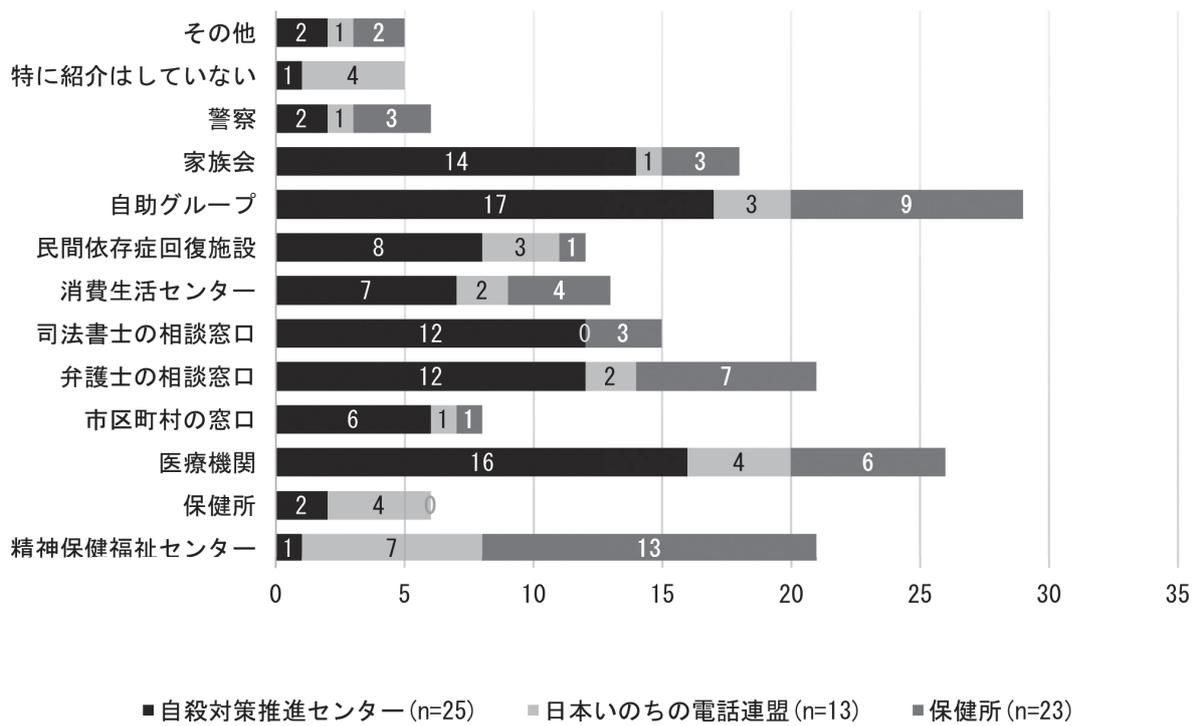
※図表内の数値は回答件数。凡例の n は、問 10 に回答した施設数。

図表 4-17 多重債務分野ーギャンブル問題が関与する相談の紹介先



※図表内の数値は回答件数。凡例の n は、問 10 に回答した施設数。

図表 4-18 自殺分野ーギャンブル問題が関与する相談の紹介先



※図表内の数値は回答件数。凡例の n は、問 10 に回答した施設数。

（4）ギャンブル問題が関与する相談の割合

【問11】および【問12】は、1年間で新規に対応した相談事例のうち、ギャンブル問題が関与する相談が、各施設においてどの程度の割合を占めているのかを明らかにすることを目的として質問した。図表4-19に施設種別ごとの「新規に受付した相談」の定義を示す。なお、「ギャンブル問題が関与していると思われた相談」とは、相談の背景に「ギャンブル問題:ギャンブル（パチンコ・パチスロを含む）を起因とした様々な問題」が関与していると思われた相談のことと定義した。

【問11】令和元年度（2019年4月1日～2020年3月31日）の期間、「新規に受付した相談件数」はいくつですか。

【問12】問11で計上した相談数のうち、「ギャンブル問題が関与していると思われた相談の件数」はいくつですか。

図表4-19 「新規に受付した相談」件数 施設種別ごとの定義

組織種別	「新規に受付した相談」の組織種別ごとの定義
保健所	令和元年度に新規に受付した精神保健（こころの不調や病気等）に関する相談の件数
児童相談所	令和元年度に新規に児童虐待相談として受理した相談の件数
市区町村の保健センター	令和元年度に新規に児童虐待相談として受理した相談の件数
福祉事務所	令和元年度に新規に生活保護申請として受理した相談の件数
消費生活センター	令和元年度に新規に借金問題・多重債務関係として受理した相談の件数
司法書士総合相談センター	令和元年度に新規に借金問題・多重債務関係として受理した相談の件数
自殺対策推進センター	令和元年度に新規に自殺に関する相談として受理した相談の件数
日本いのちの電話連盟	令和元年度に新規に自殺に関する相談として受理した相談の件数
社会的包摂サポートセンター	令和元年度に新規に一般ラインにて受付した相談の件数

【問11】および【問12】の有効回答の得られた施設の概況について図表4-20に示す。

これより、有効回答の得られた施設は非常に少なく、有効票合計165件のうち、対面相談に関する項目が34件、電話相談に関する項目が38件あった。よってサンプル数が不足しており、実態を把握するには不十分な回収状況となった。そのため、以下の集計結果は参考値として掲載する。

図表4-21および4-22に、「新規相談全体に占めるギャンブルに関連した相談が占める割合」を示した。これより、回答の得られた施設が、令和元年度の1年間に受付した新規相談のうち、ギャンブル関連の相談が占める割合は、対面相談が8.9%、電話相談が5.5%との結果となった。

図表 4-20 【問 11・12】に有効回答のあった施設の概況

組織種別	調査対象施設数	調査への回答総数	問 11・12 で有効回答のあった施設数 (対面相談)	問 11・12 で有効回答のあった施設数 (電話相談)
保健所	20	23	4	4
児童相談所	28	20	0	1
市区町村の保健センター	171	12	1	1
福祉事務所	147	29	4	3
消費生活センター	20	19	8	9
司法書士総合相談センター	20	10	1	0
自殺対策推進センター	20	25	13	13
日本いのちの電話連盟	20	13	0	4
社会的包摂サポートセンター	20	14	3	3
全体	466	165	34	38

※問 11, 問 12 に完全回答しなかった施設は集計から除外

図表 4-21 新規相談に占めるギャンブル関連相談の割合（対面相談）

組織種別	新規相談受付件数	ギャンブル関連相談件数	ギャンブル相談の 占める割合 (%)
保健所	535	47	8.8%
児童相談所	—	—	—
福祉事務所	351	5	1.4%
消費生活センター	74	3	4.1%
司法書士総合相談センター	607	1	0.2%
自殺対策推進センター	1,562	221	14.1%
日本いのちの電話連盟	—	—	—
社会的包摂サポートセンター	11	2	18.2%
全体	3,141	280	8.9%

※集計から除外：市区町村の保健センター（n=1）

図表 4-22 ギャンブル相談の占める割合（電話相談）

組織種別	新規相談受付件数	ギャンブル関連相談件数	ギャンブル相談の 占める割合 (%)
保健所	910	74	8.1%
児童相談所	526	11	2.1%
福祉事務所	196	3	1.5%
消費生活センター	951	34	3.6%
司法書士総合相談センター	—	—	—
自殺対策推進センター (精神保健福祉センター)	15,236	530	3.5%
日本いのちの電話連盟	28,964	1,928	6.7%
社会的包摂サポートセンター	77	4	5.2%
全体	46,861	2,585	5.5%

※集計から除外：市区町村の保健センター（n=1）

（5）ギャンブル問題が関与する相談の認識・課題

ここでは、【問9】で、「背景にギャンブル問題が関与していると思われる相談事例の経験がある」と回答した者に対し、相談対応をする際の問題解決に関する認識や課題について尋ねた。

【問13】 貴職が、ギャンブル問題が関与していると思われる相談に対応するとき、問題解決がどのくらい難しいと感じましたか。（単一回答）

ギャンブル問題が関与していると思われる相談に対応する際の難しさについて尋ねたところ、全体の41.2%が無回答であった。また、全体の30.9%は「とても難しい」、21.8%が「そこそこ難しい」、5.5%が「極めて難しい」と回答し、「無回答」を除くとほぼ全員が、ギャンブル問題に関する相談対応になんらかの困難感を持っていることが示された。（図表4-23）

図表4-23 相談対応の難しさ（組織種別）

組織の種別	全く 難しくない	あまり 難しくない	そこそこ 難しい	とても 難しい	極めて 難しい	無回答
保健所（n=23）	0.0%	0.0%	26.1%	26.1%	0.0%	47.8%
児童相談所（n=20）	0.0%	0.0%	10.0%	20.0%	5.0%	65.0%
市区町村の保健センター（n=12）	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%
福祉事務所（n=29）	0.0%	0.0%	31.0%	24.1%	0.0%	44.8%
消費生活センター（n=19）	0.0%	0.0%	31.6%	21.1%	10.5%	36.8%
司法書士総合相談センター（n=10）	10.0%	0.0%	20.0%	60.0%	10.0%	0.0%
自殺対策推進センター（n=25）	0.0%	0.0%	24.0%	40.0%	4.0%	32.0%
日本いのちの電話連盟（n=13）	0.0%	0.0%	23.1%	38.5%	23.1%	15.4%
社会的包摂サポートセンター（n=14）	0.0%	0.0%	14.3%	35.7%	7.1%	42.9%
全体（n=165）	0.6%	0.0%	21.8%	30.9%	5.5%	41.2%

※【問9】で相談経験が「ない」「わからない」と回答し、問13、問14に回答した3件は解析対象とした。

【問14】 貴組織において、ギャンブル問題を抱える方に対応し、支援するには、どのようなことが必要とお考えでしょうか。自由にご意見をお聞かせください。（自由記述）

ギャンブル問題を抱える方へ必要な支援として、組織種別での回答件数、および主な回答内容を抜粋して示した。（図表4-24）

図表 4-24 ギャンブル問題を抱える方への支援について、必要なこと（組織種別）

組織種別	回答件数	主な回答内容（抜粋）
保健所	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援者と家族も依存症についての正しい知識を持つことが必要である。 ・ 相談員のギャンブル依存症に対する知識の習得、相談機関との連携や、ギャンブル実施機関など関係団体との意見交換が必要である。 等
児童相談所	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほぼ、ご自分では問題とっておられないため、いかに周囲の人を心配させているか、家族を困らせているかということにまず気づいてもらうことが必要だが、難しい。 ・ 精神科の治療につなげる、治療への動機づけ、家族支援が必要である。 等
保健センター	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援者の対応スキルを高める。ご家族が来所するケースが多い状況であり、ご本人が気軽に相談できる相談先の普及啓発が必要である。 ・ 日ごろからギャンブル問題について情報を得て、担当者間で共有しておくこと、当事者が相談しやすい雰囲気づくり、関係機関との連携が必要である。 等
福祉事務所	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ ギャンブル依存の精神保健的基礎知識と相談機関、支援職のスーパーバイザーが必要である。 ・ 徹底的な金銭管理、生活指導及び医療機関への通院指導が必要である。 等
消費生活センター	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人が依存症であると自覚すること、家族や身近な人が理解すること、関係機関の連携と専門機関での問題解決が必要と考える。 ・ 紹介先機関の支援状況に関する情報共有、ギャンブル等依存症が病気であることについての認知度向上、周囲の理解、問題を抱えている方が相談先にアクセスしやすい環境づくりが必要と考える。 等
司法書士総合相談センター	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ ギャンブル問題に関する正しい理解を持った司法書士会員の育成・支援機関同士における役割の相互理解が必要と考える。 ・ 抜本的な解決としては公営ギャンブルの廃止が適切であるが、現状では依存症に対する更正施設の充実や、借入総額の規制（銀行含む）、ギャンブル賭け金の上限金額の設定、ギャンブル施設への立入制限等の規制などが必要である。 等
自殺対策推進センター （精神保健福祉センター）	14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1次予防としての地域住民の方々へのギャンブル問題・依存症についての普及啓発、2次予防としての患者本人・家族が相談先へ相談できる体制の構築、3次予防として患者本人・家族が治療や回復に向かう場となる専門医療機関や自助グループ等の充実が必要と考える。 ・ 依存症支援機関（医療、自助グループ、司法機関）がそれぞれ連携がとれていることに加え、多角的な支援を継続的に行えるようコーディネートできる機関も必要と思われる。 等
日本いのちの電話連盟	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電話相談員への①支援機関の情報の徹底や、②ギャンブル問題に特化した電話対応のための研修が必要。今は、相談員による振れ幅が大きいのではないか。 ・ 背景を理解することが先決である。個人史、成育環境等の理解が必要である。 等
社会的包摂サポートセンター	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ ギャンブル依存症は病気という自覚を持たせることが必要であり、依存症回復に向けては、更生施設への入所を勧めることが妥当である。依存という認識がない方には時間をかけて関わり、金銭管理、家計支援にも繋ぐことが大切だと思う。 ・ 背景にある問題や家族を含めて総合的に支援をすることが必要。治療が必要な場合、専門性や長期的な取り組みが必要になってくると考える。 等
全体	62	

第5章 まとめと考察

5.1 全国住民調査のまとめ

ギャンブル等依存および関連する問題についての全国住民調査の概要は以下の通りである。

(1) 国民のギャンブル行動

男性の84.1%、女性の65.7%が、生涯にギャンブルの経験があり、過去1年間にギャンブル経験のある者は、男性の45.0%、女性の22.9%であった。年齢別では、過去1年間でギャンブルの経験のある割合が最も高いのは50-59歳であった。ギャンブルの種類では、過去1年間で最も経験した者が多かったのは宝くじであり、パチンコがその次に多い。過去1年間に最もお金をつかったギャンブルの種類は、男女とも宝くじが最多で、パチンコが次に多い。

(2) ギャンブル問題

家族や重要な他者にギャンブル問題があったと回答したのは、全体の14.4%（男性10.5%、女性18.1%）であり、男女とも父親にギャンブル問題があったという回答が最多だが、男性では兄弟が次ぎ、女性では配偶者が次に多かった。家族や重要な他者のギャンブル問題から受けた影響として、男性では経済的困難、女性ではギャンブルを止められない人への怒りが最多であった。

(3) ギャンブル等依存が疑われる者

SOGS 5点以上で過去1年間にギャンブル等依存が疑われる者は、全体で2.1%（95%信頼区間1.8～2.4%）、男性が3.6%（95%信頼区間3.0～4.2%）、女性が0.7%（95%信頼区間0.5～1.0%）であった。年齢調整後の割合は、全体で2.2%（95%信頼区間1.9～2.5%）、男性3.7%（95%信頼区間3.2～4.4%）、女性0.7%（95%信頼区間0.4～1.0%）であった。

(4) ギャンブル関連問題

①抑うつ、不安

K6を用いて過去1ヶ月の抑うつ・不安の強さを評価したところ、SOGS 5点以上の者は、5点未満の者と比較して、K6高得点の割合が有意に高かった。

②希死念慮と自殺企図

今までに自殺を考えたことがある者の割合をSOGS 5点以上の者と5点未満の者と比較したところ、SOGS 5点以上の者は有意に割合が高かった。自殺企図においても同様の結果であった。

③喫煙

喫煙率をSOGS 5点以上の者と5点未満の者と比較したところ、SOGS 5点未満の者では16.8%が喫煙者であったが、SOGS 5点以上の者では49.1%と有意に高い割合であった。

④飲酒問題

飲酒問題をAUDIT-Cで評価して、SOGS高得点と5点未満で比較したところ、両者に有意な差を認めなかった。

⑤小児期逆境体験

幼少期や思春期までに経験した身体的虐待、心理的虐待、性的虐待、ネグレクトなどの過酷な体験は、子どもの心理発達に深刻な影響を与え、その後の人生において健康上の問題と関連することが指摘されていることから、本調査では、小児期逆境体験について情報を得た。18歳までの小児期逆境体験の有無をSOGS高得点の者と5点未満の者と比較したところ、SOGS高得点の者では1つ以上の小児期逆境体験を有する者の割合が有意に高く、小児期逆境体験がギャンブル問題

にも関連する可能性が示唆された。

(5) ギャンブル等依存症対策

本調査では、①本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み、②本人・家族の申請により競馬・競輪・競艇・オートレースの入場が制限される仕組み、③本人の申請により、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組みといったギャンブル等依存症対策の認知度を調査した。知っているという回答した者の割合は、全体でそれぞれ7.6%、5.8%、11.1%といずれも低い割合であったが、SOGS 高得点の者では、それぞれ25.0%、16.0%、19.6%が知っているという回答しており、ギャンブル等依存が疑われる者では、ギャンブル問題がない者と比較して、認知度が高いことが示された。

(6) 依存症に対する考え方

がん、糖尿病といった身体疾患、うつ病、アルコール依存症、ギャンブル依存症といった精神科疾患について、それぞれの病気が本人の責任と思うか5段階でその程度を回答してもらったところ、「そう思う」、「強くそう思う」と回答した割合は、がんでは男性の4.6%、女性の2.8%であったが、ギャンブル依存症については、男性の73.2%、女性の72.0%であり、多くの回答者が本人の責任と考えていた。

(7) 新型コロナウイルス感染拡大の影響

新型コロナウイルス感染拡大予防のための自粛生活が、インターネットを使ったギャンブルの利用を増加させることが懸念されることから、コロナ禍においてインターネットを使ったギャンブルが、「増えた」、「減った」、「変わらない」、「新たに始めた」、「インターネットを使ったギャンブルはしたことがない」から選択してもらったところ、全体の87.4%は「インターネットを使ったギャンブルの経験はない」と回答し、「新たに始めた」や「機会が増えた」と回答した者は全体の2.2%であった。一方、SOGS 高得点の者では、「機会が増えた」と回答した者は7.3%とSOGS 5点未満の者(2.2%)より有意に高い割合であり、ギャンブル等依存が疑われる者の一部では、インターネットを使ったギャンブルが増える傾向にあったことが示された。しかし、「機会が増えた」と回答したのは、SOGS 集計の対象者の2.5%に過ぎず、該当者が少ないため結果の解釈には留意が必要である。

5.2 ギャンブル問題で相談機関や自助グループを利用する者の実態調査のまとめ

公的相談機関来訪者および自助グループを利用する者に対して、同一の調査票を用いて調査を実施したため、重複を避ける目的で両者を並べて結果を提示したが、比較する目的で調査を実施したわけではないので、それぞれについてまとめる。

(1) 公的相談機関を訪れた当事者回答のまとめ

公的相談機関来訪者が依存や嗜癖の問題で相談支援を利用するきっかけは、家族の勧めが最多であった。ギャンブルの種類は、パチンコ、パチスロ、競馬の経験者が多い。初めてギャンブルをした年齢の平均は、男性20.6歳、女性25.8歳、習慣的にギャンブルをするようになった平均年齢は、男性23.6歳、女性30.2歳であった。初めてギャンブルをした状況は、「友人の誘い」が最多で、「自分一人で」が次に多い。依存の問題で相談援助を求めた経験では、5割近くが医療機関を受診しており、4割以上に自助グループ参加経験がある。一方、2割程度は過去に相談援助を求めた経験がない。行政に求める支援として、「治療できる医療機関を増やすこと」が最多であり、「依存症の正しい知識の普及」、「相談窓口の周知・拡大」を求める意見が過半数である。

(2) 自助グループ参加当事者回答のまとめ

自助グループ有志では、過去1年間にギャンブルをしていない者が56%と多かった。一方、過去1年以内にギャンブル経験のある者では、実施しているギャンブルの種類は、パチンコ、パチスロ、競馬が多い。初めてギャンブルをした平均年齢は、男性20.2歳、女性20.7歳であった。習慣的にギャンブルをするようになった平均年齢は、男性23.7歳、女性23.9歳であった。初めてギャンブルをした状況は、「友人の誘い」が最多で、「自分一人で」が次に多い。過去1年間ギャンブルをしていない者を対象にその理由を質問したところ、「自助グループ参加」が最多であり、「ギャンブル以外の楽しみをみつけたから」が次に多い。

依存の問題で相談援助を求めた経験は、6割近くが医療機関を受診しており、3割程度が法律家に相談経験がある。行政に求める支援として、「依存症に関する正しい知識の普及啓発」が75%、「自助グループや民間団体への支援」が74%、「依存症に関する相談窓口の周知・拡大」が65%と過半数であった。

ほとんどの者がGAを利用した経験があると回答しているが、ギャンブルの問題に気付いてから自助グループに参加するまでの期間は、平均63.1カ月であり、5年以上の年月が経過していた。自助グループに参加して良かったこととして、「自分一人じゃないと思えた」が最多であり、「仲間とのネットワークが広がった」、「参加することで気持ちが軽くなる」、「回復できると思えるようになった」という回答が次に多い。

(3) 当事者における関連問題のまとめ

相談機関に来所した当事者を依存の種類によって、3つのグループ（ギャンブル依存群、クロスアディクション群、物質依存群）に分類して、ギャンブル関連問題を比較した。

①抑うつ・不安

3群での有意差は認められないが、住民調査結果と比較すると、K6が13点以上で重度の抑うつ・不安が疑われる者の割合は、依存で来所した者では、15.8%～28.6%であったが、住民調査では男性4.6%、女性6.4%と依存群はいずれも高い割合であり、依存対象に関わらず抑うつ・不安傾向が強いことが示された。

②自殺

生涯で自殺したいと考えたことがある者の割合は、3群間で有意差は認められないが、70.7%から78.4%が経験していたのに対して、住民調査では男性19.1%、女性26.1%であったことから、抑うつ・不安同様に、依存問題で来所した者では、希死念慮が高い割合で認められた。

自殺企図の経験は、ギャンブル依存群は他の依存群より低く、14.8%に認められたが、住民調査では、男性1.7%、女性3.9%であり、ギャンブル依存群を含む依存問題での相談機関への来訪者は、自殺企図の経験が高い頻度で認められた。

③小児期逆境体験

18歳までに経験したことがある小児期逆境体験の有無は、来訪者の43.6%～58.8%が1つ以上の体験を回答している。依存問題の種類で割合の違いは認められないが、住民調査では、男性21.2%、女性28.6%であり、依存問題で来所した者で頻度が高い。

④触法行為を含む問題行為

触法行為を含む問題行為の経験については、依存の種類によって異なり、ギャンブル依存群では、家族の金品を盗んだ、家族や知人のカードを勝手に使った、会社のお金を横領したといった行為が多いのに対して、物質依存群では薬物売買、暴力や破壊行為、飲酒運転が多く、依存の種類によって異なることが示された。

⑤アルコール問題

AUDIT-Cを用いてアルコール問題の有無を評価したところ、高得点で問題が疑われる者の割合

は、依存の種類で有意差を認めず、ギャンブル依存においてもアルコール問題が疑われる者がみられるが、住民調査（男性の40.7%、女性23.2%）結果と比較しても、ギャンブル依存で特に多いとは言えない。

（4）家族回答のまとめ

調査では、公的相談機関を訪れた家族および家族向けの自助グループ有志に対して、同一の調査票を用いて調査を実施した。相談機関では男性25名、女性98名が回答し、自助グループでは男性32名、女性349名から回答が得られた。いずれも女性の割合が高い。

当事者との関係は、両グループとも親が過半数であり、配偶者が次に多い。相談するきっかけは、両群とも「自分で探した」という回答が最多であり、「医療機関で勧められた」が次に多い。家族が要望する支援や情報としては、両群とも「気軽に相談できる場所の情報」、「病気を理解するための知識や情報」、「当事者を治療につなげる関わり方」が多い。当事者から受けた影響として、両群とも「借金の肩代わり」が最多で、「経済的困難」、「当事者への怒り」が過半数である。当事者のギャンブルの状況としては、相談機関を訪れた家族、自助グループとも、「止めている」が最多だが、止めていないのは相談機関を訪れた家族の方が多い。当事者の問題に気付いてから相談機関を訪れる、あるいは自助グループを利用するまでの期間は、相談機関では平均58.2カ月、自助グループでは平均55.5カ月といずれも5年近い年月が過ぎている。相談機関を利用する、あるいは自助グループに参加して良かったこととしては、両群とも「自分一人ではないと思えた」が最多であり、相談機関を訪問した家族では、「当事者のことが理解できるようになった」、「気持ちが軽くなる」、「相談する人ができた」が過半数である。自助グループ参加者では、「相談する人ができた」、「気持ちが軽くなる」、「同じ悩みを持つ仲間とのネットワークができた」、「自分も回復できると思えるようになった」、「家族の回復のお手本となる人と出会った」が次ぐ。

5.3 ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査のまとめ

ギャンブル関連問題（多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪）について、各分野の相談支援を担当する各機関を対象として、相談の背景にギャンブルが関与する可能性の確認や相談の対応および対応の際の課題等について調査を行った。

各機関に来訪する相談者にギャンブルの実施状況について確認している割合は、「相談内容によって確認している」と回答した機関が過半数であり、特に自殺の相談機関である保健センターでは83.3%、社会的包摂サポートセンターで78.6%、貧困についての相談機関である福祉事務所で82.8%、虐待の相談機関である児童相談所では65%と高く、全体で64.2%の機関が確認を行っていた。一方、相談者全員に確認している割合が最も高いのは、自殺の相談機関である自殺対策推進センターの24%で、全体で8.5%であった。

ギャンブル問題が関与する相談の対応経験について、最も低い割合は児童相談所の45%だが、その他の機関では、いずれも過半数であり、司法書士総合相談センターでは100%、いのちの電話連盟では92.3%が対応した経験があると回答していた。

各機関に令和元年度の新規相談受付件数のうち、ギャンブル問題が関与すると思われる相談の割合を対面と電話相談に分けて回答してもらったところ、有効回答が得られた機関は少なかったものの、対面相談で割合が高かったのは、社会的包摂サポートセンターの18.2%、自殺対策推進センターの14.1%、保健所の8.8%の順となっていた。電話相談では、保健所の8.1%、いのちの電話連盟の6.7%、社会的包摂サポートセンターの5.2%であり、関連問題の中でも自殺の相談機関でギャンブル問題が関与する割合が高かった。

5.4 全体の考察

(1) ギャンブル等依存が疑われる者の割合について

本調査で用いたスクリーニングテストである SOGS および PGSI は、簡便にギャンブル問題を検出できるため、疫学調査において世界的によく用いられている。SOGS を用いて、過去1年間の経験で調べた割合をみると、5点以上の割合は、イギリス（2003年）0.8%、スウェーデン（2014年）0.9%、スイス（2007年）1.6%、南アフリカ（2001年）4.8% などとなっている²⁾。PGSI を用いた調査で、8点以上の割合は、イギリス（2012年）0.7%、オーストラリア（2014年）0.6%、フィンランド（2013年）1.1%、北アイルランド（2010年）2.2%、南アフリカ（2013年）3.2% などと報告されている²⁾。これらの調査は、電話調査や対面調査など調査方法がさまざまなため、結果を直接比較することはできないが、本調査の結果を同じ評価尺度を用いた諸外国の結果と比較すると、ヨーロッパ諸国などの結果より高い割合になっている。

国内の過去のギャンブル問題の実態調査は、日本医療研究開発機構研究班によって2017年に実施された。前回の調査では、SOGS 5点以上の割合は、年齢調整後で全体の0.8%（95%信頼区間：0.5～1.1%）、男性1.5%（95%信頼区間：1.0～2.1%）、女性0.1%（95%信頼区間：0～0.2%）と本調査結果より低い割合であった³⁾。しかし、今回の調査は、新型コロナウイルス感染流行拡大に伴い、2017年の調査とは調査手法が大きく変更になっているため、本調査と比較することは困難であり、増減について論じることはできない。

まず、調査方法が変わることによって比較が難しくなることの理由について、以下に考察する。

調査とは、非常にデリケートなものであり、一般的な世論調査においても些細な方法の変更から回答の分布が変わることはよく知られている⁴⁾。2017年に実施されたギャンブル実態調査は、調査員が自宅を訪問して面接を行う面接調査であった。面接調査のメリットとして、① 調査員が質問内容について説明できるため、複雑な設問が設定できる、② 個人を特定できるため、対象者以外の回答を回避できる、③ 調査に関心のない対象者を説得して協力してもらうことが可能といった点が挙げられる。一方、デメリットとしては、答えにくいデリケートな質問に正直に答えてもらえない場合のあることが挙げられる。今回の調査では、調査票を郵送して、自分で答えを紙に書いて回答するか、Webを用いて回答してもらい、調査員が介在しない自記式調査法を用いたが、そのメリットとして、① 不在が多いなどで面接・訪問しにくい人からの回答が得やすい、② 答えにくい質問にも比較的正直に回答してもらいやすいといった点が挙げられる反面、① 一般的に回答率が低い、② 本人確認が難しい、③ 調査に関心のない人からの回答が得られにくい、④ 質問を飛ばしたり誤った理解のもとに回答する場合が多くなるなどの点がデメリットとして挙げられる。調査員の介在の有無が異なること以外にも、質問や選択肢の提示方法、すなわち、調査員が尋ねる音声による質問か、調査票の文字による質問かといった点も、質問や選択肢への理解が異なるため、回答に影響がある⁴⁾。視覚では最初のもの、聴覚では最後のものが印象に残りやすいという認知的な影響があり、郵送法では視覚によるため、最初の選択肢が選ばれやすい傾向があり（初頭効果）、面接調査などのような聴覚による調査では、後の選択肢が選ばれやすくなる（新近性効果）。本調査の調査票では、SOGSの質問である問24から問29、問31から問35までは、回答の選択肢がはい、いいえの順番で提示され、初頭効果が影響した可能性がある。また、質問には過去1年間の経験を尋ねることが明記されているものの、生涯の経験で回答した可能性も否定できない。一方、2017年調査では生涯の経験を最初に尋ねて、肯定の場合に過去1年間の経験を尋ねる形式になっており、過去1年間の経験についての質問であることは理解されていたと考えられる。

以下に調査手法の違いが調査結果に及ぼした影響について、企画委員会で有識者から寄せられた意見を示す。

①社会的望ましきバイアス (Social desirability bias) の影響

ギャンブル等依存のスクリーニングテストには、ギャンブルによる借金の有無やギャンブルをしていることを家族などに隠すことなど、回答者にとって答えにくいと考えられるデリケートな質問が含まれており、自記式の調査であった今回の調査 (A) のほうが、調査員が自宅に訪問して対面で回答を得た 2017 年調査と比較すると、正直に回答しやすかった可能性、すなわち社会的望ましきバイアス (Social desirability bias) の影響を受けなかったと考えられる。社会的望ましきバイアスとは、社会的に望ましい、あるいは望ましくないと考えられる態度や行動を尋ねる質問のとき、対象者が調査員に対して自分を良識的な人間だと見せようとすることで生じるバイアスである。自記式調査は、ギャンブル問題のように答えにくいデリケートな問題に関する調査では有効な手段とされている⁵⁾。

調査員が介在する調査と自記式調査の結果を比較した研究は数少ないが、スウェーデンで実施されたギャンブルの調査では、電話による聴取によって調査を実施して、電話に応答しなかった対象者に自記式調査票を郵送したところ、ギャンブル問題の割合は、郵便調査で有意に高かった (0.5% 対 1.6%)⁵⁾。ノルウェーの調査でも同様の結果が報告されており、調査員に対して回答するより、自分で回答した方が、割合が高くなることが示されている (0.5% 対 0.9%)⁵⁾。また、PGSI を用いたフィンランドの調査では、問題ギャンブルの可能性がある 8 点以上の割合は、郵送調査 (2013 年) では 1.1% だが、電話調査 (2014 年) では 0.6% と 2 倍近い変化が報告されている²⁾。また、ギャンブルではなく、アルコールに関連した問題の調査だが、調査員が介在する電話調査と自記式調査の結果を比較したドイツの研究によれば、アルコール問題のスクリーニングテストである CAGE の回答を比較したところ、アルコールに関連した問題が疑われる 2 点以上の割合は、40 歳代男性では、自記式 24.4% に対して、電話では 13.9%、50 歳代男性では、自記式 22.2% に対して電話は 11.0%、30 歳代女性では、自記式 10.5%、電話 3.9%、40 歳代女性では、自記式 11.0%、電話 5.0% と、男女を問わず 2 点以上の割合は、自記式調査で高く、その割合は、1.8 倍から 2.7 倍の違いがあったと報告されている⁶⁾。このように、社会的望ましきバイアスが影響すると考えられる調査員の介在の有無が、調査結果に大きく影響する可能性があることが、海外の調査から報告されている。

②ギャンブルに興味のある回答者が多く回答した可能性

2017 年調査では、調査対象者が在宅している可能性が高い曜日や時間 (週末など) を中心に、調査員が対象者の自宅を訪問した。頻回にギャンブルをしている者ほど、訪問時に不在にしている可能性が高いと考えられ、訪問調査ではギャンブルに問題があると疑われる者から回答を得られにくい可能性がある。一方、本調査は、自記式の調査であり、都合の良い時間に自分で回答できるため、頻繁にギャンブルをする対象者からも回答を得られやすい。さらに、質問内容がギャンブルに関連したものがほとんどであることから、ギャンブルに関心のない者からの回答が少なくなり、関心のある者からの回答が多くなった可能性も考えられ、これらの影響によってギャンブル等依存が疑われる者の割合が高くなった可能性が考えられる。過去 1 年間にギャンブルを経験した割合を 2017 年と今回の調査で比較すると、女性では有意差は認められなかったが、男性の場合、2017 年調査では 41.9% であったが、今回の調査では 45.0% と有意に高い割合 ($\chi^2(1)=6.02, p < 0.05$) でギャンブルを経験しており、ギャンブルに関心のある回答者がより多く回答した可能性を示唆している。

③回答方法に Web 回答を追加したことの影響

本調査では、なるべく多くの対象者から回答を得ることを目的として、調査票に記入して郵送する紙回答に加えて、Web 回答できるように Web ページを作成し、対象者に回答方法を選択してもらった。回答方法で SOGS 5 点以上の割合を比較すると、紙回答は 1.53% (76/4952) に対して Web 回答では 2.93% (89/3033) と Web 回答で有意に SOGS 5 点以上の割合が高い ($\chi^2(1), p < 0.0001$)。紙回答

を選択した者と Web 回答を選択した者を比較すると、Web 回答は、a) 男性が多い（男性の 53.2%、女性の 46.8% が Web 回答）、b) 平均年齢が若い（Web 回答:43.3 ± 13.6 歳、紙回答:53.6 ± 15.1 歳、 $p < 0.0001$ ）、c) 既婚者が少なく未婚が多い、d) 生涯のギャンブル経験も過去 1 年のギャンブル経験のいずれも Web 回答者で多い、e) 若い年齢でギャンブルを開始しているといった特徴がある。Web 回答では、SOGS の他、PGSI 高得点の割合も高く、AUDIT-C や K-6 で高得点の割合も高い。従って、Web 回答した者と紙回答した者は、全体として異なる集団と考えられた。調査方法が異なることによる調査結果の違いは、調査方法そのものの影響の他、回答者の構成の違いが影響する場合がある。上述のように Web 回答を選んだ者は、一般的にギャンブル問題が多いとされる集団の特徴を有しており、回答方法に Web 回答を追加したことも SOGS 5 点以上の割合が高くなった理由の一つと考えられる。ギャンブル関連の調査で回答方法の影響を検討した研究は存在しないが、同性との性交渉や違法ドラッグの使用に関する調査では、コンピュータを用いて回答した方が、筆記回答に比べて経験数が有意に多く認められたという報告がある⁷⁾。また、飲酒状況を郵送、Web、電話の 3 つの回答方法で比較した研究では、飲酒頻度は回答方法で差は認められなかったが、多量飲酒日数は、Web 回答の方が多く、回答方法によって結果が異なることが指摘されている⁸⁾。従って、紙回答に加えて Web 回答を加えたことも SOGS 5 点以上の割合が高くなった原因と考えられる。

次に、本調査で用いたギャンブル問題のスクリーニングテストである SOGS 5 点以上の意味について解説する。SOGS は、病的賭博（DSM-5 ではギャンブル障害）のスクリーニングを目的として開発されたテストであり、5 点以上の場合に病的賭博の疑いがあるとされるが、その簡便さから臨床のみならず疫学調査などで広く使用されるようになった。しかし、さまざまな場面で使用されるに伴って、SOGS に対する批判も指摘されている。まず、ギャンブル問題がある者の割合の推計値は、SOGS を用いた場合には、国際的診断基準である DSM を用いた割合より高くなることが報告されており、SOGS は疑陽性が多いと考えられている⁹⁾。SOGS と DSM-5 の基準による診断結果を比較した研究によると、SOGS 5 点以上でギャンブル障害が疑われた者の 53% は、DSM-5 のギャンブル障害には該当しないとされた⁹⁾。また、SOGS のカットオフ値を 5 点から 8 点にすることで、その感度や特異度などを改善することができるとする報告もある¹⁰⁾。すなわち、SOGS 5 点以上であることは、医学的診断としてのギャンブル障害と同等ではない。

また、住民調査で同定されたギャンブル等依存と医療機関を受診するギャンブル障害とは異なる点も指摘されている。宣伝広告などで募集して、診断面接でギャンブル障害と判断された者と治療を求めて医療機関を受診するギャンブル障害を比較すると、医療機関を受診する者では、ギャンブルへののめり込みが強い、衝動性評価尺度（BIS）の点数が高い、過去 1 年間の触法行為が多い、うつ病や気分変調症の合併が多いなどの点で異なることが指摘されている¹¹⁾。このように住民調査でギャンブル等依存が疑われた者の全員が、必ずしも治療を要する状態とは言えない。

以上、ギャンブル等依存症が疑われる者の割合について考察した。まとめると、① 諸外国における調査結果とは直接比較はできないが、比較的高い割合と考えられる。② 調査方法が大きく異なるため、2017 年の全国調査とは比較したり増減について論じたりすることはできない。③ 調査手法の変更による影響としては、社会的望ましきバイアス、よりギャンブルに関心のある者からの回答が多かった可能性、回答方法に Web 回答を加えたことなどが考えられる。

（2）住民調査におけるギャンブル関連問題について

本調査では、ギャンブル関連問題のうち、自殺、虐待、他の依存について調査を行い、ギャンブル問題が疑われる SOGS 高得点者と問題がない者とで比較した。ギャンブル問題が疑われる者では、抑うつ、不安が強く、希死念慮や自殺企図の割合が高い。喫煙割合も高いが、飲酒については明確な関連が認められなかった。また、小児期逆境体験との関連が認められた。海外の住民調査における問題ギヤ

ンブルやギャンブル障害の併存疾患に関する系統的レビューでは、ニコチン依存、うつ病、不安障害の併存が多いことが指摘されており¹²⁾、本調査結果を裏付けている。ギャンブル障害と自殺の関連についても海外の調査で関連が報告されている¹³⁾。また、複数の小児期逆境体験を持つことは、問題のある薬物使用、対人暴力、自傷、精神疾患、飲酒問題、ガン、心疾患、呼吸器疾患、危険な性行為などさまざまな健康障害との関連が指摘されており¹⁴⁾、ギャンブル障害との関連を指摘する報告もみられる¹⁵⁾。これらの結果は、ギャンブル問題との関連のみならず、わが国を代表する住民調査結果として、貴重な基礎的データを提供すると考えられる。

(3) ギャンブル等依存症への考え方、インターネットによるギャンブルについて

一般住民における依存症に対する考え方について、「病気になったのは、どの程度『本人の責任である』と思うか」を尋ねたところ、ギャンブル依存症は、他の疾患と比べて、「本人の責任」と考える者の割合が高かった。これより、ギャンブル等依存症は、他の精神疾患（うつ病）や身体疾患と同様に誰でもなり得る病気であるという正しい知識の更なる普及啓発が必要である。

また、コロナ禍でインターネットによるギャンブルをする機会の変化について尋ねたが、「機会が増えた」と回答した者は、SOGS 5点以上の者の7.3%（12名）、SOGS 5点未満の者の2.2%（51名）であった。該当者が少ないため結果の解釈には留意が必要であるが、ギャンブル等依存が疑われる者では、コロナ禍でインターネットによるギャンブルをする機会が増えた者が多い傾向が示唆された。これより、インターネットによるギャンブルとギャンブル等依存症の関連について、今後より詳細な検証が必要である。

(4) ギャンブル問題で公的相談機関や自助グループを利用する者の実態調査

精神保健福祉センターおよび保健所に相談に訪れた当事者を対象とした調査では114名から回答が得られたが、調査票の配布数についての情報が得られなかったため、調査期間に相談機関を訪れた者のうち、どの程度の割合から回答が得られたのかという基本的な点が不明であることから、本調査の結果を全国の公的相談機関の来訪者に当てはめることは困難である。しかし、本調査によって、ギャンブル問題を主訴に公的な相談機関を訪れる当事者の実態について、ある程度明らかにすることができたと考えられる。すなわち医療機関を受診している者が多いこと、行政に求める支援に関する意見といった点について情報を得ることができた。ギャンブル関連問題では、抑うつ、不安、自殺、小児期逆境体験といった問題との関連が示されたが、これらはギャンブル等依存に特徴的というわけではなく、依存に共通している可能性が示唆された。一方、自助グループ有志を対象とした調査では、過半数が過去1年間ギャンブルをしていないこと、医療機関の受診者が多いこと、自助グループを利用するまでに平均で6年以上の年月が経過していることなどの実態が明らかとなった。

これらの結果から、抑うつ、不安など関連問題のために医療機関や相談機関を訪れる者の中にもギャンブル問題が背景にあるケースは、ある程度存在すると考えられるので、関連する諸機関においてもギャンブル問題のスクリーニングを積極的に行うことが必要と考えられる。また、ギャンブルにオンラインを利用している者の割合が高いため、自己排除制度（アクセス制限）の活用などの対策が必要であろう。ギャンブル等依存症に対する治療が可能な医療機関を増やす、依存症に関する正しい知識の普及啓発、自助グループや民間団体への支援、依存症に関する相談窓口の周知・拡大を求める声が多かったことは、今後のギャンブル問題への対応や予防に関する施策を検討するうえで貴重な情報を提供すると考えられる。

(5) ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査

ギャンブル関連問題の相談機関での調査から、ほとんどの機関では相談の内容によってギャンブルが関与していることが示された。ギャンブル問題が関与する相談の対応経験は、自殺や借金に関連する相談機関で割合が高い一方、児童相談所では半数以下であり、相談機関によってばらつきがある。一方、令和元年度の新規相談に占めるギャンブル問題の関与の割合については、得られた回答数が少なく、相談機関全体を反映していないと考えられるため、結果の解釈には注意が必要である。また、さまざまな機関で行う調査では、SOGS（20問）やPGSI（9問）といった質問数の多いテストより、質問数の少ない、より簡便なスクリーニングテストが必要と考えられるが、そのようなテストの開発を含め、相談機関を対象とした調査には、その手法に検討の余地があると考えられた。

おわりに

以上、令和2年度 依存症に関する調査研究事業「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」の実施概要および結果を報告した。本事業では、「基本法」第23条および「基本計画」に定められた第1回目の調査として、ギャンブル等依存が疑われる者の実態と、多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪等を含むギャンブル等依存症の関連問題の実態を明らかにするとともに、相談支援体制等の実態を把握した。これにより、我が国におけるギャンブル等依存症対策を講じていく上での基礎資料を得ることができた。しかしながら、今回の調査は、COVID-19感染拡大の影響を受け、平常時とは異なる状況下で実施されたことに留意する必要がある。すなわち、利用できる調査手法や、調査協力が得られる対象・施設などが限定され、調査遂行上さまざまな制約があった。さらに調査に回答する側（対象者）も、平常時とは異なる心理社会的な状況に置かれていたことなどが挙げられる。これらが、調査結果全体に影響を与えた可能性は否定できない。したがって、本調査の結果のみで、ギャンブル等依存が疑われる者の実態およびギャンブル等依存症の関連問題の実態について結論づけることは難しく、今後も経時的にデータを蓄積し長期的な観点から実態を把握することが望ましい。

最後に、本調査研究事業のためにご協力いただきました全ての方々に深く感謝を申し上げます。
ありがとうございました。

参考文献

1. Slutske WS. Natural recovery and treatment-seeking in pathological gambling: Results of two U.S. National Surveys. *Am J Psychiatry*, 163: 297-302, 2006
2. Calado F and Griffiths MD: Problem gambling worldwide: An update and systematic review of empirical research (2000-2015). *J Behav Addict*, 5:592-613, 2016.
3. 樋口 進、松下幸生 : 国内のギャンブル等依存に関する疫学調査 (全国調査結果の中間とりまとめ) (https://kurihama.hosp.go.jp/about/pdf/info_20171004.pdf) (2021年7月18日アクセス)
4. 世論調査部調査方式比較プロジェクト : 世論調査における調査方式の比較研究～個人面接法、配布回収法、郵送法の2008年比較実験調査から～。NHK放送文化研究所年報、2010 (<https://www.nhk.or.jp/bunken/research/title/year/2010/pdf/003.pdf>)
5. Williams, R.J., Volberg, R.A. & Stevens, R.M.G. (2012). *The Population Prevalence of Problem Gambling: Methodological Influences, Standardized Rates, Jurisdictional Differences, and Worldwide Trends*. Report prepared for the Ontario Problem Gambling Research Centre and the Ontario Ministry of Health and Long Term Care. May 8, 2012. <http://hdl.handle.net/10133/3068>
6. Kraus L and Augustin R: Measuring alcohol consumption and alcohol-related problems: comparison of response from self-administered questionnaires and telephone interviews. *Addiction*. 2001 96:459-471.
7. Turner CF, Ku L, Rogers SM, et al.: Adolescent sexual behavior, drug use, and violence: increased reporting with computer survey technology. *Science*. 1998 May 8;280(5365):867-73.
8. Link MW and Mokdad AH: Effects of survey mode on self-reports of adult alcohol consumption: A comparison of mail, web and telephone approaches. *J Stud Alcohol*, 66:239-245, 2005.
9. Goodie AS, MacKillop J, Miller JD, Fortune EE, Maples J, Lance CE, Campbell WK: Evaluating the South Oaks Gambling Screen with DSM-IV and DSM-5 criteria: Results from a diverse community sample of gamblers. *Assessment*, 20(5):523-531, 2013
10. de Oliveira MP, da Silveira DX, de Carvalho SV, Collakis ST, Bizeto J, Silva MT: Reliability, validity and classification accuracy of the South Oaks Gambling Screen in a Brazilian sample. *J Gambli Stud*. 2009 Dec;25(4):557-68.
11. Knezevic B, Ledgerwood DM: Gambling severity, impulsivity, and psychopathology: comparison of treatment- and community-recruited pathological gamblers. *Am J Addict*. 2012 Nov-Dec;21(6):508-15.
12. Lorains FK, Cowlshaw S, Thomas SA, et al. Prevalence of comorbid disorders in problem and pathological gambling: systematic review and meta-analysis of population surveys. *Addiction* 106(3):490-8, 2011.
13. Potenza MN, Balodis IM, Derevensky J, Grant JE, Petry NM, Verdejo-Garcia A, Yip SW: Gambling disorder. *Nat Rev Dis Primers*. 2019 Jul 25;5(1):51.
14. Hughes K, Bellis MA, Hardcastle KA, Sethi D, Butchart A, Mikton C, Jones L, Dunne MP: The effect of multiple adverse childhood experiences on health: a systematic review and meta-analysis. *Lancet Public Health*. 2017 Aug;2(8):e356-e366.
15. Poole JC, Kim HS, Dobson KS, Hodgins DC: Adverse Childhood Experiences and Disordered Gambling: Assessing the Mediating Role of Emotion Dysregulation. *J Gambli Stud*. 2017 Dec;33(4):1187-1200

巻末資料

企画委員会・ワーキンググループ構成員名簿

(1) 企画委員会構成員（五十音順 敬称略）

氏名	役職	所属
今村 知明	教授	奈良県立医科大学 公衆衛生学講座
尾崎 米厚	教授	鳥取大学 医学部 医学科 社会医学講座 環境予防医学分野
白川 教人	常任理事	全国精神保健福祉センター長会
鈴木 望	総括研究官	法務省 法務総合研究所 研究部
滝口 直子	教授	大谷大学 社会学部
田辺 等	教授	北星学園大学 社会福祉学部共通部門
野崎 史生	常任理事	日本司法書士会連合会
原田 隆之	教授	筑波大学 人間系
樋口 進 (座長)	院長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
森田 展彰	准教授	筑波大学 医学医療系

(2) ワーキンググループ構成員（五十音順 敬称略）

氏名	役職	所属
芦沢 健	院長	医療法人 資生会 千歳病院
安藤 宣行	副委員長	日本司法書士会連合会 多重債務問題対策委員会
尾崎 米厚	教授	鳥取大学 医学部 医学科 社会医学講座 環境予防医学分野
小林 美智子	研究官	法務省 法務総合研究所 研究部
小原 圭司	所長	島根県立心と体の相談センター
野田 龍也	准教授	奈良県立医科大学 公衆衛生学講座
野村 和孝	講師	早稲田大学 人間科学学術院
橋本 直子	准教授	関西学院大学 人間福祉学部
松下 幸生 (座長)	副院長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
森田 展彰	准教授	筑波大学 医学医療系

(3) 関係省庁

内閣官房 ギャンブル等依存症対策推進本部 事務局
厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 依存症対策推進室

(4) 事務局

氏名	役職	所属
松下 幸生	副院長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
遠山 朋海	医師	同上
新田 千枝	研究員	同上
アクセンチュア株式会社		

(5) 報告書 執筆者一覧

氏名	役職	所属
松下 幸生	副院長	独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター
新田 千枝	研究員	同上
遠山 朋海	医師	同上
アクセント株式会社		

(6) 調査票一覧

調査 A 「娯楽と健康に関する調査」

調査 B 「さまざまな依存症におけるギャンブル問題の実態調査」

A 票（ご本人用）および B 票（ご家族用）

調査 C 「相談機関におけるギャンブル問題実態調査」

ID

ごらく けんこう
厚生労働省補助事業「**娯楽と健康に関する調査**」調査票

◆◆◆ご記入にあたってのお願い◆◆◆

1. 封筒のあて名に記載された方がご記入ください。
2. 質問をよく読んで、あてはまる番号に○をするか、数字を記入してください。
3. あなたの回答によって、次の質問が変わります。
矢印や説明文の指示に従ってください。
4. 「答えたくない質問」や「わからない質問」には答えなくても大丈夫です。
5. 似た内容の質問がありますが、すべてにお答えください。

紙の調査票に記入するか、インターネットで回答するか、いずれか1つお選びください。

- ① 紙の調査票による回答：令和2年11月15日（日）までに
記入済みの本調査票を同封の返信用封筒(切手不要)に入れてご投函ください。
- ② インターネット回答：令和2年11月15日（日）23時59分までに
別紙の「インターネット回答のご案内」をご参照の上、パソコンやスマートフォンからご回答ください。

<調査実施機関>

独立行政法人 国立病院機構久里浜医療センター 研究責任者 松下幸生
住所：〒239-0841 神奈川県横須賀市野比 5-3-1
ホームページ：<https://kurihama.hosp.go.jp/>

<調査委託事業者・お問い合わせ先>

株式会社RJCリサーチ 調査実施部 担当 高宮、^{ほうきだ}伯耆田、山本、松本
住所：東京都渋谷区渋谷 2-12-19 東建インターナショナルビル 6階
電話：0120-035-217（フリーダイヤル）（平日 10:00～18:00）
ホームページ：<https://www.rjc.co.jp>



このマークは一般財団法人日本情報経済社会推進協会が審査し、個人情報の保護措置が適切であると認定された事業者に付与されたものです。
皆様から得られた個人情報の保護・取扱いには十分な注意を払います。

※[全員への質問です]最初に、あなた自身のことについて、質問します。

問1 あなたの性別を教えてください。(○はひとつ)

- | | | |
|------|------|----------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 答えたくない |
|------|------|----------|

問2 あなたの年齢を教えてください。(□に数字を記入)

満 歳

問3 あなたは現在、結婚されていますか。あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。(○はひとつ)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1 結婚している | 5 未婚(結婚したことがない) |
| 2 内縁関係(配偶者のような関係) | 6 別居中 |
| 3 死別した | 7 答えたくない |
| 4 離婚した | |

問4 あなたは現在、だれと住んでいますか。(一緒に住んでいる方全員に○)

- | | |
|------------|------------|
| 1 一人暮らし | 8 祖父・祖母 |
| 2 配偶者 | 9 孫 |
| 3 6歳未満の子ども | 10 配偶者の父・母 |
| 4 6歳以上の子ども | 11 子どもの配偶者 |
| 5 母親 | 12 その他 [] |
| 6 父親 | 13 答えたくない |
| 7 兄弟・姉妹 | |

問5 現在のお住まいと一緒に暮らしている方は、あなたご自身を含めて何人いますか。(□に数字を記入)

人 (一人暮らしの場合は、1人とお答えください)

問6 現在のあなたの職業を教えてください。(○はひとつ)

- | |
|--------------------------|
| 1 自営・自由業者・経営者(家族従業を含む) |
| 2 勤め(正社員・正職員) |
| 3 勤め(契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト) |
| 4 学生 |
| 5 家事専業(専業主婦・専業主夫) |
| 6 無職(求職中、失業中、進路未定を含む) |
| 7 無職(退職者、今後就業予定のない者) |
| 8 その他 [] |

問7 あなたの最終学歴を教えてください。(○はひとつ)

1 中学校 卒業	6 大学 中退
2 高校・高専 中退	7 大学 卒業
3 高校・高専 卒業	8 大学院 中退
4 短大・専門学校 中退	9 大学院 修了
5 短大・専門学校 卒業	10 その他 []

問8 あなたはどのような種類の仕事をしていますか。(○はひとつ)

1 専門・技術職……(医師、看護師、弁護士、教師、技術者、デザイナーなど専門的知識・技術を要するもの)
2 管理職………(企業・官公庁における課長職以上、議員、経営者など)
3 事務職………(企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の営業など)
4 販売職………(小売・卸売店主、店員、不動産売買、保険外交、外勤のセールスなど)
5 サービス職………(理・美容師、料理人、ウェイトレス、ホームヘルパーなど)
6 生産現場・技能職(製品製造・組立、自動車整備、建設作業員、大工、電気工事、農水産物加工など)
7 運輸・保安職……(トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士、警察官、消防官、自衛官、警備員など)
8 農・林・漁業……(農作物生産、家畜飼養、森林保続培養、水産物養殖、漁獲など)
9 その他 具体的に→ []

問9 現在あなたは18歳以下のお子さんを子育て中ですか。(○はひとつ)

1 いいえ → 【問11】へ
2 はい → 【問10】へ

※【問9】で「はい」と答えた方へ

問10 あなたは、子育てについて心配や負担感が強いですか。
最も当てはまるもの1つ選んで○をつけてください。(○はひとつ)

1 あてはまる
2 どちらかといえばあてはまる
3 どちらともいえない
4 どちらかといえばあてはまらない
5 あてはまらない

※【問11】は全ての方への質問です。

問11 あなたの税込み年収は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ合計額でお答えください。(○はひとつ)

1 1円以上～100万円未満	7 800万円以上～1,000万円未満
2 100万円以上～200万円未満	8 1,000万円以上～1,200万円未満
3 200万円以上～300万円未満	9 1,200万円以上～1,500万円未満
4 300万円以上～400万円未満	10 1,500万円以上
5 400万円以上～600万円未満	11 収入なし
6 600万円以上～800万円未満	12 わからない

※【全員への質問です】ここからは、**娯楽やギャンブル(宝くじの購入、証券の信用取引や、パチンコなどを含む)**について質問します。

問12 あなたはこれまでにギャンブルをしたことがありますか。

この調査でギャンブルとは、下の(ア)～(シ)のことです。(ア)～(シ)のギャンブルについて、今までに経験したもののすべての番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

問13 前の【問12】で、(ア)～(シ)で○をつけたギャンブルについて、過去1年間はどのくらいの頻度で行っていましたか。「1:過去1年間全くしていない、2:週1回未満、3:週1回以上」からあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)

※【問12】で「(ス)上記のいずれもしたことはない」を選んだ方は、8ページ【問38】へお進みください。

	問12 今までに経験したギャンブル全てに○ ↓	問13 (ア)～(シ)で○をつけたギャンブル 過去1年間の頻度		
		過去1年間 全くして いない	週1回 未満	週1回 以上
一 例)トランプ	例 ①	1	②	3
ア パチンコ	ア) 1	1	2	3
イ パチスロ	イ) 2	1	2	3
ウ 競馬	ウ) 3	1	2	3
エ 競輪	エ) 4	1	2	3
オ 競艇	オ) 5	1	2	3
カ オートレース	カ) 6	1	2	3
キ 宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)	キ) 7	1	2	3
ク サッカーくじ	ク) 8	1	2	3
ケ 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	ケ) 9	1	2	3
コ インターネットを使ったギャンブル (競馬、競輪、競艇、オートレースを除く)	コ) 10	1	2	3
サ 海外のカジノ	サ) 11	1	2	3
シ その他のギャンブル〔 〕	シ) 12	1	2	3
ス 上記のいずれもしたことはない	ス) 13	ス)を選んだ方のみ 8ページ【問38】へ進む		

問14 【問12】で(ウ)競馬、(エ)競輪、(オ)競艇、(カ)オートレースのいずれかに○をつけた人にお尋ねします。主にどこで券を購入しますか。競技ごとに、あてはまる番号を1つお選びください。(それぞれ○はひとつ)

※【問12】で(ウ)～(カ)を選ばなかった方は、【問15】へお進みください。

	ギャンブル場 または、場外売り場	オンライン (インターネット)	ギャンブル場/場外 と オンラインの両方
ウ) 競馬	1	2	3
エ) 競輪	1	2	3
オ) 競艇	1	2	3
カ) オートレース	1	2	3

※[問 15]～[問 37]は、過去1年間にギャンブルをしたかどうかに関わらず、これまでにギャンブルをしたことがある方全員がお答えください。

問 15 過去1年間で、最もお金を使った（つぎ込んだ）ギャンブルはどれですか。

1つ選んで○をつけてください。（○はひとつ）

1 パチンコ	8 サッカーくじ
2 パチスロ	9 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX
3 競馬	10 インターネットを使ったギャンブル (競馬、競輪、競艇、オートレースを除く)
4 競輪	
5 競艇	11 海外のカジノ
6 オートレース	12 その他のギャンブル ()
7 宝くじ (ロト・ナンバーズ等も含む)	13 過去1年間はギャンブルを全くしていない

問 16 過去1年間、1ヶ月あたりギャンブルにどのくらいお金をかけていますか。

勝ったお金は含めずにお答えください。（□に数字を記入）

※過去1年間はギャンブルをしていない場合は**0円と回答**してください。

				万					円
--	--	--	--	---	--	--	--	--	---

問 17 初めてギャンブルをしたのは何歳の時でしたか。（□に数字を記入）

		歳
--	--	---

問 18 あなたが、少なくとも月1回以上の頻度で、習慣的にギャンブルをするようになったのは何歳でしたか。（□に数字を記入）

		歳
--	--	---

X. 月1回以上の頻度で、習慣的にギャンブルをしたことがない

問 19 過去1年間に、自分のギャンブル経験について考える、あるいは将来の賭博や賭けを計画することに多くの時間を費やす期間が2週間以上続いたことはありましたか。（○はひとつ）

1 はい	2 いいえ
------	-------

問 20 過去1年間に、ギャンブルを止める、減らすあるいは制限しようとしたことがありましたか。（○はひとつ）

1 はい	2 いいえ
------	-------

問 21 過去1年間に、どのくらいの時間や回数のギャンブルをしたか、あるいはギャンブルでいくら負けたかについて家族や友人、その他の人に嘘をついたことはありましたか。（○はひとつ）

1 はい	2 いいえ
------	-------

問 22 **過去1年間**で、ギャンブルで負けた時、負けた分を取り戻すために、また別の日にギャンブルをしたことがありますか。最も近いものを1つ選んでください。(○はひとつ)

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1 全くそのようなことをしたことはない | 3 負けた時はたいていそうした |
| 2 時々そうした(負けた回数の半分はしていない) | 4 負けた時はいつもそうした |

問 23 **過去1年間**に、実際はギャンブルで負けたのに、勝っていると吹聴したことがありますか。最も近いものを1つ選んでください。(○はひとつ)

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1 いいえ、一度もない | 2 はい、でも負けた回数の半分もない |
| | 3 はい、たいていそうだった |

問 24 **過去1年間**で、自分には賭けごとやギャンブルの問題があると思ったことがありますか。(○はひとつ)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問 25 **過去1年間**で、意図していた以上にギャンブルをしたことがありますか。(○はひとつ)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問 26 **過去1年間**で、あなたのギャンブルについてまわりの人から非難されたことがありますか。(○はひとつ)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問 27 **過去1年間**で、自分のギャンブルのやり方や、ギャンブルによって生じたことについて罪悪感を感じたことがありますか。(○はひとつ)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問 28 **過去1年間**で、実際にはやめられないと分かっているにもかかわらず、ギャンブルを止めたいと思ったことはありますか。(○はひとつ)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問 29 **過去1年間**で、ギャンブルをしていることを配偶者や子供、その他あなたにとって大事な人に知られないように、ギャンブルの券や宝くじ、賭博用の資金などを隠したことがありますか。(○はひとつ)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問30 **過去1年間**で、お金の使い方について、同居している人と口論になったことがありますか。
(○はひとつ)

1	いいえ	→	【問32】へ
2	はい	→	【問31】へ

※【問30】で「はい」と答えた方へ

問31 そのお金に関する口論の原因が、
主にあなたのギャンブルだったことがありますか。
(過去1年間に起こった口論) (○はひとつ)

1	はい	2	いいえ
---	----	---	-----

※【問32】は、【問30】で「いいえ」と答えた方と、【問31】に答えた方への質問です。

問32 **過去1年間**に、誰かからお金を借りたのに、ギャンブルのために返せなくなったことがありますか。(○はひとつ)

1	はい	2	いいえ
---	----	---	-----

問33 **過去1年間**に、ギャンブルのために、仕事や学業の時間を浪費したことがありますか。
(○はひとつ)

1	はい	2	いいえ
---	----	---	-----

問34 **過去1年間**で、ギャンブルのためか、ギャンブルによる借金を返すためにお金を借りた経験がありますか。(○はひとつ)

1	ある	→	【問35】へ
2	ない	→	7ページ【問36】へ

※【問34】で「ある」と答えた方へ

問35 **過去1年間**に、誰またはどこから借りましたか。次の(a)～(i)のそれぞれについて、「はい」か「いいえ」でお答えください。(それぞれ○はひとつ)

過去1年間に	はい	いいえ
(a) 家計から借りましたか	1	0
(b) 配偶者から借りましたか	1	0
(c) その他の親戚から借りましたか	1	0
(d) 銀行、ローン会社、信用組合等の金融機関、サラ金などの貸金業者等から借りましたか	1	0
(e) クレジットカードで借りましたか	1	0
(f) 闇金融から借りましたか	1	0
(g) 株券、債券、保険を換金して借りましたか	1	0
(h) 自分または家族の財産を処分して借りましたか	1	0
(i) 当座預金口座から(不正な小切手を発行した)借りましたか	1	0

→次ページ【問36】へ

※【問36】は、【問34】で「ない」と答えた方 と 【問35】に答えた方への質問です。

問36 以下9つの質問について、**過去1年間**のあなたの状況に最もよくあてはまる番号を「0：全くない」～「3：ほとんどいつも」から1つ選んでください。（それぞれ○はひとつ）

過去1年間で	全くない	ときどき	場合 たいてい	いつも ほとんど
① どのくらいの頻度で、失っても本当に大丈夫な金額以上のお金を賭けましたか。	0	1	2	3
② どのくらいの頻度で、同じだけの興奮の感覚を得るために、それまでよりも多くの金額をギャンブルに費やさなければなりませんでしたが。	0	1	2	3
③ どのくらいの頻度で、ギャンブルで負けた金額を取り返そうと別の日にギャンブルをしに戻りましたか。	0	1	2	3
④ どのくらいの頻度でギャンブルをするお金を得るために借金をしたり、物を売ったりしましたか。	0	1	2	3
⑤ どのくらいの頻度で、自分がギャンブルに関して問題を抱えているかもしれないと感じましたか。	0	1	2	3
⑥ どのくらいの頻度で、あなたがその通りだと思うかどうかに関わらず、周囲の人々があなたが賭け事をすることを批判したり、あなたがギャンブルの問題を抱えていると言ってきたりしましたか。	0	1	2	3
⑦ どのくらいの頻度で、自身のギャンブルのやり方や、ギャンブルの結果として起こることについて、悪いとか申し訳ないと感じましたか。	0	1	2	3
⑧ どのくらいの頻度で、ギャンブルが健康問題を引き起こしましたか。これにはストレスや不安も含まれます。	0	1	2	3
⑨ どのくらいの頻度で、ご自身のギャンブルによって、あなたやご家庭に金銭的問題が引き起こされましたか。	0	1	2	3

問37 あなたはこれまでに、**あなた自身のギャンブルのことで、だれか(どこか)に相談したことはありますか。**あてはまる番号を全て選んで○をつけてください。（○はいくつでも）

1 家族や友人	6 民間の相談機関(無料電話相談、回復施設)
2 学校の先生や学生相談窓口	7 自助グループ
3 公的な相談機関 (市区町村や精神保健福祉センター、保健所等)	8 その他 []
4 医療機関	9 だれ(どこ)にも相談したことはない。
5 法律の専門家(弁護士、司法書士等)	

質問は次のページに続きます。

※【ここからは全員への質問です】

【問38】～【問51】は、**ギャンブルをしたことがない方もお答えください。**

問38 次にあげる人の中に、ギャンブルの問題がある（あった）人はいますか。今はなくとも過去にギャンブルの問題があった人についても○をつけてください。（○はいくつでも）

1 父親	6 子供
2 母親	7 恋人・交際相手
3 兄弟姉妹	8 上記以外のあなたにとって大事な人
4 祖父母	9 いない → 【問40】へ
5 配偶者(内縁関係も含む)	

問39 あなたは、**先ほど【問38】で答えた人のギャンブル問題から**、影響を受けたことがありますか。影響を受けたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。（○はいくつでも）

1 浪費、借金による経済的困難が生じた	7 脅しや言葉の暴力を受けた
2 借金の肩代わりをした	8 ギャンブルをやめられない人に怒りを感じた
3 金品を盗まれた	9 子への暴力や不適切な養育をしてしまった
4 殴る蹴るなどの暴力を受けた	10 アルコール問題(飲酒運転を含む)が生じた
5 家庭不和・別居・離婚を経験した	11 あてはまるものはない
6 うつ状態になった	

※【問38】で「いいえ」と答えた方 と 【問39】に答えた方全員への質問です。

問40 **もし、あなた自身や、あなたの重要な関係者(家族や友人、同僚、交際相手など)がギャンブルのことで困りごとを抱えたら、だれ(どこ)に相談しますか。**あてはまる番号を全て選んで○をつけてください。（○はいくつでも）

1 家族や友人	6 民間の相談機関(無料電話相談、回復施設)
2 学校の先生や学生相談窓口	7 自助グループ
3 公的な相談機関 (市区町村や精神保健福祉センター、保健所等)	8 その他 []
4 医療機関	9 だれ(どこ)にも相談しない。
5 法律の専門家(弁護士、司法書士等)	

問41 ギャンブル依存症対策に関する下記の①～③の仕組みについて、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。（それぞれ○はひとつ）

	知っている	知らない
① 本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み	1	0
② 本人や家族の申請により、競馬・競輪・競艇・オートレースの入場が制限される仕組み	1	0
③ 本人が申請することにより、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組み	1	0

問 42 以下の①～⑤に掲げる病気になったのは、「本人の責任である」と思いますか。①～⑤について、「1:全くそう思わない」～「5:強くそう思う」から1つ選んでください。
(それぞれ○はひとつ)

	全くそう思わない	そう思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う
① うつ病	1	2	3	4	5
② アルコール依存症	1	2	3	4	5
③ がん	1	2	3	4	5
④ ギャンブル依存症	1	2	3	4	5
⑤ 糖尿病	1	2	3	4	5

※ここからは、あなたの心身の健康や生活習慣について質問します。

問 43 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適当と思われる番号(1:いつも～5:全くない)を選んで○をつけてください。
(それぞれ○はひとつ)

過去30日の間、	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
① 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5
② 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5
③ そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5
④ 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
⑤ 何をするのも骨折りだと感じましたか	1	2	3	4	5
⑥ 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

問 44 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。(○はひとつ)

1 ある	2 ない	3 答えたくない
------	------	----------

問 45 あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。(○はひとつ)

1 ある	2 ない	3 答えたくない
------	------	----------

※ここからは、飲酒・喫煙について質問します。

問 46 あなたの喫煙(紙巻きタバコ、電子タバコ、加熱式タバコ含む)について、あてはまるものを1つ選んでください。(○はひとつ)

- 1 吸ったことはない 2 以前吸っていたが現在はやめた 3 今も吸っている

問 47 あなたはアルコール含有飲料がんゆういんりょうをどのくらいの頻度で飲みますか。(○はひとつ)

- 1 まったく飲まない 2 1カ月に1回以下 3 1カ月に2～4回
4 1週間に2～3回 5 1週間に4回以上

問 48 飲酒するときには通常どのくらいの量を飲みますか。

下の「1:まったく飲まない」～「6:10ドリンク以上」からあてはまる番号を1つ選んでください。(○はひとつ) ※【ドリンク換算表】を参考にお答えください。

※ドリンク数の合計が小数の場合、小数点以下を四捨五入して回答します。

- 1 まったく飲まない
2 1～2ドリンク
3 3～4ドリンク
4 5～6ドリンク
5 7～9ドリンク
6 10ドリンク以上

【問 49】へ進む

飲酒量のドリンク換算例

- ①ビール【レギュラー缶】2本と焼酎(20%)1合
→1.4ドリンク×2本+2.9ドリンク×1
=5.7ドリンク=6ドリンク
- ②チューハイ【ロング缶】2本とワイングラス3杯
→2.8ドリンク×2本+1.2ドリンク×3杯
=9.2ドリンク=9ドリンク

ドリンク換算表		
お酒の種類	摂取量	ドリンク数
ビール・発泡酒	コップ1杯(180ml)	0.7
	中瓶・ロング缶(500ml)	2.0
	大瓶(633ml)	2.5
	レギュラー缶(350ml)	1.4
	中ジョッキ(320ml)	1.3
日本酒(15%)	1合(180ml)	2.2
焼酎(20%)	1合(180ml)	2.9
焼酎(25%)	1合(180ml)	3.6
チューハイ(7%)	レギュラー缶(350ml)	2.0
	ロング缶(500ml)	2.8
	中ジョッキ(320ml)	1.8
ワイン(12%)	ワイングラス(120ml)	1.2
	フルボトル(750ml)	7.2
ウイスキー(40%)	シングル水割り(原酒で30ml)	1.0
	ダブル水割り(原酒で60ml)	2.0
	ボトル1本(720ml)	23.0
カクテル類(5%)	350mL 缶1本	1.4
	500mL 缶1本	2.0
梅酒(13%)	1合(180ml)	1.9

問 49 1度に6ドリンク以上飲酒することがどのくらいの頻度でありますか。(○はひとつ)
上の【ドリンク換算表】を参考にお答えください。

- 1 ない 2 1カ月に1回未満 3 1カ月に1回
4 1週間に1回 5 毎日あるいはほとんど毎日

※【問50】は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、あなたの行動の変化について質問します。

問50 **新型コロナウイルス感染症拡大前(令和2年1月時点)と現在**を比べて、あなたのインターネットを使ったギャンブルはどのように変化しましたか。最もあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。この質問では、オンライン(インターネット)で競馬、競輪、競艇、オートレースの券を購入した場合も含まれます。(○はひとつ)

インターネットを使ったギャンブルを

- | | |
|---|------------|
| 1 | 新たに始めた |
| 2 | する機会が増えた |
| 3 | する機会が減った |
| 4 | する機会に変化はない |
| 5 | したことがない |

問51 あなたが**18歳までに経験したことがあるもの全てに○**をつけてください。(○はいくつでも)

- | | | | |
|---|----------------------|----|-------------------|
| 1 | 心理的虐待を受けた | 7 | 性的虐待を受けた |
| 2 | 家庭内暴力(DV)を目撃した | 8 | 両親の離婚 |
| 3 | 精神疾患がある人との同居 | 9 | 刑務所に入ったことがある人との同居 |
| 4 | アルコール依存や薬物乱用のある人との同居 | 10 | 学校でのいじめ被害 |
| 5 | 身体的虐待を受けた | 11 | あてはまるものはない |
| 6 | ネグレクト(養育の放棄)を受けた | 12 | 答えたくない |

今後、娯楽や健康に関してアンケートやインタビュー調査のご案内をさせていただく場合がございますが、ご同意いただける方は、「1 同意する」に○をご記入ください。

なお、「1 同意する」とお答えいただいた全ての方にご案内差し上げるわけではございませんことをあらかじめご了承ください。

1 同意する

2 同意しない

以上で質問は終わりです。

記入もれはありませんか？ ご確認いただきましたら、同封の返信用封筒に入れて、**令和2年11月15日(日)まで**にご投函ください。

※返信用封筒にはお名前や住所のご記入は必要ございません。

※インターネットでご回答いただいた方は、紙の調査票のご返送は不要です。

最後までご協力いただきありがとうございました。

都道府県識別 ID

「さまざまな依存症におけるギャンブル問題の実態調査」

A票 ご本人用 (GAメンバー含む)

「答えたくない質問」や「わからない質問」には答えなくても大丈夫です。
似た内容の質問がありますが、すべてにお答えください。

※質問はここから↓ 全員への質問 あなたのことにあわせておたずねします。

問1 あなたの性別を教えてください。(○はひとつ)

1 男性	2 女性	3 答えない
------	------	--------

問2 あなたの年齢を教えてください。(□に数字を記入)

満 歳

問3 あなたは現在、結婚されていますか。あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。(○はひとつ)

1 結婚している	4 離婚した
2 内縁関係(配偶者のような関係)	5 未婚(結婚したことがない)
3 死別した	6 別居中

問4 あなたは現在、だれと住んでいますか。(一緒に住んでいる全員に○)

1 一人暮らし	5 祖父・祖母
2 配偶者	6 兄弟・姉妹
3 子ども	7 孫
4 父親・母親	8 その他〔 <input type="text"/> 〕

問5 現在のあなたの職業を教えてください。(○はひとつ)

1 自営・自由業者・経営者(家族従業を含む)	5 家事専業(専業主婦・専業主夫)
2 勤め(正社員・正職員)	6 無職(求職中、失業中、進路未定を含む)
3 勤め(契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト)	7 無職(退職者、今後就業予定のない者)
4 学生	8 その他〔 <input type="text"/> 〕

問6 あなたの年収(税込み)は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ合計額でお答えください。(○はひとつ)

1 1万円以上～100万円未満	7 800万円以上～1,000万円未満
2 100万円以上～200万円未満	8 1,000万円以上～1,200万円未満
3 200万円以上～300万円未満	9 1,200万円以上～1,500万円未満
4 300万円以上～400万円未満	10 1,500万円以上
5 400万円以上～600万円未満	11 収入なし
6 600万円以上～800万円未満	12 わからない

※全員への質問 ここからは、あなたがお相談されている依存の問題についてお答えください。

問7 この調査票は、どこでもらいましたか。(○はひとつ)

1 精神保健福祉センターに相談に行ったとき	3 GA(ギャンブラーズ・アノニマス)の会場
2 保健所に相談に行ったとき	4 精神保健福祉センターで開催のGAに参加したとき

問8 【問7】で答えた場所を利用することになった依存の問題は次のどれですか。

(○はいくつでも)

1	ギャンブルの問題	3	薬物の問題	5	買い物の問題	7	その他
2	アルコールの問題	4	ゲームの問題	6	盗癖		[]

問9 【問7】で答えた場所を利用することになったきっかけについて教えてください

(○はいくつでも)

1	友人、知人にすすめられた	4	法律や司法の専門家にすすめられた
2	家族にすすめられた	5	自分からホームページなどで探した
3	医療機関ですすめられた	6	その他 []

問10 あなたはこれまでに、依存の問題で以下のところに相談や援助を求めたことがありますか。

あてはまるもの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

1	法律の専門家(弁護士、司法書士等)	5	自助グループ
2	病院やクリニックの受診	6	警察
3	公的な相談機関 (市区町村や精神保健福祉センター、保健所等)	7	その他 []
4	民間の相談機関(無料電話相談、回復施設)	8	あてはまるものはない

問11 あなたはこれまでに次の制度を利用したことがありますか。(それぞれ○はひとつ)

	ある	ない	答えたくない
① 生活保護の受給	1	2	3
② 債務整理(自己破産・個人再生・任意整理等)	1	2	3

※[問12]～[問14]はあなたの心の健康についてお伺いします。

問12 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問

について、最も適当と思われる番号(1:いつも～5:全くない)を選んで○をつけてください。

(それぞれ○はひとつ)

過去30日の間、	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
① 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5
② 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5
③ そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5
④ 気分が沈み込んで、何が起ころしても気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
⑤ 何をするのも骨折りだと感じましたか	1	2	3	4	5
⑥ 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

問13 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。(○はひとつ)

1	ある	2	ない	3	答えたくない
---	----	---	----	---	--------

問14 あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。(○はひとつ)

1	ある	2	ない	3	答えたくない
---	----	---	----	---	--------

※全員への質問 ここからは、**過去1年間の娯楽やギャンブル(宝くじの購入、証券の信用取引やパチンコなどを含む)について質問します。**

問15 あなたは**過去1年間にギャンブル**をしましたか。この調査でギャンブルとは、下表の(ア)～(シ)のことです。**過去1年間に経験したものの全ての番号に○をつけてください。**(○はいくつでも)

※過去1年間ギャンブルをしていない方は、**番号13に○をつけ、【問28】へ進んでください。**

問16 前の【問15】で○をつけたギャンブルについて、

過去1年間はどのくらいの頻度で行いましたか。下表の「1:週1回未満、2:週1回以上」からあてはまる番号を1つ選んでください。(それぞれ○はひとつ)

	問15 過去1年にしたギャンブル 全てに○ ↓	問16 (ア)～(シ)で○をつけた ギャンブル 過去1年間の頻度	
		週1回未満	週1回以上
一 例)トランプ	例) ⑭	①	2
ア パチンコ	ア) 1	1	2
イ パチスロ	イ) 2	1	2
ウ 競馬	ウ) 3	1	2
エ 競輪	エ) 4	1	2
オ 競艇	オ) 5	1	2
カ オートレース	カ) 6	1	2
キ 宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)	キ) 7	1	2
ク サッカーくじ	ク) 8	1	2
ケ 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX ※仕事などの業務で行うものは除く	ケ) 9	1	2
コ インターネットを使ったギャンブル (競馬、競輪、競艇、オートレースを除く)	コ) 10	1	2
サ 海外のカジノ	サ) 11	1	2
シ その他のギャンブル []	シ) 12	1	2
ス <u>過去1年間ギャンブルをしていない</u>	ス) 13		

「過去1年間ギャンブルをしていない」を選んだ方のみ
5ページ【問28】へ進む

問17 【問15】で(3)競馬、(4)競輪、(5)競艇、(6)オートレースのいずれかに○をつけた人にお尋ねします。主にどこで券を購入しますか。競技ごとに、あてはまる番号を1つお選びください。(それぞれ○はひとつ)

※【問15】で(3)～(6)を選ばなかった方は、【問18】へお進みください。

	ギャンブル場 または、場外売り場	オンライン (インターネット)	ギャンブル場/場外 と オンラインの両方
3) 競馬	1	2	3
4) 競輪	1	2	3
5) 競艇	1	2	3
6) オートレース	1	2	3

問 18 **過去1年間**、あなたが最もお金を使ったギャンブルはどれですか？1～13 からあてはまる番号を一つ選んでください。(○はひとつ)

1 パチンコ	8 サッカーくじ
2 パチスロ	9 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX
3 競馬	10 インターネットを使ったギャンブル (競馬、競輪、競艇、オートレースを除く)
4 競輪	
5 競艇	11 海外のカジノ
6 オートレース	12 その他のギャンブル ()
7 宝くじ (ロト・ナンバーズ等も含む)	13 いずれのギャンブルもしたことがない

問 19 **過去1年間**、1ヶ月あたりギャンブルにどのくらいお金をかけていますか。
勝ったお金は含めずにお答えください。(□に数字を記入)

□	□	□	□	万	□	□	□	□	円
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問 20 あなたは、**これまでにギャンブルに関連して借金したことはありますか。**
また、その総額はいくらですか。(□に数字を記入)

□	□	□	□	万	□	□	□	□	円	X. ギャンブルに関連した借金をしたことはない
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-------------------------

問 21 初めてギャンブルをしたのは何歳の時でしたか。(□に数字を記入)

□	□	歳
---	---	---

問 22 あなたが、初めてギャンブルをした時の状況に最も近いものを1つ選んでください。
(○はひとつ)

1 自分一人で	5 ギャンブルをする交際相手に誘われて
2 ギャンブルをする友人に誘われて	6 ギャンブルをする親・兄弟姉妹以外の親戚に誘われて
3 ギャンブルをする親に誘われて	7 その他[]
4 ギャンブルをする兄弟姉妹に誘われて	8 あてはまるものはない

問 23 あなたが、少なくとも月1回以上の頻度で、習慣的にギャンブルをするようになったのは何歳でしたか。(□に数字を記入)

□	□	歳	X. 月1回以上の頻度で、習慣的にギャンブルをしたことがない
---	---	---	--------------------------------

問 24 **過去1年間**に、自分のギャンブル経験について考える、あるいは将来の賭博や賭けを計画することに多くの時間を費やす期間が2週間以上続いたことはありましたか。(○はひとつ)

1 はい	2 いいえ
------	-------

問25 **過去1年間**に、ギャンブルを止める、減らすあるいは制限しようとしたことがありましたか。
(○はひとつ)

1 はい 2 いいえ

問26 **過去1年間**に、どのくらいの時間や回数のギャンブルをしたか、あるいはギャンブルでいくら負けたかについて家族や友人、他の人に嘘をついたことはありましたか。(○はひとつ)

1 はい 2 いいえ

問27 以下9つの質問について、**過去1年間**のあなたの状況に最もよくあてはまる番号を「0：全くない」～「3：ほとんどいつも」から1つ選んでください。(○はひとつ)

過去1年間で、	全くない	ときどき	の場合 たいてい	いつも ほとんど
① どのくらいの頻度で、失っても本当に大丈夫な金額以上のお金を賭けましたか。	0	1	2	3
② どのくらいの頻度で、同じだけの興奮の感覚を得るために、それまでよりも多くの金額をギャンブルに費やさなければなりませんでしたが。	0	1	2	3
③ どのくらいの頻度で、ギャンブルで負けた金額を取り返そうと別の日にギャンブルをしに戻りましたか。	0	1	2	3
④ どのくらいの頻度でギャンブルをするお金を得るために借金をしたり、物を売ったりしましたか。	0	1	2	3
⑤ どのくらいの頻度で、自分がギャンブルに関して問題を抱えているかもしれないと感じましたか。	0	1	2	3
⑥ どのくらいの頻度で、あなたがその通りだと思うかどうかに関わらず、周囲の人々があなたが賭け事をするのを批判したり、あなたがギャンブルの問題を抱えていると言ってきたりしましたか。	0	1	2	3
⑦ どのくらいの頻度で、自身のギャンブルのやり方や、ギャンブルの結果として起こることについて、悪いとか申し訳ないと感じましたか。	0	1	2	3
⑧ どのくらいの頻度で、ギャンブルが健康問題を引き起こしましたか。これにはストレスや不安も含まれます。	0	1	2	3
⑨ どのくらいの頻度で、ご自身のギャンブルによって、あなたやご家庭に金銭的問題が引き起こされましたか。	0	1	2	3

【問27】を終えたら6ページ【問30】へ進む

※【問28&問29】は、【問15】で「**過去1年間ギャンブルをしていない**」を選んだ方への質問です。

問28 過去1年間、ギャンブルをしていない理由は何ですか。**あてはまるもの全てに○**をしてください。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 医療機関で治療を受けてやめたから | 5 お金がないから |
| 2 自助グループに通ってやめたから | 6 その他[] |
| 3 特に理由はない | 7 答えたくない |
| 4 ギャンブル以外の楽しみをみつけたから | 8 これまで全くギャンブルをしたことがない |

問29 あなたが最後にギャンブルをしたのはいつですか。(□に数字を記入、年は西暦で記入)

□	□	□	□	年	□	□	月頃
---	---	---	---	---	---	---	----

X. これまで全くギャンブルをしたことがない

※全員への質問 ここからは、飲酒やゲームについて質問します。

問30 あなたはアルコール含有飲料(がんゆういんりょう)をどのくらいの頻度で飲みますか。(○はひとつ)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1 まったく飲まない | 2 1カ月に1回以下 | 3 1カ月に2～4回 |
| 4 1週間に2～3回 | 5 1週間に4回以上 | |

問31 飲酒するときには通常どのくらいの量を飲みますか。(○はひとつ)

※1ドリンクとは、ビールやワインなどアルコール飲料に含まれる純アルコール量10gのことです。

下の【ドリンク換算表】を参考にお答えください。ドリンク数の合計が小数の場合、小数点以下を四捨五入して回答します。

- | |
|------------|
| 1 まったく飲まない |
| 2 1～2ドリンク |
| 3 3～4ドリンク |
| 4 5～6ドリンク |
| 5 7～9ドリンク |
| 6 10ドリンク以上 |

【問32】へ進む

飲酒量のドリンク換算例

- ①ビール【レギュラー缶】2本と焼酎(20%)1合
 →1.4ドリンク×2本+2.9ドリンク×1
 =5.7ドリンク=6ドリンク
- ②チューハイ【ロング缶】2本とワイングラス3杯
 →2.8ドリンク×2本+1.2ドリンク×3杯
 =9.2ドリンク=9ドリンク

ドリンク換算表		
お酒の種類	摂取量	ドリンク数
ビール・発泡酒	コップ1杯(180ml)	0.7
	中瓶・ロング缶(500ml)	2.0
	大瓶(633ml)	2.5
	レギュラー缶(350ml)	1.4
	中ジョッキ(320ml)	1.3
日本酒(15%)	1合(180ml)	2.2
焼酎(20%)	1合(180ml)	2.9
焼酎(25%)	1合(180ml)	3.6
チューハイ(7%)	レギュラー缶(350ml)	2.0
	ロング缶(500ml)	2.8
	中ジョッキ(320ml)	1.8
ワイン(12%)	ワイングラス(120ml)	1.2
	フルボトル(750ml)	7.2
ウイスキー(40%)	シングル水割り(原酒で30ml)	1.0
	ダブル水割り(原酒で60ml)	2.0
	ボトル1本(720ml)	23.0
カクテル類(5%)	350mL 缶1本	1.4
	500mL 缶1本	2.0

問32 1度に6ドリンク以上飲酒することがどのくらいの頻度でありますか。(○はひとつ)
 上の【ドリンク換算表】を参考にお答えください。

- | | | |
|----------|----------------|----------|
| 1 ない | 2 1カ月に1回未満 | 3 1カ月に1回 |
| 4 1週間に1回 | 5 毎日あるいはほとんど毎日 | |

問33 あなたは過去1年間、ゲームをしたことがありますか。ここでいう「ゲーム」とは、ゲーム機、パソコン、スマホなどを使ったゲームのことです。(○はひとつ)

- | | |
|------|--------------|
| 1 ある | → 7ページ【問34】へ |
| 2 ない | → 7ページ【問35】へ |

※【問34】は過去1年間にゲームをしたことが「ある」と答えた方への質問です。

問34 以下のそれぞれの質問について、過去1年間のあなたにあてはまりますか。それぞれ「全くなかった」「ときどきあった」「よくあった」から選んで○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	な か っ た	全 く あ っ た	よ く あ っ た
過去1年間で、			
ゲームをしていないときにどれくらい頻繁に、ゲームのことを空想したり、以前にしたゲームのことを考えたり、次にするゲームのことを思ったりすることがありましたか。	1	2	3
ゲームが全くできなかつたり、いつもよりゲーム時間が短かったとき、どれくらい頻繁にソワソワしたり、イライラしたり、不安になったり、悲しい気持ちになりましたか。	1	2	3
<u>過去1年間</u> で、十分ゲームをしたと感じるために、もっと頻繁に、またはもっと長い時間ゲームをする必要があると感じたことがありますか。	1	2	3
<u>過去1年間</u> で、ゲームをする時間を減らそうとしたが、うまく行かなかったことがありますか。	1	2	3
<u>過去1年間</u> で、友人に会ったり、以前に楽しんでいた趣味や遊びをすることよりも、ゲームの方を選んだことがありますか。	1	2	3
何らかの問題が生じているにもかかわらず、長時間ゲームをしたことがありますか。問題とはたとえば、睡眠不足、学校での勉強や職場での仕事がかどらない、家族や友人と口論する、すべき大切なことをしなかった、などです。	1	2	3
自分がどれくらいゲームをしていたかについて、家族、友人、または他の大切な人にばれないようにしようとしたり、ゲームについてそのような人たちに嘘をついたことがありますか。	1	2	3
嫌な気持ちを晴らすためにゲームをしたことがありますか。嫌な気持ちとは、たとえば、無力に感じたり、罪の意識を感じたり、不安になったりすることです。	1	2	3
ゲームのために大切な人間関係をあやうくしたり、失ったことがありますか。	1	2	3
<u>過去1年間</u> で、ゲームのために学校での勉強や職場での仕事がうまくできなかったことがありますか。	1	2	3

※**全員への質問** ここからは、あなたの経験やお考えについて伺います。

問35 あなたが 18歳までに経験したことがあるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1 心理的虐待を受けた	7 性的虐待を受けた
2 家庭内暴力(DV)を目撃した	8 両親の離婚
3 精神疾患がある人との同居	9 刑務所に入ったことがある人との同居
4 アルコール依存や薬物乱用のある人との同居	10 学校でのいじめ被害
5 身体的虐待を受けた	11 あてはまるものはない
6 ネグレクト(養育の放棄)を受けた	12 答えたくない

問36 行政により一層取り組んで欲しいことについて、該当するものすべてに○をつけてください。

1 依存症に関する正しい知識や理解の普及啓発	4 自助グループや民間団体への支援・連携の強化
2 依存症に関する相談窓口の周知・拡大	5 その他〔具体的に〕
3 依存症の治療ができる医療機関を増やす	6 特になし

問37 あなたは、下記のリストに掲げる行為をしたことはありますか。あてはまるもの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

1	家族の金品(預金を含む)を盗んだ	6	暴力を振るったり、物を壊したりした
2	家族や知人のカードを勝手に使った	7	会社のお金を横領した
3	客引きや薬物売買などの違法な仕事を行った	8	飲酒運転をした
4	家族以外の他人や店から金品(預金を含む)を盗んだ	9	あてはまるものはない
		10	答えたくない
5	違法薬物を使用した	11	わからない

問38 あなたはこれまでに、依存の問題があることで子育てが難しいと感じたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(○はひとつ)

1	ある	2	ない	3	これまで子育ての経験はない
---	----	---	----	---	---------------

問39 あなたはこれまでに、依存の問題があることで、子どもに対して、心理的な虐待(子どもを傷つける言葉を言う、夫婦間暴力をみせるなど)や身体的虐待(たたく、けるなど)や、ネグレクト(必要な世話をしない、子どもに愛情のある関わりをもてないなど)のいずれかのことがありましたか。(○はひとつ)

1	ある	2	ない	3	これまで子育ての経験はない
---	----	---	----	---	---------------

問40 あなたはGA(ギャンブラーズ・アノニマス)を利用したことがありますか?

1 あり	2 ない	3 わからない
------	------	---------

↓
【問41】へ進む

【問40】で「ない」または、「わからない」と答えた方は、ここで質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

問41 問題に気づいてからGAにつながるまで、どのくらいの期間がありましたか。(□に数字を記入)

		年			か月

問42 あなたがGAに通いはじめてどのくらいの期間になりますか。(□に数字を記入)

		年	か月

問43 あなたがGAに参加して、良かったことに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	自分ひとりじゃないと思えた	7	参加すると気持ちが軽くなる
2	回復するためのお手本となる人と出会った	8	同じ悩みを持つ仲間の役に立てる
3	相談する人ができた	9	12ステップで生き方を変えられた
4	依存することを止めたい気持ちが強くなった	10	スポンサーシップが心強い
5	自分も回復できると思えるようになった	11	その他
6	同じ悩みを持つ仲間とのネットワークが広がった	12	特になし

以上で質問は終わりです。ご協力いただきありがとうございました。

記入もれはありませんか? なるべくお早めに返信用封筒(切手不要)にてご返送ください。

都道府県識別 ID

「さまざまな依存症におけるギャンブル問題の実態調査」

B票 ご家族用 (ギャマンメンバー含む)

「答えたくない質問」や「わからない質問」には答えなくても大丈夫です。

似た内容の質問がありますが、すべてにお答えください。

※全員への質問 はじめに、あなたのことについてお尋ねします。

問1 あなたの性別を教えてください。(○はひとつ)

1 男性	2 女性	3 答えない
------	------	--------

問2 あなたの年齢を教えてください。(□に数字を記入)

満	<input type="text"/>	歳
---	----------------------	---

問3 依存の問題をもつ当事者はどなたですか。あなたから見たご関係をお答えください。

(○はひとつ)

依存の問題を持つのは、	
1 わたしの配偶者(内縁関係含む)	5 わたしの祖父母
2 わたしの子ども	6 わたしの孫
3 わたしの親	7 その他
4 わたしの兄弟姉妹	[]

問4 あなたは現在、結婚されていますか。あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。

(○はひとつ)

1 結婚している	4 離婚した
2 内縁関係(配偶者のような関係)	5 未婚(結婚したことがない)
3 死別した	6 別居中

問5 あなたは現在、だれと住んでいますか。(一緒に住んでいる全員に○)

1 一人暮らし	5 祖父・祖母
2 配偶者	6 兄弟・姉妹
3 子ども	7 孫
4 父親・母親	8 その他 []

問6 あなたの職業を教えてください。(○はひとつ)

1 自営・自由業者・経営者(家族従業を含む)	5 家事専業(専業主婦・専業主夫)
2 勤め(正社員・正職員)	6 無職(求職中、失業中、進路未定を含む)
3 勤め(契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト)	7 無職(退職者、今後就業予定のない者)
4 学生	8 その他 []

問7 あなたの世帯年収(税込み)は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ合計額でお答えください。(○はひとつ)

1 1円以上～100万円未満	7 800万円以上～1,000万円未満
2 100万円以上～200万円未満	8 1,000万円以上～1,200万円未満
3 200万円以上～300万円未満	9 1,200万円以上～1,500万円未満
4 300万円以上～400万円未満	10 1,500万円以上
5 400万円以上～600万円未満	11 収入なし
6 600万円以上～800万円未満	12 わからない

※全員への質問 【問8】～【問10】は、あなたの状況についてお答えください。

問8 この調査票は、どのように受け取りましたか。(○はひとつ)

1 精神保健福祉センターに相談に行ったとき	3 ギャマノン(GAM-ANON)の会場
2 保健所に相談に行ったとき	4 精神保健福祉センターで開催のギャマノンに参加したとき

問9 【問8】で答えた場所を利用することになったきっかけについて教えてください(○はいくつでも)

1 友人、知人にすすめられた	4 法律や司法の専門家にすすめられた
2 家族にすすめられた	5 自分からホームページなどで探した
3 医療機関ですすめられた	6 その他 []

問10 あなたのご家族(依存の問題がある当事者)が抱えている問題は、次のどれですか。あてはまる全ての番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

1	ギャンブルの問題	2 薬物の問題	4 買い物の問題	6 ゲームの問題
		3 アルコールの問題	5 盗癖	7 その他 []

「1. ギャンブルの問題」に○をつけた方は【問11】へ進む

「1. ギャンブルの問題」を選ばなかった方のみ3ページ【問16】へ進む

※ここから【問11】～【問15】は、ギャンブル依存の問題を抱えるご家族に向けた質問です。

問11 当事者の依存の問題となっているギャンブルの種類はどれですか？次の1～13からあてはまる全ての番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

1 パチンコ	8 サッカーくじ
2 パチスロ	9 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX
3 競馬	10 インターネットを使ったギャンブル (競馬、競輪、競艇、オートレースを除く)
4 競輪	
5 競艇	11 海外のカジノ
6 オートレース	12 その他のギャンブル ()
7 宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)	13 わからない

問12 あなたは、当事者のギャンブル問題から、影響を受けたことがありますか。影響を受けたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

1 浪費、借金による経済的困難が生じた	7 脅しや言葉の暴力を受けた
2 借金の肩代わりをした	8 ギャンブルをやめられない人に怒りを感じた
3 金品を盗まれた	9 子への暴力や不適切な養育をしてしまった
4 殴る蹴るなどの暴力を受けた	10 アルコール問題(飲酒運転を含む)が生じた
5 家庭不和・別居・離婚を経験した	11 あてはまるものはない
6 うつ状態になった	

問13 **依存の問題がある当事者が、ギャンブルの資金を手に入れるために借金をしたことはありますか。**その総額はいくらですか。借金経験がない場合は0円と記入してください。
(□に数字を記入)

□	□	□	□	万	□	□	□	□	円
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

X. わからない

問14 **これまでに、依存の問題がある当事者が作った借金を立て替えたことはありましたか。**あなたも含めて家族全員による立て替え総額を記入してください。
立て替えたことがない場合は0円と記入してください。(□に数字を記入)

□	□	□	□	万	□	□	□	□	円
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

X. わからない

問15 **直近3カ月**、当事者はギャンブルをやめていますか。
最もあてはまる番号1つに○をつけてください。(○はひとつ)

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1 やめている | 4 その他 [] |
| 2 やめてはいないが以前より減った | 5 わからない |
| 3 やめていない | |



【問15】の次は、【問16】へ進む

※全員への質問

ここからは、ギャンブルを含む、アルコール、薬物、ネット・ゲームなどさまざまな依存の問題を抱えるご家族に向けた質問です。

問16 あなたはこれまでに、**当事者の依存の問題**で、以下のところに相談や援助を求めたことがありますか。あてはまるもの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

1 法律の専門家(弁護士、司法書士等)	5 自助グループ
2 病院やクリニック受診	6 警察
3 公的な相談機関 (市区町村や精神保健福祉センター、保健所等)	7 その他 []
4 民間の相談機関(無料電話相談、回復施設)	8 あてはまるものはない

問17 あなたはこれまでに、家族に依存の問題があることで子育てが難しいと感じたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(○はひとつ)

- | | | |
|------|------|-----------------|
| 1 ある | 2 ない | 3 これまで子育ての経験はない |
|------|------|-----------------|

問18 あなたはこれまでに、家族に依存の問題があることで、子どもに対して、心理的な虐待(子どもを傷つける言葉を使う、夫婦間暴力をみせるなど)や身体的虐待(たたく、けるなど)や、ネグレクト(必要な世話をしない、子どもに愛情のある関わりをもてないなど)のいずれかのことがありましたか。(○はひとつ)

- | | | |
|------|------|-----------------|
| 1 ある | 2 ない | 3 これまで子育ての経験はない |
|------|------|-----------------|

問 19 あなたが **18 歳までに経験したことがあるもの全てに○をつけてください。**（○はいくつでも）

1	心理的虐待を受けた	7	性的虐待を受けた
2	家庭内暴力(DV)を目撃した	8	両親の離婚
3	精神疾患がある人との同居	9	刑務所に入ったことがある人との同居
4	アルコール依存や薬物乱用のある人との同居	10	学校でのいじめ被害
5	身体的虐待を受けた	11	あてはまるものはない
6	ネグレクト(養育の放棄)を受けた	12	答えたくない

問 20 **過去 30 日の間**に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適当と思われる番号（1:いつも～5:全くない）を選んで○をつけてください。（それぞれ○はひとつ）※あなたご自身のことについてお答えください。

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
過去 30 日の間、					
① 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5
② 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5
③ そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5
④ 気分が沈み込んで、何が起ころしても気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
⑤ 何をするのも骨折りだと感じましたか	1	2	3	4	5
⑥ 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

問 21 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。（○はひとつ）

1	ある	2	ない	3	答えたくない
---	----	---	----	---	--------

問 22 あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。（○はひとつ）

1	ある	2	ない	3	答えたくない
---	----	---	----	---	--------

問 23 **依存の問題がある当事者**は、これまでに次の制度を利用したことがありますか。（それぞれ○はひとつ）

	ある	ない	答えたくない	わからない
① 生活保護の受給	1	2	3	4
② 債務整理（自己破産・個人再生・任意整理等）	1	2	3	4

問 24 **依存の問題がある当事者**は、下記のリストに掲げる行為をしたことはありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

1	家族の金品（預金を含む）を盗んだ	6	暴力を振るったり、物を壊したりした
2	家族や知人のカードを勝手に使った	7	会社のお金を横領した
3	客引きや薬物売買などの違法な仕事を行った	8	飲酒運転をした
4	家族以外の他人や店から金品（預金を含む）を盗んだ	9	あてはまるものはない
		10	答えたくない
5	違法薬物を使用した	11	わからない

問25 依存問題を抱えるご家族の立場から、具体的にどのような支援策や情報があるとよいですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	気軽に相談できる場所の情報	8	金銭管理
2	病気を理解するための知識や情報	9	当事者の依存以外の心と体の病気への対応
3	当事者を治療につなげる関わり方	10	依存症の治療方法
4	家族自身の心身をケアする方法	11	当事者への就労支援
5	生活費や治療費の支援	12	その他[]
6	当事者が作る借金への対応	13	特になし
7	当事者の犯罪への対応(法律の知識)		

問26 今後、行政により一層取り組んで欲しいことについて、あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	依存症に関する正しい知識や理解の普及啓発	5	自助グループや民間団体への支援・連携の強化
2	依存症に関する相談窓口の周知・拡大	6	その他〔具体的に〕
3	依存症の治療ができる医療機関を増やす	7	特になし

問27 あなたは自助グループ・家族会等を利用したことがありますか？

1 ある	2 ない	3 わからない
------	------	---------

【問28】へ進む

【問27】で「ない」または、「わからない」と答えた方は、ここで質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

問28 あなたが参加したことのある自助グループ・家族会等はどれですか。(○はいくつでも)

1	ギャマノン	2	ギャマノン以外の自助グループ	3	家族会	4	その他[]
---	-------	---	----------------	---	-----	---	--------

問29 当事者の問題に気づいてから、あなたが初めて自助グループや家族会等につながるまでのどのくらいの期間がありましたか。(□に数字を記入)

		年			か月
--	--	---	--	--	----

問30 あなたが自助グループや家族会に参加してからどのくらいの年月になりますか。(□に数字を記入)

		年			か月
--	--	---	--	--	----

問31 あなたが自助グループや家族会に参加して、良かったことは何ですか。(○はいくつでも)

1	自分ひとりじゃないと思えた	7	参加すると気持ちが軽くなる
2	家族の回復のお手本となる人と出会った	8	同じ悩みを持つ家族の役に立てる
3	相談する人ができた	9	12ステップで生き方を変えられた
4	当事者のことが理解できるようになった	10	スポンサーシップが心強い
5	自分も回復できると思えるようになった	11	その他
6	同じ悩みを持つ仲間とのネットワークが広がった	12	特になし

以上で質問は終わりです。ご協力いただきありがとうございました。

記入もれはありませんか？ なるべくお早めに返信用封筒(切手不要)にてご返送ください。

「相談機関におけるギャンブル問題実態調査」調査項目一覧

設問番号	質問内容	選択肢番号													
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
説明	はじめに貴組織についてお答えください。														
1	貴組織の種類をお選びください。	保健所	児童相談所	市区町村の保健センター	福祉事務所	消費生活センター	司法書士総合相談センター	自殺対策推進センター(精保センター)	日本のちの電話連盟	日弁連多重債務対策本部	社会包摂サポートセンター	その他	その他FA		
2	貴組織のある都道府県をお選びください。	プルダウンリストから選択													
3	貴組織の施設名称(都道府県以下の名称、支所名、部署名等)をご入力ください。 ※特になければ、空欄のままご記入ください。	自由記載													
説明	次に、アンケートに回答して下さっている貴職についてお答えください。頂いた情報は、調査目的のみに使用し匿名化されます。個人情報公表されることはありません。														
4	あなたの役職について最も近いものを1つお選びください。	施設の代表・役員・管理者(所長やセンター長など)	部長(部局長・所属長など)	課長	係長・主任	一般(正規)職員	契約職員	パート・アルバイト	派遣社員	ボランティア	その他				
5	あなたの職種について最も近いものを1つお選びください。	医師	看護師	保健師	精神保健福祉士	心理職	司法書士	弁護士	社会福祉士	児童福祉司	社会福祉主事	ケースワーカー	相談員	事務員	その他
6	上記の職種の経験年数をお答えください。	数字で回答													
説明	<p>ここからは、貴組織におけるギャンブル問題の相談対応状況についてお答えください。</p> <p>【この調査で用いる用語の解説】</p> <p>「ギャンブル」とは…金銭や品物などの財物を賭けて偶然性の要素が含まれる勝負を行い、その勝負の結果によって賭けた財物のやりとりをおこなう行為である。日本国内における競馬、競輪、競艇などの公営ギャンブルのほか、海外のギャンブル(カジノ、ブックメーカー等)や、違法ギャンブル(裏カジノ、賭け麻雀等)などが含まれる。ここでは、パチンコ・パチスロも含む。</p> <p>「ギャンブル問題」とは…ギャンブル(パチンコ・パチスロを含む)を起因とした様々な問題に関する以下のようなことが含まれる問題のことをいう。</p> <p>① ギャンブルから抜け出せない(ギャンブルをやめられない、やめさせられない)ことに関する問題</p> <p>② ギャンブルにより生じた経済上(借金、働かないことによる生活困窮)の問題</p> <p>③ ギャンブルにより生じた家庭の問題(離婚、虐待、育児放棄)</p> <p>④ ギャンブルにより生じた人間関係上の問題</p> <p>⑤ ギャンブルにより生じた精神保健上の問題</p>														
7	貴組織に相談をされた方(相談者)に対して、ギャンブルの実施状況の確認を行うことがありますか。	相談者全員に状況確認を行っている	相談内容次第で状況確認を行っている	状況確認は行っていない	その他	その他FA									
8	【表示条件】(問9)で「相談者全員に状況確認を行っている」と答えた場合、ギャンブルの実施状況について、具体的にどのようなことを確認していますか。あてはまるものを全て選んでください。	ギャンブルの種類(ぱちんこや競馬などの種類)	ギャンブルの頻度	ギャンブルに使う金額	ギャンブルによる借金額	他機関等への相談状況	その他	その他FA							

9	貴組織において、これまでに、相談内容の背景に ギャンブル問題が関与していると思われる相談事例 を経験されたことはありますか。	ある	ない	わからない											
10	貴組織において、 ギャンブル問題が関与していると思われる相談 に対応する際、どのような機関を紹介しますか。次のリストからあてはまるもの全てを選んでください。	精神保健福祉センター	保健所	医療機関	市区町村の窓口	弁護士の相談窓口	司法書士の相談窓口	消費生活センター	民間依存症回復施設	自助グループ	家族会	警察	特に紹介はしていない	その他	その他FA
説明	<p>ここからは、貴組織における相談実績(相談件数)についてお尋ねします。</p> <p>貴組織における、令和元年度の 「別表A:新規に受付した相談の件数」※1 「別表B:別表Aで計上した相談のうち、ギャンブル問題が関与していると思われる相談の件数」についてご回答いただきます。</p> <p>※1「新規に受付した相談」について、各相談機関ごとに定義してあります。説明をよくお読みの上、集計値をご入力いただけますようお願いいたします。</p>														
11	<p>別表A:令和元年度(2019年1月1日～2020年3月31日)の期間、「新規に受付した相談」の実件数はいくつですか？年代、性別ごとにご入力ください。(別表Aの該当する項目に数値で入力)</p> <p>※「新規に受付した相談」とは、「各施設ごとの定義を挿入」のことです。</p>														
12	<p>別表Aで計上した相談のうち、「別表B:ギャンブル問題が関与していると思われる相談」※2の実件数はいくつですか？(別表Bの該当する項目に数値で入力)</p> <p>※2「ギャンブル問題が関与していると思われる相談」とは、別表Aで計上した相談のうち、相談の背景に「ギャンブル問題:ギャンブル(パチンコ・パチスロを含む)を起因とした様々な問題」が関与していると思われる相談のことです。</p>														
13	貴職が、 ギャンブル問題が関与していると思われる相談 に対応するとき、問題解決がどのくらい難しいと感じましたか。	全く難しい ない	あまり難しい くない	そこそこ難しい	とても難しい	極めて難しい									
14	<p>貴組織において、ギャンブル問題を抱える方に対応し、支援するには、どのようなことが必要とお考えでしょうか。自由にご意見をお聞かせください。</p> <p style="text-align: center;">自由記載</p>														

**令和2年度 依存症に関する調査研究事業
「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」報告書**

発行日 令和3年8月

編集・発行 独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター
〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5-3-1
<https://kurihama.hosp.go.jp/>

(照会先) 臨床研究部 TEL: 046-848-1550

印刷・製本 協和印刷工業株式会社



独立行政法人国立病院機構

久里浜医療センター